Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領



学修をすすめるために

単　位

1 単　位　制

大学における学修は、大学設置基準に定められた単位制に基づいて行っています。開講している授業科目には、一定の単位数を定めており、これらの授業科目の履修登録を行い、教室内および教室外において所定の時間を学修し、試験などに合格することによって単位を修得することができます。

2 単位の考え方

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を時間で表すものです。1 単位の学修時間は、授業時間とその授業のために準備（予習・復習）する教室外での自学自修時間を合わせて 45 時間となっています。したがって、単位の修得には単に授業を受けるだけでなく、予習・復習を行うことが単位を修得するための不可欠な要素であることを十分認識し、4 年間の学修を進めてください。

【本学以外の教育施設等における学修】

1．長期留学

長期留学に伴う認定科目は、授業時間 15 時間をもって 1 単位としますが、日本語教育実習を伴う認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位とします。

2．短期留学

短期留学の認定科目は、授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

3．キャリア教育プログラム

・国内でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間 45 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。 ただし、国内でのキャリア教育プログラムに講義・演習を伴うものについては、授業時間 30 時間をもって 1 単位とします。

・海外でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

4．海外日本語教育実習

海外日本語教育実習の認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

5．教育支援活動

教育支援活動の認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

【本学独自プログラム等における学修】

1．Community Engagement [国際貢献学部]

・国内での Community Engagement の認定科目は、授業時間 45 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

・海外での Community Engagement の認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

2．もっと京都プロジェクト

・もっと京都プロジェクトの認定科目は、授業時間 45 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

授　業

1 学　　期 (セメスター)

本学では、1年を春学期と秋学期の2学期に分けています。また、授業は学期毎に 14 週で完結する授業と春学期と秋学期を通して 28 週で完結する通年の授業があります。

●春学期：4月1日～9月 19 日　　●秋学期：9月 20 日～翌年3月 31 日

2 授業科目の開講形態

授業科目の開講形態は、「週 1 回授業」、「週複数回授業」の 2 つの形態があり、他に特定の期間に集中して行う「集中講義」があります。

3 授業時間

授業は 1 講時 100 分、1 日 6 講時（土曜日は 1 日 4 講時）で実施しています。各講時の授業時間は下のとおりです。

なお、定期試験期間中の試験時間は異なりますので、42 ページを参照してください。

月曜日～金曜日

講時	時間
1 講時	9：10 ～ 10：50
2 講時	11：00 ～ 12：40
3 講時	13：50 ～ 15：30
4 講時	15：40 ～ 17：20
5 講時	17：50 ～ 19：30
6 講時	19：40 ～ 21：20

土曜日

講時	時間
1 講時	9：00 ～ 10：40
2 講時	10：50 ～ 12：30
3 講時	13：20 ～ 15：00
4 講時	15：10 ～ 16：50

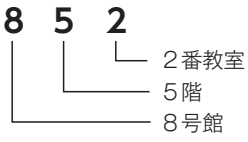
（注）4 講時と 5 講時の間の休憩時間は 30 分間あります。

4 教　　室

授業を行う教室には、教室番号を表示しています。

教室は試験などにより変更することがありますので、Kyoto Gaidai UNIPA で確認してください。

教室番号の仕組み



5 休　　講

本学または担当教員のやむを得ない理由によって授業を行えない場合は休講とし、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせしますので、こまめに確認するようにしてください。

なお、電話・メールでの問い合わせは受け付けません。

6 補　　講

授業が休講となった場合、授業時間とは別に日時を定めて補講が行われます。補講は所定の補講日以外に、月～金曜日の 5・6 講時や土曜日の 1 ～ 4 講時等に行います。日時、教室等は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

7 交通機関の不通、暴風警報・特別警報発令時における授業・定期試験の取り扱い

(1) 交通機関が不通の場合

次の指定したいずれかの交通機関の区間（一部の区間の場合は対象外）が不通の場合は、休講とします。
なお、対象となる交通機関･区間および運行が再開された場合の授業･定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

対象となる交通機関・区間		
	JR	米原―西明石区間
	京都市バス・京都市営地下鉄	全区間
	京阪電車	淀屋橋（中之島）―出町柳区間
	阪急電車	神戸三宮―大阪梅田―京都河原町区間
	近鉄電車	京都―橿原神宮前区間
交通機関の運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授　業	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1講時（午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時）から授業を行います。
	午前 11 時までに運行再開の場合	3講時（午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分）から授業を行います。
	午後 3 時までに運行再開の場合	5 講時（午後 5 時 50 分）から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても不通の場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時（午前 9 時 30 分）から定期試験を行います。
	午前 6 時 30 分を過ぎても不通の場合	定期試験は行いません。

(2) 暴風警報が発令された場合

予報1次細分区域における京都府南部、あるいは予報2次細分区域における南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれかの地域に暴風警報が発令された場合は、休講とします。
なお、同警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

暴風警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授　業	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1講時（午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時）から授業を行います。
	午前 11 時までに解除の場合	3講時（午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分）から授業を行います。
	午後 3 時までに解除の場合	5 講時（午後 5 時 50 分）から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時（午前 9 時 30 分）から定期試験を行います。
	午前6時30分を過ぎても解除されない場合	定期試験は行いません。

(3) 特別警報が発令された場合

上記（2）の暴風警報発令により休講とする地域に特別警報が発令された場合、発令された段階で休講とします。
発令が授業中の場合も同様としますが、休講後の帰宅等については、周囲の状況を確認し、本学の危機管理マニュアルに基づき指示します。

(4) 上記の交通機関または地域以外で不通・暴風警報・特別警報の影響を受けた学生は、担当教員にその事情を申し出てください。

(5) 上記の取り扱いにかかわらず、自然災害等の状況によって、別途の措置を講ずる場合があります。

8 授業の出席



履修登録をした授業は毎回出席することが当然のことであり、成績評価において出席点というものはありません。授業にすべて出席したからといって単位修得は保証されませんが、実質授業回数の3分の2（10回）以上の出席を、その授業科目の単位修得に必要な最低限の要件とします。ただし、この3分の2（10回）以上の出席とは、忌引や病気等のやむを得ない理由による欠席を考慮してのことであり、3分の1(4回)まで欠席してもよいということではありません。日々の生活習慣・健康管理に気をつけて欠席しないようにしてください。

なお、本学では学期毎に必修科目について欠席の多い学生の調査を行い、当該の学生に対してアカデミック・アドバイザーが面談を行っています。

また、各授業における出欠は、学生各自のスマートフォンを使って確認します。スマートフォンを持っていない場合の確認方法は、担当教員の指示に従ってください。各授業の出欠状況は Kyoto Gaidai UNIPA の「学生出欠状況確認」で確認することができます。万一、出欠状況に誤りがある場合は、担当教員が修正しますので、当該学期の授業期間内に担当教員へ申し出てください。

※実技・実習の授業科目については、「出欠」の取り扱いに多少の差異がありますので、担当教員の指示に従ってください。

※Kyoto Gaidai UNIPAの「学生出欠状況確認」は、当該学期にのみ確認することができます。必要な場合は各自データ等で保存してください。

9 授業の欠席



本学には、欠席届（公欠届を含む。）がありません。忌引や病気等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、事前または事後に学生本人が担当教員へ連絡してください。ただし、学生は講師控室への入室はできませんので、注意してください。

○学校感染症に罹患した場合の取り扱い

学校感染症（新型コロナウイルス、インフルエンザ等）と診断された場合は、学校保健安全法に基づき、授業の出席停止の措置を行いますので、速やかに保健室に報告し、指示を受けてください。提出書類として「診断書」もしくは「学校感染症罹患・治癒証明書」が必要です。※報告がないまま登校を再開するなど、事後での報告については、出席停止の措置は行いません。必ず発症時に連絡をしてください。

出席停止期間中の欠席については、履修上不利益にならないよう配慮を依頼します。欠席した授業に関する対応は、各自で授業担当教員へ連絡し指示を確認してください。

※学校感染症による欠席は UNIPA「出席管理」上では「欠席」と表記されます。

なお、保健室への報告方法については 207 ページで確認してください。

○裁判員選任等に伴う授業の欠席の取り扱い

裁判員制度により、学生が裁判員候補者として裁判所に出向く場合および裁判員候補者として裁判所に出向き、裁判員または補充裁判員に選ばれた場合に授業を欠席する際は、事前に教育支援課で指示を受けてください。

10 教員への連絡等

授業担当教員への連絡・授業に関する質問は、授業期間内に学内、本学発行の Gmail でメールまたは Kyoto Gaidai UNIPA の「クラスプロファイル」等で行ってください。

なお、修学や学生生活に関する質問は、アカデミック・アドバイザー制度（専任教員）を利用してください。（27 ページ参照）

11 シラバス（講義概要）

各授業科目の内容は、シラバス（Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」）に掲載しています。シラバスには、各授業科目の到達目標をはじめ、開講年度学期や担当教員名、単位数、週ごとの授業計画、評価方法（平常試験、定期試験等）、教科書・参考文献などが載っています。ただし、授業の進度や到達具合によってシラバスの内容と異なる場合がありますので、最終的な授業の進め方や内容については、授業担当教員の指示を受けてください。

12 TA制度・SA制度

授業内での学生に対するきめ細やかな指導の充実を図るため、授業担当教員の指導のもと大学院生（ティーチング・アシスタント［TA］）や学部生（ステューデント・アシスタント［SA］）が授業の補助をすることがあります。

試　験

1 平常試験（オンライン試験を含む）

担当教員が授業時間内に行う試験で、小テスト、オーラルテストおよびリポート提出等が含まれています。実施日や時間、持ち込みの可否、遅刻者の取り扱い等は、担当教員の判断のもとに実施します。事前に一切の情報を与えずに授業時間内に実施することもありますので、普段から授業に出席して平常試験に対応できるようにしておいてください。

また、平常試験は、後載の「追試験」の対象とはなりませんので、忌引や病気等で平常試験が受験できない場合は、必ず事前または事後に学生本人がその事情を担当教員へ申し出て指示を受けてください。

なお、リポート等の提出物は必ず担当教員に直接渡してください。

2 定期試験

各学期終了後の本学が指定する期間に行う試験で、対象となる授業科目はシラバスで確認してください。試験時間は右のとおりで、時間割等の詳細はKyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

〔定期試験の試験時間〕

講 時	時 間	講 時	時 間
1講時	9：30 ～ 10：30	5講時	15：40 ～ 16：40
2講時	10：50 ～ 11：50	6講時	17：00 ～ 18：00
3講時	13：00 ～ 14：00	7講時	18：20 ～ 19：20
4講時	14：20 ～ 15：20	8講時	19：40 ～ 20：40

〔定期試験受験上の注意〕

1	当該学期の学費を納入していない人は、受験できません。
2	履修登録していない授業科目は、受験できません。
3	指定された試験場で受験してください。
4	学生証（科目等履修生・単位互換履修生は身分証）を机上に提示しなければ、受験できません。 学生証不携帯の人は、学生生活課で「仮学生証」の交付を受けてください。
5	遅刻者の受験は、試験開始後 20 分以内に限り認め、それ以後は認めません。 なお、遅刻して試験場に入室する際には、学生証を監督者に提示し、指示に従ってください。
6	重複科目は、必ず所定の手続きを行ってください。（下記参照）
7	試験場でスマートフォン・携帯電話・電子手帳等を時計あるいは情報機器として使用できませんので、 持ち込んだ場合は電源を切り、机上には置かないでください。
8	試験場では監督者の指示に従ってください。
9	試験用紙が配布されたら、直ちに年次・学籍番号・氏名および授業の受講曜講時を記入してください。 なお、年次・学籍番号・氏名の記入がない場合は、当該科目の答案を無効とします。
10	答案の提出は、試験開始後 20 分以降とします。
11	以下の不正行為と疑われる行為を行った人が、教授会での審議の結果、当該不正行為を行ったと認められた場合、京都外国語大学試験に関する規程第 9 条第 2 項の規定（懲戒処分については京都外国語大学学則第 69 条第 1 項の規定、成績評価については京都外国語大学・京都外国語短期大学試験等における不正行為の処分基準）により処分します。 ①他の受験者の答案の覗き見をした人 ②問題・答案用紙配布後に話し合いをした人 ③答案を他の受験者に見せる、口伝えした人 ④使用可の資料、携帯電話、その他の電子機器等の貸借をした人 ⑤不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない人 ⑥資料持込み不可の試験でカンニングペーパーを使用した人 ⑦机上への書き込みをした人 ⑧資料持込み不可の試験でテキスト・ノート等の閲覧をした人 ⑨資料等使用可の試験で許可されたもの以外の資料、携帯電話、その他の電子機器等の使用をした人 ⑩許可されていない機器（携帯電話・その他の電子機器等）の持込み、使用をした人 ⑪答案用紙の交換（行為の内容により⑬⑭に該当）をした人 ⑫組織的なカンニング行為をした人 ⑬依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用）をした人 ⑭答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出した人

※定期試験受験上の注意は、平常試験、追試験等他の試験にも適用します。

〔定期試験での重複科目の取り扱い〕

試験時間割の関係上、同一曜講時に受験科目が2科目以上重なった場合は、以下のとおり取り扱います。

⑴ 重複科目がある場合は、必ず定期試験開始日の前日までに教育支援課に願い出て所定の手続きを行ってください。
手続きを行わない場合は、いずれの科目も受験することができません。

⑵ 所定の手続きを行った人に対し、教育支援課から重複科目の受験順位および試験場を指示します。

⑶ 重複科目の受験手続きを行った人は、試験場でその旨を監督者に申し出て、指示に従ってください。

⑷ 重複科目の試験時間は、 1科目 60 分とします。

3 追試験

定期試験を次の７項目の理由で受験できなかった人を対象に行う試験で、本学が指定する日に行います。

	理由	提出書類		
1	天　災	罹災証明書		
2	交通事故	診断書または事故証明書		
3	病　気	診断書		
4	教育実習・博物館実習・介護等体験	証明できる書類		
5	就職試験・会社訪問	受験証明書または訪問を証明する書類		
6	裁判員選任等	裁判所発行証明書		
7	忌引・その他やむを得ない事由	保証人またはこれに代わる人による理由書		
		忌引の日数	父母・配偶者	７日以内
			子	５日以内
			祖父母・兄弟姉妹	３日以内
			曾祖父母・伯叔父母・甥・姪	１日

※平常試験に対する追試験は行いません。

〔受験申請方法〕

所定の追試験受験願に必要事項を記入・押印し、証明書・診断書または理由書を添付して、定期試験開始日から定期試験終了日の翌日（翌日が日曜日・祝日の場合は翌々日）の午後5時までに別に定める受験料を添えて、教育支援課へ願い出てください。

ただし、理由の如何によっては追試験の願い出を受付けないことがあります。

4 学科総合試験 <外国語学部生対象>

ポルトガル語およびロシア語について１月に行う試験です。この試験で言語ごとに定められた基準（点数）を満たすことで、専門科目（選択）のインターミディエイト・アドバンストレベルの授業科目を履修できるようになります。ポルトガル語の学科総合試験は他学科の学生も受験することができますが、ロシア語の学科総合試験はロシア語学科生のみを対象としています。

ブラジルポルトガル語学科以外の外国語学部生が、ポルトガル語の学科総合試験を受験し、インターミディエイトまたはアドバンストの履修基準を満たした場合、ブラジルポルトガル語学科の専門科目（選択）の当該レベルの科目を履修できるようになります（修得した単位は自由選択に算入）。

成績評価および単位認定

1 成績評価の方法

成績評価は、担当教員がシラバス（講義概要）に記載している評価方法に基づいて行います。
なお、成績評価において出席点というものはありません。

2 成績評価の基準

成績評価は 100 点満点で評価し、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とします。
なお、以下のいずれかに該当した場合はF (失格) 評価とします。

F （失格）評価になる場合
■ 出席不足（原則として授業科目の実質授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要）で、かつ点数評価に不可欠なリポートの未提出または試験の未受験により、履修放棄とみなした場合
■ ゼミナール科目の受講者が卒業論文または卒業研究を提出しなかった場合、あるいは提出しても点数による評価が不可能な場合
■ 教授会において不正行為を行ったと判定した場合 (不正行為の内容に応じて当該科目または当該学期の全受講科目および通年の全受講科目)

3 通年科目（専門科目<必修>）の成績評価

・外国語学部（英米語学科および日本語学科を除く）の通年科目「総合〇〇語」（1・2 年次配当）は、当該言語の総合的な運用能力の修得を目標とする授業であるため、一部の言語運用能力が到達目標に達していない場合は、不合格とします。
・「総合〇〇語」（1・2 年次配当）の出席は、週〇回（回数は学科により異なる）全体ではなく、原則として、各学期の各曜講時の授業をそれぞれ1授業として取り扱います。したがって、特定の曜講時の授業において、出席不足（当該授業回数の3分の2以上の出席が必要：各学期の各曜講時の授業において 10 回以上の出席が必要）で、かつ、点数評価に不可欠なリポートの未提出または試験の未受験により、当該曜講時の授業の履修放棄とみなした場合、「総合〇〇語」全体の履修放棄とみなし「F（失格）」評価とします。
・秋学期に休学したことにより、通年科目（「総合〇〇語」、「〇〇語文法」など）を春学期しか履修できなかった場合は、当該春学期に履修したすべての通年科目の履修登録を取り消し、成績評価は行いません。
・ロシア語学科の「総合ロシア語Ⅰ」の単位修得には、秋学期末にロシア語学科が実施する試験（TORFL 検定試験初級レベル相当）に合格する必要があります。
また、「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得には、秋学期末にロシア語学科が実施する試験(TORFL 検定試験基礎レベル相当)に合格する必要があります。

4 成績評価の表記

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA には素点と評価記号で、「成績証明書」には右表の評価記号で表記します。

また、**本学では不合格科目も表記しますので、履修を中止する場合は、所定の期間に必ず取り消してください。**取り消した授業科目は登録が削除され、成績表および成績証明書には記載されません。

なお、本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修に対する成績評価の表記は、46 ページを参照してください。

成績評価（素点）	評価記号	
100 点 ～ 90 点	A+	合　格
89 点 ～ 80 点	A	
79 点 ～ 70 点	B	
69 点 ～ 60 点	C	
59 点 ～　0 点	D	不合格
失格	F	

5 成績の発表

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA に累積して表示します。

春学期の成績は 9 月上旬に、秋学期の成績は 2 月下旬に Kyoto Gaidai UNIPA で発表します。各学期の成績発表日時は Kyoto Gaidai UNIPA 等でお知らせしますので、所定の時期に単位の修得状況を必ず確認してください。

なお、各学期に発表される成績を確認するためには、「学修振返り＋学生アンケート」を Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」に入力する必要があります。「学修振返り＋学生アンケート」が未入力の場合は、保証人も成績を確認することができません。

6 GPA (Grade Point Average)



GPA とは、単位あたりの成績評価の平均を数字で表したものであり、履修登録した全科目（資格課程に関する授業科目は除く）が対象となります。不合格科目（例えば、取消の手続きをせずに履修を放棄した科目など）がある場合は GPA が下がります。

なお、GPA の算出方法は、以下のとおりです。

Grade	Score	Point
A⁺	100 ～ 90	4.0
A	89 ～ 80	3.0
B	79 ～ 70	2.0
C	69 ～ 60	1.0
D	59 ～ 0	0
F (失格)	————	0

$$GPA = \frac{(A^{+}\text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (\text{A科目の}\cdots) + (\text{B科目の}\cdots) + \cdots}{\text{総登録単位数 (全科目の単位数の合計)}}$$

※単位認定（N、T1、T2）の成績評価は、GPA の算出に含みません。

※通年科目の成績評価は秋学期に行われるため、春学期の成績発表後の GPA には通年科目を含みません。

7 単位修得不足および成績不振の学生に対する措置

外国語学部および国際貢献学部では、入学後の在学 2 学期間の卒業要件の GPA（通算）が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 16 単位未満の学生、また、入学後の在学 3 学期間の卒業要件の GPA（通算）が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 24 単位未満の学生に対して、所属学科が修学指導を行います。

なお、入学後の在学 4 学期間の卒業要件の GPA（通算）が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 32 単位未満の学生は、学則第 42 条第 1 項第 5 号および第 2 項の定めにより、勉学継続の意欲がないものとして「除籍」します。ただし、特別な理由があり、所属学科が勉学継続の意欲があると判断した場合は、「除籍」の措置をとらない場合があります。

7 本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定

入学前に他の大学等で修得した単位、在学中に他の大学や大学以外の教育施設等で修得した単位および本学独自のプログラム等で修得した単位を、以下のとおり認定します。なお、**単位認定の時期は、教授会で認められた学期・年度とし、成績表に記載します。**

また、申請方法および単位認定の詳細については当該プログラムのページを参照してください。

1. 本学以外の教育施設等の学修成果に対する単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限	
N	本学に入学する前に本学及び他大学等の授業科目を履修し修得した単位(新入生対象)	科目対科目の振替認定	認定した科目の科目区分	30	60
	派遣留学・認定留学・国内交換留学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	26(1学期間) 48(2学期間)	
	短期留学(本学主催プログラム)	短期留学	全学共通科目(教養科目)	4	
	海外研修 (本学推奨プログラムを含む)				
	・本学主催のキャリア教育プログラム(国内外) ・海外・国内フィールドワーク ・エアラインスタディプログラム ・大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラム	キャリア形成支援プログラム ※		4	
	海外日本語教育実習　[日本語学科]	海外日本語教育実習	専門科目(選択)[日本語学科]	4	
	・学校教育支援活動 ・日本語教育支援活動	教育支援活動	全学共通科目(教養科目)	2	
	京都外国語短期大学の科目等履修科目	科目等履修科目		12	
	大学コンソーシアム京都の単位互換制度	大学コンソーシアム京都科目		12	
	外国語技能検定試験	外国語技能検定試験(専攻語)	専門科目(選択)[外国語学部]	2	
		外国語技能検定試験(専攻語以外)	全学共通科目(教養科目)[外国語学部・国際貢献学部]	2	
	・ITパスポート試験 ・基本情報技術者試験	情報処理検定試験	全学共通科目(教養科目)	2	

※文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」におけるタイプ2（キャリア教育）およびタイプ3（汎用型能力・専門活用型インターンシップ）のプログラムを対象とする。

2. 本学独自プログラム等の学修成果に対する単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限
T2	Community Engagement [国際貢献学部]	Community Engagement	専門科目(選択)[国際貢献学部]	4
	もっと京都プロジェクト	もっと京都プロジェクトA	全学共通科目(教養科目)	4
		もっと京都プロジェクトB		
	シーズンスポーツ	シーズンスポーツ		2　※
	E-Learning(Tutorial Studies)	E-Learning(Tutorial Studies)		1
	教育実習　[外国語学部]	教育実習1	資格課程科目	2(卒業要件外)
		教育実習2		2(卒業要件外)

※全学共通科目（教養科目）のテクニカルスポーツA（2単位）およびテクニカルスポーツB（2単位）を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定とする。

3. 編入学・再入学に伴う単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限
T1	編入学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	32または34(2年次編入) 62または64(3年次編入) ※
	再入学	退学・除籍前に合格した科目	認定した科目の科目区分 ※再入学の年次の教育課程による。	—

※京都外国語短期大学および京都外国語専門学校からの編入学において、2年次編入については34単位を、3年次編入については64単位を、単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限とする。

日本語非母語話者（日本語を母語としない学生）の履修登録等

国籍を問わず日本語の運用能力の向上が必要であると本学が判断する学生を対象にした「日本語非母語話者（以下、日本語を母語としない学生）」用の日本語科目等を設けています。日本語を母語としない学生が履修できる授業科目等については、以下のとおりです。

これらの授業科目を履修登録する方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」で確認してください。

1 日本語を母語としない学生

『入学手続のしおり』で案内するオンライン手続により、ランゲージセンターが該当予定者に対して実施する「日本語能力診断テスト」の結果に基づき、入学後に日本語の運用能力の向上が必要であると本学が判断した人を「日本語を母語としない学生」とします。ただし、外国人留学生入学試験で入学した学生については、「日本語能力診断テスト」を受験していない場合でも「日本語を母語としない学生」と判断します。

＜「日本語を母語としない学生」の確認方法＞

日本語を母語としない学生と判断された場合は、Kyoto Gaidai UNIPA「学籍情報照会」の「留学生（留学生以外の日本語非母語話者含む）」欄に「留学生」と表示されます。

＜入学前に日本語能力診断テストを受験しなかった人へ＞

入学後にアカデミック・アドバイザーや所属学科から日本語学習を促された場合は、ランゲージセンターからの案内に基づき日本語能力診断テストを必ず受験してください。テストの結果、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した場合は、翌学期から「日本語を母語としない学生」として取り扱います。

2 日本語を母語としない学生のための授業科目

日本語を母語としない学生と判断された人は、配当年次にしたがって、以下の授業科目を履修することができます。

＜外国語学部＞

科目区分	授業科目	科目の履修について
全学共通科目（外国語科目）	日本語A～J	学生の所属学科や日本語のレベルに応じて受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修を優先してください。
学部導入科目	基礎ゼミナール（日本語を母語としない学生用） ※日本語を母語としない学生用は春学期のみ開講	受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。
全学共通科目（教養科目）「言語」領域	ビジネス日本語A・B 日本語能力試験N1対策A・B	授業のレベルなどシラバスの内容をよく確認し、履修を希望する場合は履修登録期間に登録してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。
日本語学科・専門科目（選択）	ブラッシュアップ日本語A～F アカデミック日本語A～F ※日本語学科生以外も履修できます。 （修得単位は自由選択に算入）	**日本語学科生** 受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。 **日本語学科生以外** 受講を希望する場合は、履修登録期間に教育支援課に相談してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修を優先してください。

＜国際貢献学部＞

科目区分	授業科目	科目の履修について
全学共通科目（外国語科目）	日本語A～H	学生の所属学科や日本語レベルに応じて受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。 ※グローバルスタディーズ学科生が履修を取り消したい場合は、履修登録期間または履修登録科目の取消期間中に教育支援課に相談してください。
全学共通科目（教養科目）「言語」領域	ビジネス日本語A・B 日本語能力試験N1対策A・B	授業のレベルなどシラバスの内容をよく確認し、履修を希望する場合は履修登録期間に登録してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。
グローバル観光学科・専門科目（選択）	社会科学のための日本語A～D ※グローバルスタディーズ学科生も履修できます。 （修得単位は自由選択に算入）	

外国語学部



卒業要件

4年（8学期）在学し、以下の授業科目区分に従って、124 単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。学生本人の責任において綿密な履修計画を立て、学期毎に単位修得状況を確認し、卒業要件を満たすようにしてください。

授業科目区分			卒業要件単位数											
			英米語学科		スペイン語学科	フランス語学科	ドイツ語学科	ブラジルポルトガル語学科	中国語学科		日本語学科	イタリア語学科	ロシア語学科	
			通常コース	ダイヤモンドコース（注3）					通常コース	既修者コース（注4）			通常コース	特修コース（注4）
学部導入科目			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
専門科目	必修		54	74	56	68	64	68	56	40	24	58	62	42
	選択必修		4 ※											
	選択（注1）	言語（英米語学科はキャリア）	12 ※	20	24 ※	12 ※	16 ※	12 ※	24 ※	40 ※	56 ※	22 ※	18 ※	38 ※
		地域研究	10 ※											
ゼミナール科目			8		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
全学共通科目	外国語科目		4 ※	4	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※
	教養科目		24 ※	22	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※
自由選択（注2）			4		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計			124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124

（注1）選択科目（英米語学科通常コースは選択科目〈キャリア〉領域）の卒業要件単位数には、所属学科配当のインターミディエイト以上の科目（単位認定科目を含む）の2単位を含めて修得する必要があります。したがって、エレメンタリーの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位数を充足することはできませんので、充分注意してください。（英米語学科ダイヤモンドコース、日本語学科を除く。）

（注2）自由選択は、※印を付した授業科目区分（専門科目（選択必修）、専門科目（選択）、全学共通科目）の中で卒業に必要な単位数を超えて修得した単位および外国語学部の所属学科以外の学科の専門科目（選択）の授業科目を履修し修得した単位が算入されます。

（注3）英米語学科ダイヤモンドコース（定員20名）は、1年次終了時に募集を行い、応募学生を選考のうえコース認定者を決定します。認定者は2年次春学期からコースに所属することになります。応募要件等は募集要項等でお知らせします。
なお、当該コースに所属した後は、通常コースに戻ることはできません。

（注4）中国語学科既修者コースおよびロシア語学科特修コースは、1年次入学時に一定の当該言語の運用能力を備えた学生を対象としたコースで、入学時に事前に申請した人に対して当該学科が独自にテストを行い、その結果等によりコース認定者を決定します（2年次および3年次編入学生は申請できません）。認定者は1年次春学期から所属することになります。
なお、当該コースに所属した後は、通常コースに戻ることはできません。

卒業判定

4年次生を対象に、在学中に修得した単位数および在学年月数に基づき、年度末（3月卒業）および春学期末（9月卒業）に卒業判定を行います。

なお、4年（8学期）在学し、上記の「卒業要件」の表に定められた授業科目区分毎に所定の単位を修得し、合計124単位以上を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 3月卒業

判定結果は**「卒業」**または**「留年」**のいずれかとなります。
判定結果発表は2月下旬～3月上旬にKyoto Gaidai UNIPAの「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

2. 9月卒業

上記「1. 3月卒業」で「留年」になった人が対象となります。

判定結果は**「卒業」**または**「留年」**のいずれかとなります。
判定結果発表は9月上旬にKyoto Gaidai UNIPAの「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

※判定結果「留年」には、①在学年月数が4年（8学期）未満の学生で修業年限が不足している「留年」と、②在学年月数が4年（8学期）以上の学生で卒業要件単位数が不足している「留年（卒業延期）」の2種類があります。

履修登録

履修登録とは、**学生本人の責任において**自らが、履修する授業科目を決定し、所定の期間に行う手続きのことです。

履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目の受講や、試験を受けることができず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、**履修登録をする際には、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」内の授業科目時間割およびKyoto Gaidai UNIPAの「シラバス照会」を大いに活用し、科目区分、単位数、開講学期、使用される言語、授業の内容、評価基準等をしっかり確認してください。**

※履修登録を行うには、Kyoto Gaidai UNIPAの「マイステップ登録」で、学修目標等の入力が必須です。必ず所定の期間に必要事項を入力してください。

＜履修の手引き・履修登録日程・抽選科目リスト・Webシラバス＞

1 履修登録の時期

春学期は３～４月（新入生は４月）、 秋学期は９月の所定の期間に登録してください。

なお、通年科目の登録は春学期の所定の期間に限ります。

※年度により、春学期の履修登録を３月に行わない場合があります。

2 履修登録の方法

Kyoto Gaidai UNIPAの「履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間に登録できない場合は、必ず事前に学生本人が教育支援課へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数および学修の質を確保するため、学期毎および年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。学期毎の単位数が上限単位数内であっても年間の上限単位数を超えて履修登録をすることはできません。（例えば、卒業要件（通算）のGPAが2.7未満の人が春学期に26単位履修登録した場合、秋学期に履修登録できる上限の単位数は22単位となります。）

春学期	秋学期	年 間	備 考
26	26	48	• 資格課程に関する授業科目は含みません。 • 卒業要件（通算）のGPAが2．7以上の場合は、上限を超えて履修登録することができます。 • 通年科目は、単位数の半分を春学期・秋学期それぞれの学期の履修登録単位としてカウントします。

4 全学共通科目（外国語科目）の登録

外国語科目の登録方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」で確認してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

習熟度別クラスまたは指定クラスをKyoto Gaidai UNIPAの「学籍情報照会」で確認のうえ、該当する授業科目を「履修登録」で登録してください。再履修等によりクラス（担当者）変更が必要な場合は、授業開始までに実施する「履修登録相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録してください。**

ただし、履修条件を設けている授業科目を除き、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

（例えば、1年次生は2年次配当の授業科目は登録できませんが、4年次生は1～3年次配当の授業科目を登録できます。）

7 抽選科目の登録

選択科目には、授業内容および教室設備等の関係で登録者数を制限するため、抽選を行う科目があります。履修を希望する場合は、自身の必修科目やゼミナール科目の曜講時を確認のうえ、所定の申請期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「抽選希望登録」で申請してください。ただし、**当選した科目については、履修の取消を認めません**ので、注意してください。対象科目は、各学期の履修登録開始前に本学ホームページに掲載する「抽選科目一覧」を参照してください。

8 履修登録の相談等

履修登録の相談等は、教育支援課で行っていますので、学生証を持参し、相談に来てください。問い合わせ内容によっては、電話やメールではお答えできない場合があります。

また、履修登録期間に合わせて、対面での相談期間を設けていますので、利用してください。

なお、休学、留学をすることで履修計画に関する不明な点がある場合は、早めに相談してください。

9 履修登録の確認

誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了してください。

なお、履修登録を完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管しておいてください。また、**履修登録完了後に、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、登録した科目が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。**

10 履修登録科目の取消

履修登録し授業に出席した後に履修を中止する場合は、**必修科目（ゼミナール科目を含む）および抽選科目を除き**、各学期の所定の期間に **Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」**で、履修の取消をすることができます（卒業年次は卒業要件を満たす範囲内）。ただし、別の授業科目の追加や、履修を取り消した授業科目の再登録を当該の学期中に行うことはできません。

また、履修登録科目の取消が完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管するとともに、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、取消内容が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

なお、履修を取り消した授業科目は、GPA を算出する対象科目とはなりません。

11 その他の注意事項

・所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
・履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません（履修エラーに該当する授業科目を含む）。
・同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
・単位を修得済みの授業科目は登録できません。
・授業担当者が異なっていても同一科目を複数登録することはできません。

科目区分毎の目標

英米語学科

学部導入科目			論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目	必修		専攻する言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の４技能を総合的に修得することにより、その運用能力を高めることを目標とします。
	選択	キャリア	将来のキャリアを見据えて、特定の業種、職種で要求される技能を、語学力や専門知識を含めて高めるとともに、進路についてのビジョンを形成することを目標とします。
		地域研究	専攻する言語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目			所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、４年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。
全学共通科目	外国語科目		専攻する言語以外の外国語を学ぶことにより、複言語運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。
	教養科目		地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

スペイン語・フランス語・ドイツ語・ブラジルポルトガル語・中国語・イタリア語・ロシア語学科

学部導入科目			論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目	必修		専攻する言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の４技能を総合的に修得することにより、その運用能力を高めることを目標とします。
	選択	言語	専攻する言語について、４技能をさらに伸ばし、より実践的な運用能力を高めるとともに、ハイレベルな各種語学検定試験にも合格することを目標とします。
		地域研究	専攻する言語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目			所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、４年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。
全学共通科目	外国語科目		専攻する言語以外の外国語を学ぶことにより、複言語運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。
	教養科目		地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

日本語学科

学部導入科目		論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目	必修	日本語を体系的に学び、「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の４領域を総合的に修得することにより、日本語教員・国語教員・日本文化の紹介者等として活躍するための基礎的な知識の修得を目標とします。
	選択	日本語が用いられている地域や日本語学習者の存在する地域に関して文化、文学を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目		所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、４年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	外国語を学ぶことにより、その運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。
	教養科目	地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

外部の語学検定試験（アセスメント）の受験　〈英米語学科・日本語学科を除く〉

外国語学部（英米語学科・日本語学科を除く）の学生のみなさんは、専攻語の運用能力の到達度をはかるため、卒業するまでの間、必ず各年度に1回は本学が指定する外部の語学検定試験（一部、学科総合試験）を受験してください。

受験した外部の語学検定試験（各年度に1回）は、後援会の語学検定試験受験料助成（各年度に2回）とは別に、本学が受験料を助成します。各学科における助成対象の語学検定試験については、以下「2．受験料の助成対象となる検定試験」のとおりですが、各学科において統一して一定の時期の到達度をはかるため、原則として、以下「1．受験を義務付ける検定試験の種類および実施時期」の検定試験を受験してください。

なお、外部の語学検定試験の受験機会が少ない等の理由による対応については、「1．受験を義務付ける検定試験の種類および実施時期」の欄外を確認してください。

また、検定試験の結果については、合否やスコアの高低にかかわらず、必ず Kyoto Gaidai UNIPA「Web 申請」から申請し、アカデミック・アドバイザーから承認を受けてください。

1. 受験を義務付ける検定試験の種類および実施時期

当該検定試験実施団体のホームページ等により試験日程や申込期間等を確認し受験してください。

学　科	検定試験の種類	実施時期 ※試験日程が変更される場合があります。
スペイン語学科	DELE	11 月
フランス語学科	**【1 年次】**実用フランス語技能検定	11 月
	【2～4 年次】DELF・DALF	6 月
ドイツ語学科	**【1・2 年次】**Goethe-Zertifikat	11 月下旬～ 12 月初旬
	【3・4 年次】ドイツ語技能検定	6 月
中国語学科	HSK（筆記）	9 月
イタリア語学科	実用イタリア語検定試験	10 月

※ブラジルポルトガル語学科生は、専攻語の外部の語学検定試験の受験機会が少ないため、年度末（1 月）にブラジルポルトガル語学科が実施する学科総合試験（無料／4 技能）を必ず受験してください。
また、できる限り助成対象となる外部の語学検定試験も受験するようにしてください。

※ロシア語学科生は、現在、TORFL 検定試験の受験機会が少ないため（現在、東京のみで受験者数を制限して実施）、年度末（1 月）にロシア語学科が実施する学科総合試験（無料／4 技能）を必ず受験してください。ただし、TORFL 検定試験を受験した場合は受験料を助成します。

※留学中あるいは休学中の受験は義務付けませんが、受験料の助成対象となる外部の語学検定試験を受験した場合は、受験料助成の対象とします。

※上記の内容については、諸事情により変更する場合があります。変更する場合は、Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。

2. 受験料の助成対象となる検定試験

受験結果が当該年度 3 月 10 日（9 月卒業予定者は当該年度の 9 月 10 日）までに出ている試験に限り当該年度の助成対象とします。

学　科	検定試験の種類
スペイン語学科	DELE
	スペイン語技能検定試験
フランス語学科	実用フランス語技能検定
	DELF・DALF
	TCF
ドイツ語学科	Goethe-Zertifikat
	ドイツ語技能検定
ブラジルポルトガル語学科	外国語としてのポルトガル語検定試験（CAPLE）
中国語学科	HSK（筆記）
イタリア語学科	実用イタリア語検定試験
	CILS
	CELI
ロシア語学科	TORFL 検定試験

3. 検定試験受験後の受験料助成申請

受験料助成の申請方法については、本学ホームページ「語学検定試験受験料助成（アセスメント）」を確認してください。

なお、検定試験の結果と支払金額のわかるもの（領収書・振込明細など）が受験料助成に必要ですので、必ず保管しておいてください。

詳細はこちら

4. 試験結果の申請（UNIPA「Web 申請」）

専門科目（選択）の履修基準の申請と同期間・方法で行います（88 ページ参照）。アセスメント試験については、不合格でも申請が必要です。不合格の場合は、「●●（不合格）」の選択肢を選んでください。

5. 申請受付担当部署

教育支援課（1 号館 1 階）
email: kyomu@kufs.ac.jp

英米語学科ダイヤモンドコース　〈英米語学科1年次生対象〉

英米語学科では、経営学・経済学やデータ科学といったVUCA※時代が求める素養を培う科目群に加え、海外の協定大学への学部留学も必修化した「ダイヤモンドコース」を開設しています。本コースは1年次終了時に選考を行い、2年次からスタートします。卒業後には、外資系を含む有名企業や外務省専門調査員・外交官、世界ランキング上位の国内外有名大学院など、世界が求める人材として社会に羽ばたいてもらうことを目的としています。

1年次生を対象としたダイヤモンドコースの説明会の日程については、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。説明会では、ダイヤモンドコースの目的・進路、応募要件、カリキュラム内容、留学制度などを説明します。



※ VUCAとは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味します。

学部導入科目・専門科目（必修・選択必修・選択）・ゼミナール科目

[英米語学科・通常コース]

科目区分					1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 各区分	卒業要件 合計
学部導入科目	必修				基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語			アカデミック・リーディングⅠ	2	アカデミック・リーディングⅡ	2	アカデミック・リーディングⅢ	2	アカデミック・リーディングⅣ	2	アカデミック・リーディングⅤ	2	アカデミック・リーディングⅥ	2	Integrated English Skills	2			54	80
					アカデミック・ライティングⅠ	2	アカデミック・ライティングⅡ	2	アカデミック・ライティングⅢ	2	アカデミック・ライティングⅣ	2	アカデミック・ライティングⅤ	2	アカデミック・ライティングⅥ	2						
					オーラル・コミュニケーションⅠ（週２回授業）	4	オーラル・コミュニケーションⅡ（週２回授業）	4	オーラル・コミュニケーションⅢ	2	オーラル・コミュニケーションⅣ	2										
					コミュニケーション文法A	2	コミュニケーション文法B	2	リサーチ＆プレゼンテーションⅠ	2	リサーチ＆プレゼンテーションⅡ	2	リサーチ＆プレゼンテーションⅢ	2	リサーチ＆プレゼンテーションⅣ	2						
					TOEIC対策A	2																
		地域研究			英語圏研究の基礎	2																
	選択必修	地域研究	国際関係(IR)領域				英語圏地域・国際関係入門	2	英語圏地域・国際関係入門	2											4	
			比較文化(CCS)領域				英語圏比較文化入門	2	英語圏比較文化入門	2												
			言語習得(LA)領域				英語学・英語教育入門	2	英語学・英語教育入門	2												
			共通				国内・海外留学認定科目													1～4		
	選択	キャリア	留学	エレメンタリー	IELTS対策初級A	2	IELTS対策初級B	2													12	
					留学のための英語	2																
					英語発音演習	2	英語発音演習	2														
				インターミディエイト	IELTS対策中級	2	IELTS対策中級	2	ディベート英語A	2	ディベート英語A	2										
									ディスカッション英語A	2	ディスカッション英語B	2										
				アドバンスト	IELTS対策上級	2	IELTS対策上級	2	ディベート英語B	2	ディベート英語B	2										
			ビジネス一般	エレメンタリー			TOEICリスニング対策	2	TOEIC対策B	2	TOEIC対策C	2										
							TOEICリーディング対策	2														
				インターミディエイト	TOEIC対策中級	2	TOEIC対策中級	2	オフィス英語A	2	オフィス英語B	2										
									パブリック・スピーキングA	2	パブリック・スピーキングA	2										
				アドバンスト	TOEIC対策上級	2	TOEIC対策上級	2	パブリック・スピーキングB	2	パブリック・スピーキングB	2										
			エアライン・ホスピタリティ	エレメンタリー	エアライン・ビジネスA	2	エアライン・ビジネスB	2														
				インターミディエイト					エアライン英語A	2	エアライン英語B	2										
									ホテル英語A	2	ホテル英語B	2										
			エンターテイメント	エレメンタリー	エンターテイメント・ビジネスA	2	エンターテイメント・ビジネスB	2														
				インターミディエイト					メディア英語A	2	メディア英語A	2										
									映画英語A	2	映画英語B	2										
				アドバンスト					メディア英語B	2	メディア英語B	2										
			通訳・翻訳	インターミディエイト					通訳・ガイド英語A	2	通訳・ガイド英語A	2										
									日英翻訳A	2	日英翻訳A	2										
									英日翻訳A	2	英日翻訳A	2										
				アドバンスト					通訳・ガイド英語B	2	通訳・ガイド英語B	2										
									日英翻訳B	2	日英翻訳B	2										
									英日翻訳B	2	英日翻訳B	2										
									同時通訳A	2	同時通訳B	2										
			共通(インターミディエイト)				国内・海外留学認定科目														1～12	
			共通(アドバンスト)														外国語技能検定試験（専攻語）	2				
			共通		再入学時認定科目				編入学時認定科目												1～8 1～12	
		地域研究	国際関係(IR)領域						▲アメリカ社会と政治	2	▲日米関係論	2	国際関係特殊研究	2							10	
									▲イギリス社会と政治	2	▲日英関係論	2										
									▲移民国家と多文化社会	2	アメリカ外交論	2										
									英米の国際関係とグローバルイシュー	2	イギリス外交論	2										
									アメリカ社会と国際NGO	2	持続可能な開発と社会	2										
									国際関係史	2												
			比較文化(CCS)領域						▲英語圏文学と芸術A	2	▲英語圏文学と芸術B	2	比較文化特殊研究	2								
									▲英語圏社会概説A	2	▲英語圏社会概説B	2										
									▲英語圏地域概説A	2	▲英語圏地域概説B	2										
									現代社会の問題と動向	2	世界の文化と環境	2										
									英語圏の大衆文化	2	ポスト植民地主義の文化	2										
			言語習得(LA)領域						▲英語の学習と指導論	2	▲小学校英語指導論	2	英語の指導と評価	2	英文法指導法	2						
									▲英語教師論	2	▲応用言語学と第2言語習得論	2	リスニング・スピーキングと発音指導法	2								
									▲英語音声学・音韻論	2	▲英語意味論・語用論	2	英語教育特殊研究	2								
									▲英語統語論A	2	▲英語統語論B	2	英語学特殊研究	2								
									認知意味論	2	認知構文論	2										
									生成文法	2												
			共通						▲編入学時認定科目												1～4	
							▲国内・海外留学認定科目														1～10	
					▲再入学時認定科目																1～10	
ゼミナール科目													国際関係ゼミⅠ	2	国際関係ゼミⅡ	2	国際関係ゼミⅢ	2	国際関係ゼミⅣ	2	8	8
													比較文化ゼミⅠ	2	比較文化ゼミⅡ	2	比較文化ゼミⅢ	2	比較文化ゼミⅣ	2		
													英語教育ゼミⅠ	2	英語教育ゼミⅡ	2	英語教育ゼミⅢ	2	英語教育ゼミⅣ	2		
													言語学ゼミⅠ	2	言語学ゼミⅡ	2	言語学ゼミⅢ	2	言語学ゼミⅣ	2		

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、４単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、54単位を修得してください。
②「アカデミック・リーディングⅡ」を履修するには、「アカデミック・リーディングⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を、Ⅴを履修するにはⅣの単位を、Ⅵを履修するにはⅤの単位を修得しておく必要があります。
③「アカデミック・ライティングⅡ」を履修するには、「アカデミック・ライティングⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を、Ⅴを履修するにはⅣの単位を、Ⅵを履修するにはⅤの単位を修得しておく必要があります。
④「オーラル・コミュニケーションⅡ」を履修するには、「オーラル・コミュニケーションⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤「リサーチ＆プレゼンテーションⅡ」を履修するには、「リサーチ＆プレゼンテーションⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑥習熟度別クラスで授業を行い、クラス（担当者）を指定します。
⑦「週２回授業」は必ず２回とも履修してください。

専門科目（選択必修）＜地域研究＞

配当年次に従い、選択して履修し、計４単位を修得してください。各授業科目は専門科目（選択）＜地域研究＞の３領域に対応しています。

専門科目（選択）＜キャリア＞

①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から２単位以上を含み、計12単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目は、当該レベルの履修基準を満たした場合に履修できます。
③「TOEICリスニング対策」および「TOEICリーディング対策」については、履修対象者を英米語学科が指定します。
④上記③の授業科目以外は、英米語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

専門科目（選択）＜地域研究＞

①配当年次に従い、選択して履修し、▲印を付した授業科目から４単位以上を含み、計10単位を修得してください。
②３領域の履修については、３年次から履修するゼミの分野を見据えて選択してください。
③英米語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目

①英米語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から１種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、２年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、８単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の１年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

その他（ダイヤモンドコースに所属を変更する場合）

①１年次に修得した「英語圏地域・国際関係入門」および「英語圏比較文化入門」の単位は、ダイヤモンドコースの専門科目（必修）の卒業要件単位に算入されます。また、「英語学・英語教育入門」の修得単位は、「専門科目（選択）」の卒業要件単位に算入されます。
②英米語学科以外の専門科目（選択）の授業科目を履修し修得した単位は卒業要件単位（自由選択）ではなく、卒業要件外に算入されます。

[英米語学科・ダイヤモンドコース] (2 年次より)

科目区分				1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 各区分	卒業要件 合計
学部導入科目	必 修			基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言 語		アカデミック・リーディングⅠ	2	アカデミック・リーディングⅡ	2	Advanced English Ⅰ (週3回授業)	6	Advanced English Ⅱ (週3回授業)	6			【海外留学 Study Abroad(必修)】						74	94
				アカデミック・ライティングⅠ	2	アカデミック・ライティングⅡ	2														
				オーラル・コミュニケーションⅠ (週2回授業)	4	オーラル・コミュニケーションⅡ (週2回授業)	4														
				コミュニケーション文法A	2	コミュニケーション文法B	2														
				TOEIC対策A	2																
		地域研究		英語圏研究の基礎	2	英語圏地域・国際関係入門	2	International Relations A	2	International Relations B	2	International Relations C	2								
						英語圏比較文化入門	2	京都学A(集中講義)	2	Kyoto Studies B(集中講義)	2										
		キャリア						会計学A	2	経済学A	2	Economics B	2					Project Studies (週2回授業)	4		
								経営学A	2	Business Administration B	2	Global Business in Practice	2					会計学B	2		
								データサイエンスA	2	Data Science B	2	Data Science C	2								
	選択	キャリア	留学 エレメンタリー	IELTS対策初級A	2	IELTS対策初級B	2													20	
				留学のための英語	2																
				英語発音演習	2	英語発音演習	2														
			留学 インターミディエイト	IELTS対策中級	2	IELTS対策中級	2														
			留学 アドバンスト	IELTS対策上級	2	IELTS対策上級	2														
			ビジネス一般 エレメンタリー			TOEICリスニング対策	2														
						TOEICリーディング対策	2														
			ビジネス一般 インターミディエイト	TOEIC対策中級	2	TOEIC対策中級	2														
			ビジネス一般 アドバンスト	TOEIC対策上級	2	TOEIC対策上級	2														
			エアライン・ホスピタリティ エレメンタリー	エアライン・ビジネスA	2	エアライン・ビジネスB	2														
			エンターテイメント エレメンタリー	エンターテイメント・ビジネスA	2	エンターテイメント・ビジネスB	2														
			通訳・翻訳 アドバンスト					通訳・ガイド英語B	2	通訳・ガイド英語B	2										
								日英翻訳B	2	日英翻訳B	2										
								英日翻訳B	2	英日翻訳B	2										
								同時通訳A	2	同時通訳B	2										
		共通(アドバンスト)														外国語技能検定試験(専攻語)	2				
		地域研究	国際関係(IR)領域					アメリカ社会と政治	2	日米関係論	2										
								イギリス社会と政治	2	日英関係論	2										
								移民国家と多文化社会	2	アメリカ外交論	2										
								英米の国際関係とグローバルイシュー	2	イギリス外交論	2										
								国際関係史	2												
			比較文化(CCS)領域					英語圏文学と芸術A	2	英語圏文学と芸術B	2										
								英語圏社会概説A	2	英語圏社会概説B	2										
								英語圏地域概説A	2	英語圏地域概説B	2										
								英語圏の大衆文化	2												
			言語習得(LA)領域			英語学・英語教育入門	2	英語学・英語教育入門	2	応用言語学と第2言語習得論	2										
								英語音声学・音韻論	2	英語意味論・語用論	2										
								英語統語論A	2	英語統語論B	2										
								認知意味論	2	認知構文論	2										
								生成文法	2												
		共 通												海外留学認定科目	1〜20						

履修上の注意事項

学部導入科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、74単位を修得してください。
②「アカデミック・リーディングⅡ」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。
③「アカデミック・ライティングⅡ」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。
④「オーラル・コミュニケーションⅡ」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。
⑤「Advanced English Ⅱ」を履修するには、「Advanced English Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑥「Project Studies」を履修するには、海外留学(必修)を終了しておく必要があります。
⑦1年次に通常コースの「専門科目(選択必修)<地域研究>」で修得した「英語圏地域・国際関係入門」および「英語圏比較文化入門」の単位は、ダイヤモンドコースの専門科目(必修)の卒業要件単位に算入されます。また、「英語学・英語教育入門」の修得単位は、「専門科目(選択)」の卒業要件単位に算入されます。
⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

海外留学(必修)
①「交換留学プログラム[派遣留学A(学部留学)]」を利用して3年次秋学期から4年次春学期まで必ず留学してください。ただし、2年次秋学期の派遣留学選考試験の出願資格を満たし、選考試験に合格する必要があります。

専門科目(選択)
①配当年次に従い、選択して履修し、計20単位を修得してください。
②「キャリア」領域のエレメンタリーおよびインターミディエイトの授業科目(1年次配当)は、2年次以降に履修することはできません。
③外国語学部の英米語学科ダイヤモンドコース以外の学科の専門科目(選択)の授業科目も履修できますが、修得した単位は卒業要件に算入されません。

その他
①ダイヤモンドコースの学生は、ゼミナール科目を履修できません。

[スペイン語学科]

科目区分			1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		3年次 春学期		3年次 秋学期		4年次 春学期		4年次 秋学期		卒業要件 各区分	卒業要件 合計
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合スペイン語Ⅰ（通年 週4回授業）			16	総合スペイン語Ⅱ（通年 週4回授業）			16	コミュニケーション・スペイン語A（週2回授業）	4	コミュニケーション・スペイン語B（週2回授業）	4	コミュニケーション・スペイン語C	2	コミュニケーション・スペイン語D	2	56	80
		言語	スペイン語文法Ⅰ（通年）			4	スペイン語文法Ⅱ（通年）			4										
		地域研究	スペイン語圏の基礎知識A	2	スペイン語圏の基礎知識B	2														
	選択	エレメンタリー 言語					オフィス・スペイン語	2	スペイン語リーディング初級	2									24	
									スペイン語学入門	2										
		エレメンタリー 地域研究			スペイン語圏歴史文化入門	2	スペイン語圏芸術入門	2	スペイン語圏文学入門	2										
					スペイン語圏社会学入門	2	スペイン語圏国際関係入門	2												
		インターミディエイト 言語					実践スペイン語A	2	実践スペイン語B	2	スペイン語中級文法	2	スペイン語リーディング中級	2						
											スペイン語アカデミックライティング	2								
		インターミディエイト 地域研究					スペインの伝統文化	2	ラテンアメリカの伝統文化	2	報道にみるスペイン語圏	2	日本とスペイン語圏の関係	2						
		インターミディエイト 共通			国内・海外留学認定科目														1～24	
		アドバンスト 言語									実践スペイン語C	2								
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
		アドバンスト 地域研究											スペイン語圏の今	2						
		共通					編入学時認定科目												1～12	
			再入学時認定科目																1～24	
ゼミナール科目											スペイン語学ゼミⅠ	2	スペイン語学ゼミⅡ	2	スペイン語学ゼミⅢ	2	スペイン語学ゼミⅣ	2	8	8
											スペイン語圏芸術ゼミⅠ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅡ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅢ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅣ	2		
											スペイン語圏社会ゼミⅠ	2	スペイン語圏社会ゼミⅡ	2	スペイン語圏社会ゼミⅢ	2	スペイン語圏社会ゼミⅣ	2		
											スペイン語圏歴史ゼミⅠ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅡ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅢ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅣ	2		
											スペイン語圏国際関係ゼミⅠ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅡ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅢ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅣ	2		

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、56単位を修得してください。
②「総合スペイン語Ⅰ」「スペイン語文法Ⅰ」「総合スペイン語Ⅱ」「スペイン語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
③「総合スペイン語Ⅱ」を履修するには、「総合スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「スペイン語文法Ⅱ」を履修するには、「スペイン語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤「コミュニケーション・スペイン語A」「コミュニケーション・スペイン語B」「コミュニケーション・スペイン語C」「コミュニケーション・スペイン語D」を履修するには、「総合スペイン語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑥1年次配当の授業科目は、クラス（担当者）を指定します。
⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス（担当者）を指定します。
⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計24単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③スペイン語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
④できるだけ2年次終了までにエレメンタリー（地域研究）から2科目以上を履修し、ゼミを履修するようにしてください。（ゼミ履修に必須というわけではありません。）

ゼミナール科目
①スペイン語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[フランス語学科]

科目区分			1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		3年次 春学期		3年次 秋学期		4年次 春学期		4年次 秋学期		卒業要件 各区分	卒業要件 合計
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合フランス語Ⅰ（通年 週3回授業）	12			総合フランス語Ⅱ（通年 週4回授業）	16			フランス語スピーキング・ライティングA（週2回授業）	4	フランス語スピーキング・ライティングB（週2回授業）	4	フランス語スピーキング・ライティングC（週2回授業）	4	フランス語スピーキング・ライティングD（週2回授業）	4	68	80
		言語	フランス語文法Ⅰ（通年 週2回授業）	8			フランス語文法Ⅱ（通年）	4			フランス語リスニング・リーディングA	2	フランス語リスニング・リーディングB	2						
		地域研究	フランスの基礎知識A	2	フランスの基礎知識B	2	フランス語学の基礎知識	2	フランス文学の基礎知識	2										
	選択	エレメンタリー 言語			音読フランス語	2													12	
		エレメンタリー 地域研究	日仏交流史	2																
		インターミディエイト 言語					観光フランス語A	2	観光フランス語B	2	翻訳通訳フランス語A	2								
							フランス語で学ぶ日本文化A	2	フランス語で学ぶ日本文化B	2	ビジネスフランス語	2								
									資格フランス語A	2	資格フランス語B	2	資格フランス語C	2						
											資格フランス語D	2	資格フランス語E	2						
		インターミディエイト 地域研究									フランス語圏の言語文化A	2	フランス語圏の言語文化B	2						
											フランス語圏の芸術A	2	フランス語圏の芸術B	2						
											フランス語圏の社会と文化A	2	フランス語圏の社会と文化B	2						
		インターミディエイト 共通			国内・海外留学認定科目														1～12	
		アドバンスト 言語	上級者のためのフランス語演習A	2	上級者のためのフランス語演習B	2	上級者のためのフランス語演習C	2	上級者のためのフランス語演習D	2			翻訳通訳フランス語B	2						
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
		共通					編入学時認定科目												1～8	
			再入学時認定科目																1～12	
ゼミナール科目											フランス語圏言語・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅣ	2	8	8
											フランス語圏文学・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅣ	2		
											フランス語圏社会・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅣ	2		

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、68単位を修得してください。
②「総合フランス語Ⅰ」「フランス語文法Ⅰ」「総合フランス語Ⅱ」「フランス語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
③「総合フランス語Ⅱ」を履修するには、「総合フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「フランス語文法Ⅱ」を履修するには、「フランス語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤「フランス語スピーキング・ライティングA」「フランス語リスニング・リーディングA」「フランス語スピーキング・ライティングB」「フランス語リスニング・リーディングB」「フランス語スピーキング・ライティングC」「フランス語スピーキング・ライティングD」を履修するには、「総合フランス語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑥1年次配当の授業科目は、クラス（担当者）を指定します。
⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス（担当者）を指定します。
⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③フランス語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①フランス語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[ドイツ語学科]

科目区分			1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 各区分	卒業要件 合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合ドイツ語Ⅰ(通年 週4回授業)	16			総合ドイツ語Ⅱ(通年 週4回授業)	16			ドイツ語コミュニケーションA	2	ドイツ語コミュニケーションB	2	ドイツ語コミュニケーションC	2	ドイツ語コミュニケーションD	2	64	80
			ドイツ語文法Ⅰ(通年)	4			ドイツ語文法Ⅱ(通年)	4			ドイツ語ライティングA	2	ドイツ語ライティングB	2	ドイツ語ワークショップA	2	ドイツ語ワークショップB	2		
							国際ドイツ語検定対策A2(通年)	4												
		地域研究	世界の中の日本とドイツ語圏	2	ドイツ語圏の基礎知識	2														
	選択 エレメンタリー	言語			独検対策初級	2	中級ドイツ語文法A	2	中級ドイツ語文法B	2									16	
		地域研究	ドイツ語圏の歴史	2	ドイツ語圏の文学	2	文化と社会から見るドイツ語圏A	2	文化と社会から見るドイツ語圏B	2										
							文学から見るドイツ語圏	2	ドイツ語学概論	2										
							ドイツ語圏ランデスクンデA	2												
		インターミディエイト 言語					独検対策中級	2	国際ドイツ語検定対策(B1)A	2	翻訳通訳ドイツ語A	2								
											ドイツ語学研究A	2	ドイツ語学研究B	2						
											ドイツ語原書講読A	2	ドイツ語原書講読B	2						
		インターミディエイト 地域研究					ドイツ語圏ランデスクンデB	2	ドイツ語圏ランデスクンデC	2									16	
		インターミディエイト 共通			国内・海外留学認定科目														1～16	
		アドバンスト 言語							独検対策上級	2	国際ドイツ語検定対策(B1)B	2	国際ドイツ語検定対策(B2)	2						
													翻訳通訳ドイツ語B	2						
															外国語技能検定試験(専攻語)	2				
		アドバンスト 地域研究							ドイツ語圏ランデスクンデD	2										
		共通					編入学時認定科目												1～8	
			再入学時認定科目																1～16	
ゼミナール科目											ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅠ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅡ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅢ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅣ	2	8	8
											ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅠ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅡ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅢ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅣ	2		
											ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅠ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅡ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅢ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅣ	2		
											ドイツ語学ゼミⅠ	2	ドイツ語学ゼミⅡ	2	ドイツ語学ゼミⅢ	2	ドイツ語学ゼミⅣ	2		

履修上の注意事項

学部導入科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、64単位を修得してください。
②「総合ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語文法Ⅰ」「総合ドイツ語Ⅱ」「ドイツ語文法Ⅱ」「国際ドイツ語検定対策A2」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
③「総合ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「総合ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「ドイツ語文法Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤「ドイツ語コミュニケーションA」「ドイツ語ライティングA」「ドイツ語コミュニケーションB」「ドイツ語ライティングB」「ドイツ語コミュニケーションC」「ドイツ語ワークショップA」「ドイツ語コミュニケーションD」「ドイツ語ワークショップB」を履修するには、「総合ドイツ語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑥1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目(選択)
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目(単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計16単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③ドイツ語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①ドイツ語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(86ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

[ブラジルポルトガル語学科]

科目区分			1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 各区分	卒業要件 合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合ポルトガル語Ⅰ（通年 週3回授業）	12			総合ポルトガル語Ⅱ（通年 週3回授業）	12			応用ポルトガル語A	2	応用ポルトガル語B	2	実践ポルトガル語A	2	実践ポルトガル語B	2	68	80
			ポルトガル語文法Ⅰ（通年 週2回授業）	8			ポルトガル語文法Ⅱ（通年 週2回授業）	8			上級ポルトガル語コミュニケーションA	2	上級ポルトガル語コミュニケーションB	2						
							ポルトガル語初級検定対策A	2	ポルトガル語初級検定対策B	2	ポルトガル語中級検定対策A	2	ポルトガル語中級検定対策B	2						
		地域研究	ポルトガル語圏語学の基礎	2	ポルトガル語圏文学の基礎	2														
			ポルトガル語圏文化の基礎	2	ポルトガル語圏社会の基礎	2														
	選択	エレメンタリー 地域研究					ポルトガルの歴史と地理	2	現代ポルトガル事情	2									12	
							プラジルの歴史と地理	2	現代プラジル事情	2										
							ポルトガル語圏語学入門A	2	ポルトガル語圏語学入門B	2										
							ポルトガル語圏文学入門A	2	ポルトガル語圏文学入門B	2										
		インターミディエイト 言語					映像と音楽のポルトガル語	2	スポーツメディアのポルトガル語	2	現代文学作品翻訳演習A	2	現代文学作品翻訳演習B	2						
							食文化のポルトガル語	2	観光文化のポルトガル語	2	ジャーナリズム翻訳演習A	2	ジャーナリズム翻訳演習B	2						
		インターミディエイト 地域研究									ポルトガル語圏歴史文化研究	2	ポルトガル語圏アフリカ文化研究	2						
													日本ポルトガル語圏交流史	2						
		共通			国内・海外留学認定科目														1～12	
		アドバンスト 言語									ビジネス表現のポルトガル語	2	プレゼンテーション時事ポルトガル語	2						
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
		共通					編入学時認定科目												1～4	
			再入学時認定科目																1～12	
ゼミナール科目											ポルトガル語圏語学ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏語学ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏語学ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏語学ゼミⅣ	2	8	8
											ポルトガル語圏文学ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏文学ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏文学ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏文学ゼミⅣ	2		
											ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅣ	2		
											ポルトガル語圏社会ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏社会ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏社会ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏社会ゼミⅣ	2		

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、68単位を修得してください。
②「総合ポルトガル語Ⅰ」「ポルトガル語文法Ⅰ」「総合ポルトガル語Ⅱ」「ポルトガル語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
③「総合ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「総合ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「ポルトガル語文法Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤「応用ポルトガル語A」「上級ポルトガル語コミュニケーションA」「ポルトガル語中級検定対策A」「応用ポルトガル語B」「上級ポルトガル語コミュニケーションB」「ポルトガル語中級検定対策B」「実践ポルトガル語A」「実践ポルトガル語B」を履修するには、「総合ポルトガル語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑥1年次配当の授業科目は、クラス（担当者）を指定します。
⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス（担当者）を指定します。
⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③ブラジルポルトガル語学科以外の外国語学部も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①ブラジルポルトガル語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[中国語学科・通常コース]

科目区分			1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		3年次 春学期		3年次 秋学期		4年次 春学期		4年次 秋学期		卒業要件 各区分	卒業要件 合計
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合中国語Ⅰ（通年 週5回授業）			20	総合中国語Ⅱ（通年 週5回授業）			20	中国語リサーチプレゼンA	2	中国語リサーチプレゼンC	2	中国語リサーチプレゼンE	2	中国語リサーチプレゼンF	2	56	80
											中国語リサーチプレゼンB	2	中国語リサーチプレゼンD	2						
		地域研究	世界の中の日本と中国A	2	世界の中の日本と中国B	2														
	選択	エレメンタリー 言語	資格中国語A	2	資格中国語B	2													24	
					中国語通訳基礎	2														
		インターミディエイト 言語					資格中国語C	2	資格中国語D	2										
							ビジネス中国語基礎A	2	ビジネス中国語基礎B	2										
							中国語観光通訳A	2	中国語観光通訳B	2										
		インターミディエイト 地域研究					中国語学概論A	2	中国語学概論B	2	現代中国と社会A	2	現代中国と社会B	2						
							中国の伝統と歴史	2	中国の地域文化と言語（広東語）	2	中国の地域文化と言語（上海語）	2	現代中国と経済	2						
									中国文学への招待	2	アジアの言語と文化A	2	アジアの言語と文化B	2						
		インターミディエイト 共通			国内・海外留学認定科目													1～24		
		アドバンスト 言語									中国語リスニング応用A	2	中国語リスニング応用B	2	中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2		
											中国語リーディング応用A	2	中国語リーディング応用B	2	中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2		
											ビジネス中国語応用A	2	ビジネス中国語応用B	2	中国語通訳発展A（実務）	2	中国語通訳発展B（実務）	2		
											ビジネスライティング中国語A	2	ビジネスライティング中国語B	2						
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
		アドバンスト 地域研究													中国の芸術と文化	2	中国の社会と文化	2		
															現代中国事情A	2	現代中国事情B	2		
		共通					編入学時認定科目											1～12		
			再入学時認定科目															1～24		
ゼミナール科目											中国語圏ゼミⅠ	2	中国語圏ゼミⅡ	2	中国語圏ゼミⅢ	2	中国語圏ゼミⅣ	2	8	8

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、56単位を修得してください。
②「総合中国語Ⅰ」「総合中国語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
③「総合中国語Ⅱ」を履修するには、「総合中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「中国語リサーチプレゼンA」「中国語リサーチプレゼンB」「中国語リサーチプレゼンC」「中国語リサーチプレゼンD」「中国語リサーチプレゼンE」「中国語リサーチプレゼンF」を履修するには、「総合中国語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤1年次配当の授業科目は、クラス（担当者）を指定します。
⑥2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス（担当者）を指定します。
⑦週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計24単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③中国語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①中国語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[中国語学科・既修者コース]

科目区分			1年次 春学期	単位	1年次 秋学期	単位	2年次 春学期	単位	2年次 秋学期	単位	3年次 春学期	単位	3年次 秋学期	単位	4年次 春学期	単位	4年次 秋学期	単位	卒業要件 各区分	卒業要件 合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合中国語Ⅱ（通年 週5回授業）	20			中国語リサーチプレゼンA	2	中国語リサーチプレゼンC	2	中国語リサーチプレゼンE	2	中国語リサーチプレゼンF	2	中国語通訳発展A（実務）	2	中国語通訳発展B（実務）	2	40	80
							中国語リサーチプレゼンB	2	中国語リサーチプレゼンD	2										
		地域研究	世界の中の日本と中国A	2	世界の中の日本と中国B	2														
	選択 インターミディエイト	言語	資格中国語C	2	資格中国語D	2													40	
			ビジネス中国語基礎A	2	ビジネス中国語基礎B	2														
			中国語観光通訳A	2	中国語観光通訳B	2														
		地域研究	中国語学概論A	2	中国語学概論B	2	現代中国と社会A	2	現代中国と社会B	2										
			中国の伝統と歴史	2	中国の地域文化と言語（広東語）	2	中国の地域文化と言語（上海語）	2	現代中国と経済	2										
					中国文学への招待	2	アジアの言語と文化A	2	アジアの言語と文化B	2										
		共通			国内・海外留学認定科目													1〜40		
	選択 アドバンスト	言語					中国語リスニング応用A	2	中国語リスニング応用B	2	中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2					40	
							中国語リーディング応用A	2	中国語リーディング応用B	2	中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2						
							ビジネス中国語応用A	2	ビジネス中国語応用B	2										
							ビジネスライティング中国語A	2	ビジネスライティング中国語B	2										
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
		地域研究									中国の芸術と文化	2	中国の社会と文化	2						
											現代中国事情A	2	現代中国事情B	2						
ゼミナール科目											中国語圏ゼミⅠ	2	中国語圏ゼミⅡ	2	中国語圏ゼミⅢ	2	中国語圏ゼミⅣ	2	8	8

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、40単位を修得してください。
②「総合中国語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
③「中国語リサーチプレゼンA」「中国語リサーチプレゼンB」「中国語リサーチプレゼンC」「中国語リサーチプレゼンD」「中国語リサーチプレゼンE」「中国語リサーチプレゼンF」「中国語通訳発展A（実務）」「中国語通訳発展B（実務）」を履修するには、「総合中国語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
④週2回以上の授業はすべての回を履修してください。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計40単位を修得してください。
②アドバンストの授業科目は、当該レベルの履修基準を満たした場合に履修できます。なお、インターミディエイトの授業科目については、履修基準を満たしていなくても履修することができます。
③インターミディエイトの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位（40単位）を満たすことはできません。
④中国語学科以外の外国語学部生が履修を希望する場合は、「通常コース」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①中国語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ〜Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[日本語学科]

科目区分			1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		3年次 春学期		3年次 秋学期		4年次 春学期		4年次 秋学期		卒業要件 各区分	卒業要件 合計
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修		日本語学の基礎知識A	2	日本語学の基礎知識B	2	日本語の歴史A	2	日本語の歴史B	2									24	80
			日本文化の基礎知識A	2	日本文化の基礎知識B	2	言語学概論A	2	言語学概論B	2										
			日本語教育の基礎知識A	2	日本語教育の基礎知識B	2	日本近代文学A	2	日本近代文学B	2										
	選択	日本文化領域	日本の伝統文化A	2	日本の伝統文化B	2	漢字文化論A	2	漢字文化論B	2	日本文化特論A	2	日本文化特論B	2					56	
			漢文学A	2	漢文学B	2	和漢比較文学A	2	和漢比較文学B	2	日本文学特論A	2	日本文学特論B	2						
							日本文学史A	2	日本文学史B	2										
							日本古典文学A	2	日本古典文学B	2										
					書道A	2	書道B	2												
		日本語教育領域	日本語音声学概論	2	日本語音声表現法	2	日本語表記法	2			日本語学特論A	2	日本語学特論B	2						
			意味論・語用論入門	2			日本語教育文法A	2	日本語教育文法B	2	日本語教育と異文化理解A	2	日本語教育と異文化理解B	2						
			資格日本語教育	2					日本語教授法	2			日本語教育とICT	2						
									日本語教育評価法	2										
					日本語教育実習入門Ⅰ	2	日本語教育実習入門Ⅰ	2												
							日本語教育実習入門Ⅱ	2	日本語教育実習入門Ⅱ	2					日本語教育実習	2	日本語教育実習	2		
							社会言語学	2	第二言語習得論	2	多文化共生論	2	日本語教育の心理学	2						
		日本語を母語としない学生用	プラッシュアップ日本語A	2	プラッシュアップ日本語D	2	アカデミック日本語A	2	アカデミック日本語D	2										
			プラッシュアップ日本語B	2	プラッシュアップ日本語E	2	アカデミック日本語B	2	アカデミック日本語E	2										
			プラッシュアップ日本語C	2	プラッシュアップ日本語F	2	アカデミック日本語C	2	アカデミック日本語F	2										
		共通			国内・海外留学認定科目													1～48		
									海外日本語教育実習									1～4		
							編入学時認定科目											1～24		
															外国語技能検定試験(専攻語)	2				
		再入学時認定科目																1～56		
ゼミナール科目											日本語教育研究ゼミⅠ	2	日本語教育研究ゼミⅡ	2	日本語教育研究ゼミⅢ	2	日本語教育研究ゼミⅣ	2	8	8
											日本文学研究ゼミⅠ	2	日本文学研究ゼミⅡ	2	日本文学研究ゼミⅢ	2	日本文学研究ゼミⅣ	2		
											日本文化研究ゼミⅠ	2	日本文化研究ゼミⅡ	2	日本文化研究ゼミⅢ	2	日本文化研究ゼミⅣ	2		
											対照研究ゼミⅠ	2	対照研究ゼミⅡ	2	対照研究ゼミⅢ	2	対照研究ゼミⅣ	2		
											現代日本語研究ゼミⅠ	2	現代日本語研究ゼミⅡ	2	現代日本語研究ゼミⅢ	2	現代日本語研究ゼミⅣ	2		
											国語教育研究ゼミⅠ	2	国語教育研究ゼミⅡ	2	国語教育研究ゼミⅢ	2	国語教育研究ゼミⅣ	2		

履修上の注意事項

学部導入科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、24単位を修得してください。
②クラス(担当者)を指定します。

専門科目(選択)
①配当年次に従い、選択して履修し、計56単位を修得してください。
②「日本語教育実習入門Ⅱ」を履修するには、「日本語教育実習入門Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
③「日本語教育実習」を履修するには、日本語教員養成課程を登録し、かつ、3年次秋学期(在学6学期)終了までに当該課程における「養成課程」のすべての単位(17科目34単位)を修得しておく必要があります。
④「アカデミック日本語」および「プラッシュアップ日本語」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した外国語学部の「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。
⑤「日本語教育領域」の授業科目以外は、日本語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①日本語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(86ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

[イタリア語学科]

科目区分			1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 各区分	卒業要件 合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言 語	総合イタリア語Ⅰ（通年 週4回授業）	16			総合イタリア語Ⅱ（通年 週4回授業）	16			イタリア語コミュニケーションA（週2回授業）	4	イタリア語コミュニケーションB（週2回授業）	4	イタリア語コミュニケーションC	2	イタリア語コミュニケーションD	2	58	80
			イタリア語初級文法（通年）	4			イタリア語中級文法（通年）	4												
		地域研究	イタリア語圏の基礎知識	2	日伊比較文化	2	イタリア地域比較概論	2												
	選択	エレメンタリー 言 語			資格イタリア語（基礎入門）	2			資格イタリア語（初級）	2									22	
					イタリア語聴解・読解（基礎入門）	2	イタリア語聴解・読解（初級）	2	イタリア語作文（初級）	2										
		エレメンタリー 地域研究					イタリア歴史研究	2	イタリア美術研究	2	イタリア文学概論	2	イタリア言語研究	2						
							イタリアポピュラーカルチャー研究A（食文化）	2	イタリアポピュラーカルチャー研究B（ファッション）	2	イタリアポピュラーカルチャー研究C（スポーツ）	2								
							イタリア社会研究A（観光）	2	イタリア社会研究B（社会問題）	2										
		インターミディエイト 言 語									イタリア語作文（中級）	2	資格イタリア語（中級）	2						
											イタリア語聴解・読解（初中級）	2	イタリア語聴解・読解（中級）	2						
											イタリア語翻訳	2								
											情報イタリア語	2								
		インターミディエイト 地域研究									イタリア社会研究C（産業）	2	イタリアポピュラーカルチャー研究D（映画・音楽）	2						
		インターミディエイト 共通			国内・海外留学認定科目													1～22		
		アドバンスト 言 語									イタリア語上級会話	2	イタリア語通訳	2						
													イタリア語プレゼンテーション	2						
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
		アドバンスト 地域研究											イタリア社会研究D（地域文化）	2						
		共通					編入学時認定科目											1～10		
			再入学時認定科目															1～22		
ゼミナール科目											イタリア文化ゼミⅠ	2	イタリア文化ゼミⅡ	2	イタリア文化ゼミⅢ	2	イタリア文化ゼミⅣ	2	8	8

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、58単位を修得してください。
②「総合イタリア語Ⅰ」「イタリア語初級文法」「総合イタリア語Ⅱ」「イタリア語中級文法」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
③「総合イタリア語Ⅱ」を履修するには、「総合イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「イタリア語コミュニケーションA」「イタリア語コミュニケーションB」「イタリア語コミュニケーションC」「イタリア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合イタリア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤1年次配当の授業科目は、クラス（担当者）を指定します。
⑥2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス（担当者）を指定します。
⑦週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計22単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③イタリア語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①イタリア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[ロシア語学科・通常コース]

科目区分			1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 各区分	卒業要件 合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合ロシア語Ⅰ（通年 週４回授業）	16			総合ロシア語Ⅱ（通年 週４回授業）	16			ロシア語コミュニケーションA（週２回授業）	4	ロシア語コミュニケーションB（週２回授業）	4	ロシア語コミュニケーションC（週２回授業）	4	ロシア語コミュニケーションD（週２回授業）	4	62	80
			ロシア語文法A	2	ロシア語文法B	2	ロシア語文法C	2	ロシア語文法D	2										
		地域研究	ロシア語圏の基礎知識A	2	ロシア語圏の基礎知識B	2	日露の交流	2												
	選択	エレメンタリー 言語			TORFL検定初級・基礎レベル対策	2	ロシア語学概論A	2	ロシア語学概論B	2									18	
					ユーラシアの言語	2														
		エレメンタリー 地域研究					ロシア語圏の政治経済	2	ロシア語圏の文学と芸術A	2										
							ロシア語圏の社会と文化A	2	ロシア語圏の社会と文化B	2										
									ロシア語圏の大衆文化A	2										
		インターミディエイト 言語									ロシア語翻訳演習A	2	ロシア語翻訳演習B	2						
											ロシア語通訳演習A	2	ロシア語通訳演習B	2						
											TORFL検定第1・2レベル対策	2								
		インターミディエイト 地域研究									ロシア語圏の文学と芸術B	2								
											ロシア語圏の大衆文化B	2								
		インターミディエイト 共通			国内・海外留学認定科目														1〜18	
		アドバンスト 言語									ロシア語医療通訳演習	2	ロシア語司法通訳演習	2						
											高度ロシア語通訳演習A	2	高度ロシア語通訳演習B	2						
											高度ロシア語翻訳演習A	2	高度ロシア語翻訳演習B	2						
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
		共通					編入学時認定科目												1〜8	
			再入学時認定科目																1〜18	
ゼミナール科目											ロシア言語社会研究ゼミⅠ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅡ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅢ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅣ	2	8	8

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、４単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、62単位を修得してください。
②「総合ロシア語Ⅰ」「総合ロシア語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。また、「総合ロシア語Ⅰ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験（TORFL検定試験初級レベル相当）に合格する必要があります。「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験（TORFL検定試験基礎レベル相当）に合格する必要があります。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から２学期間連続して履修してください。
③「総合ロシア語Ⅱ」を履修するには、「総合ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「ロシア語コミュニケーションA」「ロシア語コミュニケーションB」「ロシア語コミュニケーションC」「ロシア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤週２回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

＜ロシア語短期留学＞
「ロシア語短期留学（必修）」に参加し、所定の課程を終了することを「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得の要件の１つとします。留学に参加（修了）しない場合は、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得できません。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から２単位以上を含み、計18単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③ロシア語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①ロシア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から１種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、２年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、８単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の１年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[ロシア語学科・特修コース]

科目区分			1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		3年次 春学期		3年次 秋学期		4年次 春学期		4年次 秋学期		卒業要件	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合ロシア語Ⅱ（通年 週４回授業）	16			ロシア語コミュニケーションA（週２回授業）	4	ロシア語コミュニケーションB（週２回授業）	4	ロシア語コミュニケーションC（週２回授業）	4	ロシア語コミュニケーションD（週２回授業）	4					42	80
			ロシア語文法C	2	ロシア語文法D	2														
		地域研究	ロシア語圏の基礎知識A	2	ロシア語圏の基礎知識B	2	日露の交流	2												
	選択	エレメンタリー 言語	ロシア語学概論A	2	ロシア語学概論B	2													38	
					ユーラシアの言語	2														
		エレメンタリー 地域研究					ロシア語圏の政治経済	2	ロシア語圏の文学と芸術A	2										
							ロシア語圏の社会と文化A	2	ロシア語圏の社会と文化B	2										
									ロシア語圏の大衆文化A	2										
		インターミディエイト 言語					ロシア語翻訳演習A	2	ロシア語翻訳演習B	2										
							ロシア語通訳演習A	2	ロシア語通訳演習B	2										
							TORFL検定第1・2レベル対策	2												
		インターミディエイト 地域研究									ロシア語圏の文学と芸術B	2								
											ロシア語圏の大衆文化B	2								
		共通			国内・海外留学認定科目														1〜38	
		アドバンスト 言語									ロシア語医療通訳演習	2	ロシア語司法通訳演習	2						
											高度ロシア語通訳演習A	2	高度ロシア語通訳演習B	2						
											高度ロシア語翻訳演習A	2	高度ロシア語翻訳演習B	2						
															外国語技能検定試験（専攻語）	2				
ゼミナール科目											ロシア言語社会研究ゼミⅠ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅡ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅢ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅣ	2	8	8

履修上の注意事項

学部導入科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、４単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、42単位を修得してください。
②「総合ロシア語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験（TORFL検定試験基礎レベル相当）に合格する必要があります。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から２学期間連続して履修してください。
③「ロシア語コミュニケーションA」「ロシア語コミュニケーションB」「ロシア語コミュニケーションC」「ロシア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
④週２回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

＜ロシア語短期留学＞
「ロシア語短期留学（必修）」に参加し、所定の課程を終了することを「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得の要件の１つとします。留学に参加（修了）しない場合は、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得できません。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から２単位以上を含み、計38単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③エレメンタリーおよびインターミディエイトの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位（38単位）を満たすことはできません。
④ロシア語学科以外の外国語学部生が履修を希望する場合は、「通常コース」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①ロシア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から１種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、２年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、８単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の１年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

全学共通科目（外国語科目）

[外国語学部・国際貢献学部　共通]

科目区分		1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 合計
全学共通科目（外国語科目）				英語Ⅰ（週２回授業）	4	英語Ⅰ（週２回授業）	4	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2					4
						英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2							
				スペイン語Ⅰ（週２回授業）	4	スペイン語Ⅰ（週２回授業）	4	スペイン語Ⅱ	2									
						スペイン語Ⅱ	2											
				フランス語Ⅰ（週２回授業）	4	フランス語Ⅰ（週２回授業）	4	フランス語Ⅱ	2									
						フランス語Ⅱ	2											
				ドイツ語Ⅰ（週２回授業）	4	ドイツ語Ⅰ（週２回授業）	4	ドイツ語Ⅱ	2									
						ドイツ語Ⅱ	2											
				ポルトガル語Ⅰ（週２回授業）	4	ポルトガル語Ⅰ（週２回授業）	4	ポルトガル語Ⅱ	2									
						ポルトガル語Ⅱ	2											
				中国語Ⅰ（週２回授業）	4	中国語Ⅰ（週２回授業）	4	中国語Ⅱ	2									
						中国語Ⅱ	2											
				イタリア語Ⅰ（週２回授業）	4	イタリア語Ⅰ（週２回授業）	4	イタリア語Ⅱ	2									
						イタリア語Ⅱ	2											
				ロシア語Ⅰ（週２回授業）	4	ロシア語Ⅰ（週２回授業）	4	ロシア語Ⅱ	2									
						ロシア語Ⅱ	2											
				コリア語Ⅰ（週２回授業）	4	コリア語Ⅰ（週２回授業）	4	コリア語Ⅱ	2									
						コリア語Ⅱ	2											
	日本語を母語としない学生用	日本語A（週２回授業）	4	日本語A（週２回授業）	4													
		日本語B（週２回授業）	4	日本語B（週２回授業）	4													
		日本語C（週２回授業）	4	日本語C（週２回授業）	4													
		日本語D（週２回授業）	4	日本語D（週２回授業）	4													
		日本語E（週２回授業）	4	日本語E（週２回授業）	4													
		日本語F（週２回授業）	4	日本語F（週２回授業）	4													
		日本語G（週２回授業）	4	日本語H（週２回授業）	4													
		日本語J（週２回授業）	4															

履修上の注意事項

①専攻する言語および母語以外の言語を選択し、配当年次に従い、４単位を修得してください。
ただし、「日本語A～J」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。また、「日本語J」は日本語学科生のみを履修対象者とします。

②１年次生は所定の期間に履修を希望する言語の申請を行ってください。抽選のうえ、クラス（担当者）を指定します。２年次以降も、学期ごとに異なる言語の履修希望を申請することもできます。ただし、「日本語A～J」については、左記①の学生を対象に、レベルに応じて、１年次春学期に履修するクラス（担当者）を指定しますので、指定された人は必ず履修してください。

③「週２回授業」は必ず２回とも履修してください。

④「英語Ⅱ」を履修するには、「英語Ⅰ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤「スペイン語Ⅱ」を履修するには、「スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑥「フランス語Ⅱ」を履修するには、「フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑦「ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑧「ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑨「中国語Ⅱ」を履修するには、「中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑩「イタリア語Ⅱ」を履修するには、「イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑪「ロシア語Ⅱ」を履修するには、「ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑫「コリア語Ⅱ」を履修するには、「コリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑬「日本語G」「日本語H」「日本語J」を除く授業科目はすべて春・秋学期に開講します。

全学共通科目（教養科目）

[外国語学部・国際貢献学部　共通]

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
全学共通科目（教養科目）	ビジネス・キャリア	キャリアベーシック	2			キャリア形成A	2	キャリア形成B	2	コミュニティ通訳特論Ⅰ	2	コミュニティ通訳特論Ⅱ（英語）	2				
				経営学入門	2	経営学応用A	2	経営学応用B	2			コミュニティ通訳特論Ⅱ（スペイン語）	2				
				経済学入門	2	経済学応用	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ（ポルトガル語）	2				
				会計学入門	2	特殊研究B（企業からの寄付講座）	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ（中国語）	2				
				Basic Business Administration	2	Applied Business Administration	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ（ロシア語）	2				
				Basic Economics	2	Applied Economics	2										
	サイエンス・テクノロジー			環境論A	2	環境論B	2										
				メディア論	2	メディアリテラシー論	2										
				情報技術の実践	2	防災の科学	2										
				キャリアのための数学入門	2	数的理解	2										
				データ科学入門	2	データ科学応用	2										
						Environmental Issues	2	Media in Japan	2	Advanced Topics in Emerging Technology	2						
								eSports Fundamentals	2								
	教育	生涯学習概論	2	青少年の行動と心理	2	コミュニケーションの心理	2	臨床心理学	2								
		多文化理解と人権	2	多文化理解と人権	2	コーチングの理論	2	コーチングの実践	2								
		人権と教育	2	人権と教育	2	リーダーシップ概論	2	教育の課題	2								
	政治・平和			国際関係論入門	2	国際関係論応用	2	国際平和協力論	2								
				政治学入門	2	政治学応用	2	国際法	2								
				法学入門	2	言語政策	2	平和・安全保障論	2								
				日本国憲法	2	国際連合論	2										
						模擬国連会議（PBL）	2										
				言語と平和B	2	グローバル化とジェンダー	2										
	京都・日本			多文化間コミュニケーション	2	比較文化論	2	特殊研究C（地域連携研究）	2								
		京都文化論A	2	京都文化論B	2	京都の伝統文化A	2	京都の伝統文化B	2								
		Japanese Geography	2	Japanese History and Culture	2	Current Kyoto and Tradition	2	Destination Kyoto	2								
						Japanese Philosophy	2	Religions in Japan	2								
						Japan Pop Cultures	2	Japan seen through Animations	2								
						もっと京都プロジェクトA	2	もっと京都プロジェクトB	2								
	国際社会	世界の歴史と文化A-1（日本、アジア、アフリカ、オセアニア）	2	世界の歴史と文化A-2（日本、アジア、アフリカ、オセアニア）	2	世界の歴史と文化B-1（ヨーロッパ、南北アメリカ）	2	世界の歴史と文化B-2（ヨーロッパ、南北アメリカ）	2								
				特殊研究A（異文化理解研究）	2	特殊研究D（グローバル研究）	2	世界文化と多様性	2								
						Intercultural Communication in Practice A	2	Intercultural Communication in Practice B	2								

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
全学共通科目（教養科目）	言語	言語の仕組み	2	言語の成り立ち	2			日英対照言語学	2								
				音声学入門	2			日中対照言語学	2								
		日本語学入門A	2	日本語学入門B	2			バイリンガルの言語形成	2								
		日本語教育入門A	2	日本語教育入門B	2	2言語同時学習（ES）A	2	2言語同時学習（ES）B	2								
						2言語同時学習（EF）A	2	2言語同時学習（EF）B	2								
						2言語同時学習（EG）A	2	2言語同時学習（EG）B	2								
						2言語同時学習（EP）A	2	2言語同時学習（EP）B	2								
						2言語同時学習（EC）A	2	2言語同時学習（EC）B	2								
						2言語同時学習（EI）A	2	2言語同時学習（EI）B	2								
						2言語同時学習（ER）A	2	2言語同時学習（ER）B	2								
						アラビア語Ⅰ	2	アラビア語Ⅱ	2								
						インド語Ⅰ	2	インド語Ⅱ	2								
						インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語Ⅱ	2								
						オランダ語Ⅰ	2	オランダ語Ⅱ	2								
						ギリシア語Ⅰ	2	ギリシア語Ⅱ	2								
						スワヒリ語Ⅰ	2	スワヒリ語Ⅱ	2								
						タイ語Ⅰ	2	タイ語Ⅱ	2								
						トルコ語Ⅰ	2	トルコ語Ⅱ	2								
						ベトナム語Ⅰ	2	ベトナム語Ⅱ	2								
						ラテン語Ⅰ	2	ラテン語Ⅱ	2								
						日本語のスキルA	2	日本語のスキルE	2								
						日本語のスキルB	2	日本語のスキルF	2								
						日本語のスキルC	2	日本語のスキルG	2								
						日本語のスキルD	2	日本語のスキルH	2								
	日本語を母語としない学生用					ビジネス日本語A	2	ビジネス日本語B	2								
						日本語能力試験N1対策A	2	日本語能力試験N1対策B	2								
	人文	現代社会の見方	2	現代文化論	2	哲学A	2	哲学B	2								
		地理学入門	2	宗教学入門	2	美学芸術学	2	倫理学	2								
						考古学	2	ミュージアムマネジメント（PBL）	2								
						人類学	2	美術史	2								
	スポーツ	健康科学の実践と理論	2	健康科学の実践と理論	2	テクニカルスポーツA	2	テクニカルスポーツB	2								
						スポーツと国際交流	2	スポーツ政策	2	スポーツとまちづくり（PBL）	2						
						シーズンスポーツ	2	シーズンスポーツ	2								
	共通	科目等履修科目															1～12
				国内・海外留学認定科目（英米語学科通常コース、スペイン語学科、フランス語学科、ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科、中国語学科、日本語学科、イタリア語学科、ロシア語学科、グローバルスタディーズ学科、グローバル観光学科）													1～48
												国内・海外留学認定科目（英米語学科ダイヤモンドコース）					1～48
						編入学時認定科目											1～28
				短期留学													1～4
				キャリア形成支援プログラム													1～4
				E-Learning (Tutorial Studies)													1
						大学コンソーシアム京都科目											1～12
								教育支援活動									1～2
														外国語技能検定試験（専攻語以外）	2		
														情報処理検定試験	2		
		世界一周！異文化体験のススメ											2				
		再入学時認定科目															1～28

履修上の注意事項

①「コミュニティ通訳特論Ⅱ」を履修するには、「コミュニティ通訳特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。また、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（英語）」を履修するには英米語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（スペイン語）」を履修するにはスペイン語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（ポルトガル語）」を履修するにはブラジルポルトガル語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（中国語）」を履修するには中国語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、それぞれ満たしておく必要があります。「コミュニティ通訳特論Ⅱ（ロシア語）」については、ロシア語学科生は「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得、ロシア語学科以外の学科の学生は「ロシア語能力検定試験　3級」を取得し、ロシア語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を満たしておく必要があります。

②「アラビア語Ⅱ」を履修するには、「アラビア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

③「インド語Ⅱ」を履修するには、「インド語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

④「インドネシア語Ⅱ」を履修するには、「インドネシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑤「オランダ語Ⅱ」を履修するには、「オランダ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑥「ギリシア語Ⅱ」を履修するには、「ギリシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑦「スワヒリ語Ⅱ」を履修するには、「スワヒリ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑧「タイ語Ⅱ」を履修するには、「タイ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑨「トルコ語Ⅱ」を履修するには、「トルコ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑩「ベトナム語Ⅱ」を履修するには、「ベトナム語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑪「ラテン語Ⅱ」を履修するには、「ラテン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑫「ビジネス日本語A」「ビジネス日本語B」「日本語能力試験N1対策A」「日本語能力試験N1対策B」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。

⑬「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料：認定科目)」で修得した単位は、合わせて４単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

⑭「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料：認定科目)」を履修するには、「健康科学の実践と理論」の単位を修得しておく必要があります。

学部共通科目（ゼミナール科目）

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
ゼミナール科目									ビジネス・マネジメント研究ゼミⅠ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅡ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅢ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅣ	2
									サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅠ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅡ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅢ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅣ	2
									公共政策研究ゼミⅠ	2	公共政策研究ゼミⅡ	2	公共政策研究ゼミⅢ	2	公共政策研究ゼミⅣ	2
									生活・環境研究ゼミⅠ	2	生活・環境研究ゼミⅡ	2	生活・環境研究ゼミⅢ	2	生活・環境研究ゼミⅣ	2
									情報・メディア研究ゼミⅠ	2	情報・メディア研究ゼミⅡ	2	情報・メディア研究ゼミⅢ	2	情報・メディア研究ゼミⅣ	2
									教育研究ゼミⅠ	2	教育研究ゼミⅡ	2	教育研究ゼミⅢ	2	教育研究ゼミⅣ	2
									言語教育ゼミⅠ	2	言語教育ゼミⅡ	2	言語教育ゼミⅢ	2	言語教育ゼミⅣ	2
									グローバル研究ゼミⅠ	2	グローバル研究ゼミⅡ	2	グローバル研究ゼミⅢ	2	グローバル研究ゼミⅣ	2
									国際教養ゼミⅠ	2	国際教養ゼミⅡ	2	国際教養ゼミⅢ	2	国際教養ゼミⅣ	2

履修上の注意事項

ゼミナール科目

①外国語学部生（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）は、所属学科のゼミおよび上記のゼミの中から１種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、２年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、８単位を修得してください。

③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の１年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。

④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

⑦「言語教育ゼミ」は、英米語学科生が履修することはできません。

専門科目（選択）の履修

配当年次に従い、卒業に必要な単位を修得してください（49 ページ参照）。

専門科目（選択）（英米語学科＜地域研究＞領域および日本語学科を除く）には、エレメンタリー、インターミディエイト、アドバンストの 3 つのレベルがあり、それぞれの言語およびレベルごとに履修基準を設けています。履修基準を満たしていなければ、インターミディエイト以上の授業科目を履修することはできません。

履修上の注意点

- **選択科目(英米語学科通常コースは選択科目＜キャリア＞領域)の卒業要件単位数には、所属学科配当のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）の 2 単位を含めて修得する必要があります。**したがって、エレメンタリーの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位を満たしても卒業することはできませんので、充分注意してください（英米語学科ダイヤモンドコース、日本語学科を除く）。
- 英米語学科通常コースの学生は、「＜キャリア＞領域」、「＜地域研究＞領域」のそれぞれの領域より配当年次に従い、卒業に必要な単位数を修得してください。
- 英米語学科ダイヤモンドコースの学生は、同コース専門科目（選択）＜キャリア＞領域のエレメンタリーおよびインターミディエイト科目（1 年次配当）を 2 年次以降に履修することはできません。
- 中国語学科既修者コースおよびロシア語学科特修コースの専門科目（選択）の卒業要件単位数を充足するには、所属学科・コース配当のアドバンストの授業科目（単位認定科目を含む）の単位を含めて修得する必要があります。
- 所属学科以外の学科の専門科目（選択）の授業科目（日本語学科の選択科目＜日本語領域＞を除く）も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入します（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）。
- 英米語学科通常コースの選択科目＜キャリア＞領域に配当している「TOEIC リスニング対策」、「TOEIC リーディング対策」は英米語学科で指定された人のみが履修できる授業科目です。

■ 履修基準を満たした場合の申請手続き

履修基準を満たした場合はそれを証明する手続きが必要となりますので、以下のとおり手続きを行ってください。

インターミディエイトまたはアドバンストの履修基準を満たした場合は、以下の要領で申請手続きを行ってください。原則として、**各学期の所定の期間にアカデミック・アドバイザーに証明書を提出し承認を受けられれば、次の学期から承認を受けた言語のレベルの授業科目を履修することができます。**

ただし、学内で実施する「TOEIC L&R (IP)」、「GTEC Academic 4 技能 (LRWS)」および「学科総合試験（ブラジルポルトガル語学科およびロシア語学科）」については、本学が Kyoto Gaidai UNIPAの「学籍情報照会」に結果を反映しますので、申請手続きは不要です。履修基準を満たしていれば、次の学期から当該レベルの授業科目を履修することができます。

【申請方法】

＜ 検定試験結果の入力 ＞	＜ 証明書のアップロード ＞		＜ 承認結果の確認・反映 ＞
Kyoto Gaidai UNIPA の「Web 申請」で検定試験の結果を入力	→「Web 申請」で語学検定試験の証明書をアップロード（モノクロで鮮明なものに限る）	→ アカデミック・アドバイザーが「承認」	→「Web 申請状況確認」で「承認」を確認 翌日以降に、「学籍情報照会」で「承認結果」の反映を確認

※申請内容に不備がある場合は、「差戻し」または「却下」となりますので、申請後は定期的に「Web 申請状況確認」で申請結果のステータスを確認してください。申請期間終了後に「差戻し」となった履修基準の申請を当該学期に再度申請することはできません。

【申請期間】

申請期間は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。語学検定試験の日程の関係で、申請期間内に語学検定試験の証明書の取得ができない場合は、申請することができませんので、計画的に語学検定試験を受験してください。

注 外国語技能検定試験の単位認定については、別途手続きが必要です（123 ページ）。

【専門科目（選択）履修基準】

言　語	エレメンタリー	インターミディエイト	アドバンスト
英語	—	① TOEIC L&R（IP を含む）550 点以上	① TOEIC L&R（IP を含む）650 点以上
		② TOEFL iBT57 点以上 ※ 2026 年 1 月 20 日以前実施分	② TOEFL iBT68 点以上 ※ 2026 年 1 月 20 日以前実施分
		③ TOEFL iBT3.5 以上 ※ 2026 年 1 月 21 日以降実施分	③ TOEFL iBT4 以上 ※ 2026 年 1 月 21 日以降実施分
		④ IELTS（アカデミック・モジュール）4.5 以上	④ IELTS（アカデミック・モジュール）5 以上
		⑤ GTEC Academic 2 技能（LR）230 点以上	⑤実用英語技能検定（S-CBT を含む）準 1 級以上
		⑥ GTEC Academic 4 技能（LRWS）480 点以上	⑥ GTEC Academic 2 技能（LR）260 点以上
			⑦ GTEC Academic 4 技能（LRWS）530 点以上
スペイン語	—	①スペイン語技能検定試験 5 級以上	①スペイン語技能検定試験 4 級以上
		② DELE A1 以上	② DELE A2 以上
フランス語	—	①実用フランス語技能検定 3 級以上	①実用フランス語技能検定準 2 級以上
		② DELF・DALF A1 以上	② DELF・DALF A2 以上
		③ TCF 100 以上	③ TCF 200 以上
ドイツ語	—	①ドイツ語技能検定 4 級以上	①ドイツ語技能検定 3 級以上
		② Goethe-Zertifikat A1 以上	② Goethe-Zertifikat A2 以上
ポルトガル語	—	①外国語としてのポルトガル語検定試験準初級以上	①外国語としてのポルトガル語検定試験初級以上
		②学科総合試験 55 点以上	②学科総合試験 80 点以上
中国語	—	① HSK3 級以上	① HSK（下のいずれか 1 つ） 4 級合格 5 級到達（合計 180 点以上） 6 級到達（合計 180 点以上） 7 級到達（合計 315 ～ 349 点） 8 級到達（合計 350 ～ 389 点） 9 級到達（合計 390 点以上） ※ 7・8・9 級は共通問題
		②中国語検定試験 4 級以上	②中国語検定試験 3 級以上
		③実用中国語技能検定試験 4 級以上	③実用中国語技能検定試験 3 級以上
イタリア語	—	①実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT4 級以上	①実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT3 級以上
		② CILS A1 以上	② CILS A2 以上
		③ CELI - Impatto 以上	③ CELI - 1 以上
ロシア語	—	① TORFL 検定試験基礎レベル	① TORFL 検定試験第 1 レベル
		②学科総合試験 60 点以上（ロシア語学科生）（注 1）	②学科総合試験 60 点以上（ロシア語学科生）（注 1）
		③ロシア語能力検定試験 3 級以上（ロシア語学科生以外）	③ロシア語能力検定試験 2 級以上（ロシア語学科生以外）

（注 1）ロシア語の②学科総合試験の受験対象者はロシア語学科生のみで、インターミディエイトの試験問題は TORFL 検定試験基礎レベル相当、アドバンストは TORFL 検定試験第 1 レベル相当です。

■編入学時の専門科目（選択）の専攻語の履修基準について

編入学時の各所属学科（日本語学科を除く）における専門科目（選択）の専攻語の履修基準のレベルについては、以下のとおりです。

（1）英米語学科

2 年次および 3 年次編入学ともエレメンタリーを基本とします。ただし、編入学時に受験を義務付けている TOEIC(IP)/GTEC の結果または個人で受験した英語の検定試験（本学指定の語学検定試験に限る）のインターミディエイト以上の結果を提出することで、専攻語の当該レベルの授業科目の履修を可能とします。

（2）スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、イタリア語、ロシア語学科

・2 年次編入学はエレメンタリーを基本とします。ただし、編入学時に専攻語の語学検定試験（本学指定の語学検定試験に限る）のインターミディエイト以上の結果を提出することで、専攻語の当該レベルの授業科目の履修を可能とします。

・3 年次編入学はインターミディエイトの履修基準を満たしていない場合でも、インターミディエイトを満たしたものとし、専攻語のインターミディエイトの授業科目の履修を可能とします。

また、編入学時に専攻語の語学検定試験（本学指定の語学検定試験に限る）のアドバンストの結果を提出することで、専攻語のアドバンストの授業科目の履修を可能とします。

ゼミナール科目　〈英米語学科ダイヤモンドコースを除く〉

【ゼミナール科目とは】

外国語学部では、ディプロマポリシーに掲げる「高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成」という理念のもと、４年間の学修の集大成としてゼミナール科目（必修）を設置しています。

ゼミナール科目では、３年次から2年間、担当教員の指導およびゼミ生同士の共同作業を通じて、自らの関心がある学問分野における専門知識や研究方法等の理解を深め、最終的には自ら設定した研究テーマにもとづく卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を完成させます。具体的には、文献講読や資料の精読、情報収集、調査、分析、フィールドワーク等を行い、研究報告や他のゼミ生との討論を重ねるなど、より質の高い卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を目指します。

したがって、1年次から、いずれどのようなゼミに入り、いかなる研究テーマを設定するかをイメージしつつ、４年間の学びの計画を立てることが重要です。そして、積極的にゼミの活動に参加していく姿勢が強く求められます。

これらのゼミでの活動を通じて、ディプロマポリシーに掲げる①構想するために必要な力（問題発見力・解決力、思考力・判断力、創造力・企画力）、②実践するために必要な力（主体的に取り組む力、情報収集力・分析力、計画力・実行力）、③共同するために必要な力（プレゼンテーション力、コミュニケーション力、多文化共生力）など、社会で活躍するうえで役立つ様々な能力を養い、将来豊かな人生を送るための糧とします。

なお、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は、「〇〇ゼミⅣ」の授業と一体的に評価をします。

【履修するゼミの選考・登録の流れ】

外国語学部（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）を卒業するためには、所属学科のゼミナール科目または学部共通のゼミナール科目のゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修して単位を修得し、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の作成に必要な研究指導を受け、卒業論文または卒業研究を提出し、合格しなければなりません。

ゼミナール科目は3年次から登録しますが、研究指導に適正な人数を保つために選考を行いますので、以下のとおり手続きを行ってください。

※ゼミナール科目は 3 年次から配当されているため、選考は 2 年次秋学期に行います。
　選考の対象は、休学・留学中の学生を含むすべての 2 年次生です。

2年次	9 ～ 11 月	各ゼミの内容を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で確認し、所定の期間に志望ゼミを申請してください。志望者が多いゼミについては、志望理由の内容や面談等により選考 を行います。 ※ゼミ選考のスケジュール等の詳細は、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	12 ～ 1 月	選考結果を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で発表します。
3年次	4 月	発表内容に従いゼミを履修登録してください。

ゼミナール科目履修上の注意

・学部共通ゼミナール科目のうち、「言語教育ゼミ」は、英米語学科生が履修することはできません。
・ゼミⅠを受講するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の 1 年次配当のすべての専門科目（必修）（英米語学科の選択必修を除く）の単位を修得しておく必要があります。
・選考後はゼミの変更はできません。ゼミはⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に履修し、単位を修得してください。Ⅱを履修するにはⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
　なお、ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、春学期・秋学期の各学期に開講します。
・所定のゼミ申請を行わずゼミが決まっていない人は、履修登録開始日までに教育支援課へ申し出てください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格】

ゼミⅣを履修している場合は、当該学期の卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格がありますので、所定の期間に提出してください。

＜ 留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）の場合 ＞

ゼミⅣを履修する学期に留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）をする場合においても、留学中に担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出することができます。

なお、ゼミⅣの単位については、担当教員が提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価を「合格」とした場合に限り認定します。

したがって、留学中も必ずゼミ担当者と連絡をとり指導を受けてください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出期間】

3月卒業	12月13日～20日
9月卒業	7月　1日～20日

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。
※提出期限に遅れた場合は受け付けません。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長する場合があります。なお、手続きは追試験に準じます。
（延長が認められた場合の提出期日）

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出方法】

Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、成果物ファイルをアップロードしてください。詳細は、3月卒業予定者へは 11 月に、9月卒業予定者へは 6 月に、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成にあたっての注意事項】

（1）提出期日等を厳守すること

所定の期日までに所定の提出方法により提出しなければなりません。表紙等の体裁や文字数等は、学生便覧記載の「様式」を参照してください。

（2）提出前にゼミ担当教員の指導を受けること

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）のテーマは、担当教員と相談のうえ決定し、変更する場合も事前に相談しなければなりません。また、担当教員の指示にもとづき、研究計画書の提出や中間・完成報告等が必要となります。

ゼミ担当教員の指導を経ずに提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は評価の対象となりません。また、ゼミの欠席が著しく多い人や担当教員の指導や指示に従わない人が提出した場合も評価の対象とならない可能性があります。

なお、卒業論文は論文形式をとる成果物、卒業研究は論文形式をとらない成果物ですが、それぞれの様式にしたがって作成してください。

（3）剽窃行為はしないこと

剽窃（盗用）行為が判明し、教授会において不正行為を行ったと判定した場合、不正行為の内容によっては当該科目（ゼミⅣ）の成績評価を失格とします。そのほか、参考文献の引用方法等については、担当教員の指示にしたがってください。

（4）卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出しても必ず合格とはならないこと

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は提出すれば必ず単位を修得できるというわけではありません。合格の水準に達していなければ不合格になります。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準】

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準は以下のとおりとします。

（1）卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価

①卒業論文の評価

論文審査および口述試問により評価します。

②卒業研究の評価

中間報告（発表）、卒業研究および口頭発表により評価します。

（2）評価基準

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価にあたっては、以下の項目を基準とします。

①テーマの設定および研究方法が先行研究を踏まえている。

②研究資料およびデータが的確に収集・処理されている。

③研究資料およびデータの分析・解釈が的確であり、かつ、表現・表記が論理的に展開し、論旨に明確性と一貫性がある。

❶ 卒業論文【様式】

1．本文の使用言語

専攻する外国語（日本語学科は日本語）。ただし、担当教員が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

2．本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。専攻語は 20 枚以上（中国語は7枚以上）とします。
また、日本語の場合は 16,000 字以上とします。

判の大きさ	A4判
1 枚あたりの文字数等	外国語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cm を目安にし、Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 日本語（中国語を含む）では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさで、1枚につき一行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。

3．ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業論文題目

②内題・検索用キーワード

③論文要旨

パソコンを使用し、日本語（A 4用紙1～2枚・800 ～ 1,200 字）で作成してください。

④目次

⑤本文

⑥文献リスト・資料

❷ 卒業研究【様式】

1．本文の使用言語

専攻する外国語（日本語学科は日本語）。ただし、担当教員が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

2．本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。専攻語は5枚以上（中国語は3枚以上、日本語は7枚以上）とします。
また、例外的にリポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1 枚あたりの文字数等	外国語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cm を目安にし、Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 日本語（中国語を含む）では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさで、1枚につき一行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。 ※図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3．ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業研究表題

②卒業研究タイトル・概要

パソコンを使用し、日本語（タイトルは 40 字以内、概要は 400 字以内）で作成してください。

③本文

全学共通科目（教養科目）のスポーツ

健康科学の実践と理論



スポーツの実践と講義をとおして身体運動能力や協調性を養い、健康の保持・増進に関する諸問題を学ぶことにより、良好な社会生活を営む力を身につけることを目標としています。授業は、実技種目・講義を行い、1 週目の授業は武道体育館アリーナ（第 2 分館）にて授業概要説明を行いますので、写真（3 × 4cm）1 枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。詳しくは、シラバスを参照してください。

① 実技種目	バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、フットサル、ニュースポーツ（9週実施）
② 講　　義	「講義概要説明」・「競技種目の理解」・「障害、外傷」・「スポーツ社会学」・「スポーツ生理学」・「測定と評価」・「まとめ」（5週実施）

※ニュースポーツについて

ペタンク、モルック、ユニホック、グラウンドゴルフ、キンボール、シャフルボード、スカットボール等のルール理解と実践を行います。

・「健康科学の実践と理論」は、教育職員免許状取得に必要な「体育に関する科目（2 単位）」です。
・本学が行う定期健康診断は、授業の一環として扱いますので、必ず受診してください。

テクニカルスポーツ



「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、より高いスポーツ技術の習得、戦術の理解、ゲームの運営や分析について学び、試合や大会の企画・運営ができる能力を各学習段階に応じて習得するコースです。1 週目の授業は武道体育館アリーナ（第 2 分館）にて授業概要説明を行いますので、写真（3 × 4cm）1 枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。また、種目の詳細はシラバスで確認してください。

なお、「テクニカルスポーツ A・B」「シーズンスポーツ（有料：認定科目）」で修得した単位は、合わせて 4 単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

※ユニバーサルスポーツについて

ペタンク、モルック、ターゲットバードゴルフ、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、ユニホック、ゴールボール、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボール等のルール理解と実践を行います。

シーズンスポーツ



「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、学外施設を使用した野外活動（集中実技授業）を実施する認定科目です（有料）。

なお、UNIPA の「掲示板」等でオリエンテーションの日時と場所をお知らせしますので、参加希望者は必ず出席してください。

種目名	時期	場所	期間	費用
マリンスポーツ	8月下旬	沖縄県恩納村	4日間	85,800円（予定）　※別途、交通費が必要
スノースポーツ	2月上旬	長野県栂池高原	5日間	57,000円（予定）　※別途、交通費が必要

※シーズンスポーツは単位認定科目です。
※テクニカルスポーツ A（2 単位）およびテクニカルスポーツ B（2 単位）の単位を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定となります。

外国語学部の他学科の授業科目の履修

外国語学部の所属学科以外の学科で開講する授業科目のうち、専門科目（選択）（日本語学科の専門科目（選択）＜日本語教育領域＞を除く）を配当年次に従って履修することができ、修得した単位は自由選択に算入されます。ただし、履修基準や履修条件が定められている授業科目を履修するには、当該履修基準等を満たしておかなければなりません。

また、抽選等で登録者数を制限する場合は、当該授業科目が配当されている学科生を優先します。

なお、国際貢献学部に配当している授業科目は履修できません。

国際貢献学部



卒業要件

4年（8学期）在学し、以下の授業科目区分に従って、124 単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。学生本人の責任において綿密な履修計画を立て、学期毎に単位修得状況を確認し、卒業要件を満たすようにしてください。

授業科目区分		グローバルスタディーズ学科	グローバル観光学科
学部基幹科目		16	16
専門科目	必修	22	28
	展開		28 ※
	選択	48 ※	14 ※
ゼミナール科目		8	8
全学共通科目	外国語科目	4 ※	4 ※
	教養科目	8 ※	16 ※
自由選択 **（注1）**		18	10
合計		124	124

（注1）自由選択は、※印を付した授業科目区分(専門科目(展開)、専門科目(選択)、全学共通科目)の中で卒業に必要な単位数を超えて修得した単位および国際貢献学部の所属学科以外の学科の専門科目(展開)、専門科目(選択) の授業科目を履修し修得した単位が算入されます。

卒業判定

4 年次生を対象に、在学中に修得した単位数および在学年月数に基づき、年度末 (3 月卒業) および春学期末 (9 月卒業) に卒業判定を行います。

なお、4 年 (8 学期) 在学し、上記の「卒業要件」の表に定められた授業科目区分毎に所定の単位を修得し、合計 124 単位以上を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 3月卒業

判定結果は **「卒業」** または **「留年」** のいずれかとなります。
判定結果発表は2月下旬～3 月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」 と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

2. 9月卒業

グローバルスタディーズ学科の 9 月入学の 4 年次生と「1. 3 月卒業」で「留年」になった人が対象となります。

判定結果は **「卒業」** または **「留年」** のいずれかとなります。
判定結果発表は 9 月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」 と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

※判定結果「留年」には、①在学年月数が 4 年 (8 学期) 未満の学生で修業年限が不足している「留年」と、②在学年月数が 4 年 (8 学期) 以上の学生で卒業要件単位数が不足している「留年 (卒業延期)」の 2 種類があります。

履修登録

履修登録とは、**学生本人の責任において**自らが、履修する授業科目を決定し、所定の期間内に行う手続きのことです。

履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目の受講や、試験を受けることができず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、**履修登録をする際には、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」内の授業科目時間割およびKyoto Gaidai UNIPAの「シラバス照会」を大いに活用し、科目区分、単位数、開講学期、使用される言語、評価基準等をしっかり確認してください。**

※履修登録を行うには、Kyoto Gaidai UNIPAの「マイステップ登録」で、学修目標等の入力が必須です。必ず所定の期間に必要事項を入力してください。

＜履修の手引き・履修登録日程・抽選科目リスト・Webシラバス＞

1 履修登録の時期

春学期は3～4月（新入生は4月）、 秋学期は9月の所定の期間に登録してください。

※年度により、春学期の履修登録を3月に行わない場合があります。

2 履修登録の方法

Kyoto Gaidai UNIPAの「履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間に登録できない場合は、必ず事前に学生本人が教育支援課へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数および学修の質を確保するため、学期毎および年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。学期毎の単位数が上限単位数内であっても年間の上限単位数を超えて履修登録をすることはできません。（例えば、卒業要件（通算）のGPAが2.7未満の人が春学期に26単位履修登録した場合、秋学期に履修登録できる上限の単位数は22単位となります。）

春学期	秋学期	年間	備考
26	26	48	• 資格課程に関する授業科目は含みません。 • 卒業要件（通算）のGPAが2.7以上の場合は、上限を超えて履修登録することができます。

4 全学共通科目（外国語科目）の登録

外国語科目の登録方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」で確認してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

指定クラスをKyoto Gaidai UNIPAの「学籍情報照会」で確認のうえ、該当する授業科目を「履修登録」で登録してください。再履修等によりクラス(担当者) 変更が必要な場合は、授業開始までに実施する「履修登録相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録してください。**

ただし、履修条件を設けている授業科目を除き、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

（例えば、1年次生は2年次配当の授業科目は登録できませんが、4年次生は1～3年次配当の授業科目を登録できます。）

7 抽選科目の登録

選択科目には、授業内容および教室設備等の関係で登録者数を制限するため、抽選を行う科目があります。履修を希望する場合は、自身の必修科目やゼミナール科目の曜講時を確認のうえ、所定の申請期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「抽選希望登録」で申請してください。ただし、**当選した科目については、履修の取消を認めません**ので、注意してください。対象科目は、各学期の履修登録開始前に本学ホームページに掲載する「抽選科目一覧」を参照してください。

8 履修登録の相談等

履修登録の相談等は、教育支援課で行っていますので、学生証を持参し、相談に来てください。問い合わせ内容によっては、電話やメールではお答えできない場合があります。

また、履修登録期間に合わせて、対面での相談期間を設けていますので、利用してください。

なお、休学、留学することで履修計画に関する不明な点がある場合は、早めに相談してください。

9 履修登録の確認

誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了してください。

なお、履修登録を完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管しておいてください。また、**履修登録完了後に、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、登録した科目が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。**

10 履修登録科目の取消

履修登録し授業に出席した後に履修を中止する場合は、**必修科目（ゼミナール科目を含む）および抽選科目を除き**、各学期の所定の期間に **Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」**で、履修の取消をすることができます（卒業年次は卒業要件を満たす範囲内）。ただし、別の授業科目の追加や、履修を取り消した授業科目の再登録を当該の学期中に行うことはできません。

また、履修登録科目の取消が完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管するとともに、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間表」に、取消内容が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

なお、履修を取り消した授業科目は、GPA を算出する対象科目とはなりません。

11 その他の注意事項

・所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
・履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません（履修エラーに該当する授業科目を含む）。
・同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
・単位を修得済みの授業科目は登録できません。
・授業担当者が異なっていても同一科目を複数登録することはできません。

科目区分毎の目標

グローバルスタディーズ学科

学部基幹科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題を理解し、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を身につけることを目標とします。
専門科目	必修	持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得することを目標とします。
	選択	卒業後の進路を見据えた 3 つの領域を軸に、多文化共生実現力を支える社会科学への深い理解と最新のデジタル技術の修得を目標とします。
ゼミナール科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信することを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	英語以外の外国語を学ぶことにより、グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義にもとづく多様性を養うことを目標とします。
	教養科目	広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることを目標とします。

グローバル観光学科

学部基幹科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題を理解し、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を身につけることを目標とします。
専門科目	必修	持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得することを目標とします。
	展開	学際的な観光学の幅広い素養を育むことを目標とします。また、卒業後の進路を見据えて、データ科学を基礎とする自分と社会の利益を両立させるビジネスや最新のデジタル技術、京都の本質について、体系的に学修することを目標とします。
	選択	世界平和の構造とそれに向けた協力のあり方、まちづくりの実践や新しい観光について，科学的に学ぶことを目標とします。
ゼミナール科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信することを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	外国語を学ぶことにより、グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義にもとづく多様性を養うことを目標とします。
	教養科目	広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることを目標とします。

学部基幹科目・専門科目（必修・展開・選択）・ゼミナール科目

[グローバルスタディーズ学科・4月入学者用]

科目区分			1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		3年次 春学期		3年次 秋学期		4年次 春学期		4年次 秋学期		卒業要件	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
学部基幹科目			Global Engagement	2	Global Engagement and Peace	2	Community Engagement Workshop A	2	Community Engagement Workshop B	2									16	86
			Introductory Seminar A	2	Introductory Seminar B	2														
			Digital Literacy	2	Digital Citizenship and Engagement	2														
専門科目	必修		Model United Nations	2	Introduction to Economics	2	Statistics	2											22	
			Academic Writing Ⅰ	2	Academic Writing Ⅱ	2	Writing for Research	2												
			Global Communication A (週2回授業)	4	Global Communication B (週2回授業)	4	Contemporary Global History	2												
	選択	領域	Extensive Reading for World Knowledge	2	Gender and Society	2	Global Diplomacy Simulation	2	International Organizations	2	Human Migration and Displacement	2	Japan-US Relations	2					48	
			International Relations	2	Sustainable Development	2	Conflict Resolution	2	Political Philosophy	2	Security Studies	2	International Politics and East Asia	2						
							Energy Systems and Climate Change	2	Energy Transition for Sustainability	2	International Development Cooperation	2	International Human Rights and Humanitarian Law	2						
							Environmental Policy	2	Urban Policy	2	Topics in Sustainability and International Cooperation C	2								
							Topics in Sustainability and International Cooperation A	2	Topics in Sustainability and International Cooperation B	2										
			Global Business Management	2	Financial Accounting	2	Corporate Social Responsibility	2	Business Finance	2	Global Negotiation	2	Labor, Management and Technology	2						
			Mathematics for Economics and Business	2	Business Practicum	2	Marketing	2	Organizational Management	2	International Trade	2	Economics of Development	2						
							Microeconomics	2	Macroeconomics	2	Topics in Business and Economics B	2	Topics in Business and Economics C	2						
							Topics in Business and Economics A	2	Japanese Companies and the Global Business Environment	2										
			Presentation and Digital Storytelling	2	Presentation Design	2	Design Thinking	2	Video Production Workshop	2	Kyoto Video Game Industry	2	Digital Business Strategy	2						
			Digital Communication	2	Digital Design and Publishing	2	Law in the Digital Age	2	Creativity and Innovation	2	Future Technologies	2	Brand Communications	2						
							Gender and Leadership	2	Values Based Leadership	2	Topics in Digital Transformation and Leadership B	2	Topics in Digital Transformation and Leadership C	2						
							Immersive Technology Workshop	2	Game, Interaction, and Experience Design	2										
							Topics in Digital Transformation and Leadership A	2												
	共通						Community Engagement											4		
							編入学時認定科目											1～20		
			再入学時認定科目															1～48		
ゼミナール科目											Global Studies Seminar Ⅰ	2	Global Studies Seminar Ⅱ	2	Global Studies Seminar Ⅲ	2	Global Studies Seminar Ⅳ	2	8	8

履修上の注意事項

学部基幹科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、22単位を修得してください。
②「Academic Writing Ⅱ」を履修するには、「Academic Writing Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
③「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。

専門科目（選択）
①配当年次に従い、3つの領域から選択して履修し、計48単位を修得してください。
②「Community Engagement」は、グローバルスタディーズ学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、119ページを参照してください。
③グローバル観光学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①グローバルスタディーズ学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑤ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

[グローバルスタディーズ学科・9月入学者用] ※秋学期から始まります。

科目区分				1年次 秋学期		1年次 春学期		2年次 秋学期		2年次 春学期		3年次 秋学期		3年次 春学期		4年次 秋学期		4年次 春学期		卒業要件	
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
学部基幹科目				Global Engagement and Peace	2	Global Engagement	2	Community Engagement Workshop B	2	Community Engagement Workshop A	2									16	86
				Introductory Seminar B	2	Introductory Seminar A	2														
				Digital Citizenship and Engagement	2	Digital Literacy	2														
専門科目	必修			Introduction to Economics	2	Model United Nations	2			Statistics	2									22	
				Academic Writing Ⅰ	2	Academic Writing Ⅱ	2	Writing for Research	2												
				Global Communication B (週2回授業)	4	Global Communication A (週2回授業)	4			Contemporary Global History	2										
	選択	領域	Sustainability and International Cooperation	Gender and Society	2	Extensive Reading for World Knowledge	2	International Organizations	2	Global Diplomacy Simulation	2	Japan-US Relations	2	Human Migration and Displacement	2					48	
				Sustainable Development	2	International Relations	2	Political Philosophy	2	Conflict Resolution	2	International Politics and East Asia	2	Security Studies	2						
								Energy Transition for Sustainability	2	Energy Systems and Climate Change	2	International Human Rights and Humanitarian Law	2	International Development Cooperation	2						
								Urban Policy	2	Environmental Policy	2			Topics in Sustainability and International Cooperation C	2						
								Topics in Sustainability and International Cooperation B	2	Topics in Sustainability and International Cooperation A	2										
			Global Business and Economics	Financial Accounting	2	Global Business Management	2	Business Finance	2	Corporate Social Responsibility	2	Labor, Management and Technology	2	Global Negotiation	2						
				Business Practicum	2	Mathematics for Economics and Business	2	Organizational Management	2	Marketing	2	Economics of Development	2	International Trade	2						
								Macroeconomics	2	Microeconomics	2	Topics in Business and Economics C	2	Topics in Business and Economics B	2						
								Japanese Companies and the Global Business Environment	2	Topics in Business and Economics A	2										
			Digital Transformation and Change Leadership	Presentation Design	2	Presentation and Digital Storytelling	2	Video Production Workshop	2	Design Thinking	2	Digital Business Strategy	2	Kyoto Video Game Industry	2						
				Digital Design and Publishing	2	Digital Communication	2	Creativity and Innovation	2	Law in the Digital Age	2	Brand Communications	2	Future Technologies	2						
								Values Based Leadership	2	Gender and Leadership	2	Topics in Digital Transformation and Leadership C	2	Topics in Digital Transformation and Leadership B	2						
								Game, Interaction, and Experience Design	2	Immersive Technology Workshop	2										
										Topics in Digital Transformation and Leadership A	2										
			共 通					Community Engagement												4	
				再入学時認定科目																1～48	
ゼミナール科目												Global Studies Seminar Ⅰ	2	Global Studies Seminar Ⅱ	2	Global Studies Seminar Ⅲ	2	Global Studies Seminar Ⅳ	2	8	8

履修上の注意事項

学部基幹科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。

専門科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、22単位を修得してください。
②「Academic Writing Ⅱ」を履修するには、「Academic Writing Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
※「Academic Writing Ⅰ」「Academic Writing II」「Writing for Research」は、9月入学者用の科目を履修してください。
③「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。

専門科目(選択)
①配当年次に従い、3つの領域から選択して履修し、計48単位を修得してください。
②「Community Engagement」は、グローバルスタディーズ学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、119ページを参照してください。
③グローバル観光学科生が履修を希望する場合は、「4月入学者用」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①グローバルスタディーズ学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑤ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

[グローバル観光学科]

科目区分		1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		3年次 春学期		3年次 秋学期		4年次 春学期		4年次 秋学期		卒業要件 各区分	卒業要件 合計
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部基幹科目		Global Engagement	2	Global Engagement and Peace	2	Community Engagement Workshop A	2	Community Engagement Workshop B	2									16	86
		Introductory Seminar A	2	Introductory Seminar B	2														
		Digital Literacy	2	Digital Citizenship and Engagement	2														
専門科目	必修	社会学	2	フィールドワーク論	2	観光関連法規概論	2											28	
		データ科学Ⅰ	2	データ科学Ⅱ	2	観光メディア概論	2												
		京都の文化と歴史Ⅰ	2	京都の文化と歴史Ⅱ	2	観光経営概論	2												
		経営学	2	会計学	2	行動科学	2												
		観光学A	2	経済学	2														
	展開	歴史学	2	観光学B	2	京都文化特論Ⅰ	2	京都文化特論Ⅱ	2	京都実地踏査論	2	京都世相研究(PBL)	2					28	
		地理学	2	社会情報学	2	ジェンダー論	2	観光マーケティング論	2	デジタルアーカイブ論	2	現代京都論	2						
				文化人類学	2	Immersive Technology Workshop	2	観光行政学	2	観光組織行動論	2								
				哲学	2			Game, Interaction, and Experience Design	2	グローバルツーリズム論	2								
										サスティナブルツーリズム	2								
										観光ビジネス心理	2								
						編入学時認定科目											1～14		
		再入学時認定科目															1～28		
	選択					公共政策論	2	国際貢献論	2	旅行事業論	2	宿泊事業論	2					14	
								観光まちづくり論	2	観光まちづくり実践(PBL)	2	ニューツーリズムB	2						
										ニューツーリズムA	2								
										Presentation Skills for Tourism	2								
						Community Engagement											4		
						編入学時認定科目											1～4		
		再入学時認定科目															1～14		
	日本語を母語とする学生用	Basic English for Tourism	2	Reading for Tourism	2	Business Writing for Tourism	2	Communication Skills for Tourism	2										
	日本語を母語としない学生用					社会科学のための日本語A	2	社会科学のための日本語B	2	社会科学のための日本語C	2	社会科学のための日本語D	2						
ゼミナール科目										専門ゼミⅠ	2	専門ゼミⅡ	2	専門ゼミⅢ	2	専門ゼミⅣ	2	8	8

履修上の注意事項

学部基幹科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。

専門科目(必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、28単位を修得してください。
②「データ科学Ⅱ」を履修するには、「データ科学Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
③「京都の文化と歴史Ⅱ」を履修するには、「京都の文化と歴史Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

専門科目(展開)
①配当年次に従い、選択して履修し、計28単位を修得してください。
②「京都文化特論Ⅱ」を履修するには、「京都文化特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
③グローバルスタディーズ学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

専門科目(選択)
①配当年次に従い、選択して履修し、計14単位を修得してください。
②「Basic English for Tourism」「Reading for Tourism」「Business Writing for Tourism」「Communication Skills for Tourism」は、日本語を母語とする人を履修対象者とし、クラス(担当者)を指定します。
③「社会科学のための日本語A」「社会科学のための日本語B」「社会科学のための日本語C」「社会科学のための日本語D」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した国際貢献学部の「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。
④「Presentaion Skills for Tourism」を履修するには、GTEC(LR)270点以上、または、TOEIC(L&R)480点以上が必要です。
⑤「Community Engagement」は、グローバル観光学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、119ページを参照してください。
⑥グローバルスタディーズ学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①グローバル観光学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑤ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

全学共通科目（外国語科目）

[外国語学部・国際貢献学部　共通]

科目区分		1年次 春学期 授業科目	単位	1年次 秋学期 授業科目	単位	2年次 春学期 授業科目	単位	2年次 秋学期 授業科目	単位	3年次 春学期 授業科目	単位	3年次 秋学期 授業科目	単位	4年次 春学期 授業科目	単位	4年次 秋学期 授業科目	単位	卒業要件 合計
全学共通科目（外国語科目）				英語Ⅰ（週２回授業）	4	英語Ⅰ（週２回授業）	4	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2					4
						英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2							
				スペイン語Ⅰ（週２回授業）	4	スペイン語Ⅰ（週２回授業）	4	スペイン語Ⅱ	2									
						スペイン語Ⅱ	2											
				フランス語Ⅰ（週２回授業）	4	フランス語Ⅰ（週２回授業）	4	フランス語Ⅱ	2									
						フランス語Ⅱ	2											
				ドイツ語Ⅰ（週２回授業）	4	ドイツ語Ⅰ（週２回授業）	4	ドイツ語Ⅱ	2									
						ドイツ語Ⅱ	2											
				ポルトガル語Ⅰ（週２回授業）	4	ポルトガル語Ⅰ（週２回授業）	4	ポルトガル語Ⅱ	2									
						ポルトガル語Ⅱ	2											
				中国語Ⅰ（週２回授業）	4	中国語Ⅰ（週２回授業）	4	中国語Ⅱ	2									
						中国語Ⅱ	2											
				イタリア語Ⅰ（週２回授業）	4	イタリア語Ⅰ（週２回授業）	4	イタリア語Ⅱ	2									
						イタリア語Ⅱ	2											
				ロシア語Ⅰ（週２回授業）	4	ロシア語Ⅰ（週２回授業）	4	ロシア語Ⅱ	2									
						ロシア語Ⅱ	2											
				コリア語Ⅰ（週２回授業）	4	コリア語Ⅰ（週２回授業）	4	コリア語Ⅱ	2									
						コリア語Ⅱ	2											
	日本語を母語としない学生用	日本語A（週２回授業）	4	日本語A（週２回授業）	4													
		日本語B（週２回授業）	4	日本語B（週２回授業）	4													
		日本語C（週２回授業）	4	日本語C（週２回授業）	4													
		日本語D（週２回授業）	4	日本語D（週２回授業）	4													
		日本語E（週２回授業）	4	日本語E（週２回授業）	4													
		日本語F（週２回授業）	4	日本語F（週２回授業）	4													
		日本語G（週２回授業）	4	日本語H（週２回授業）	4													
		日本語J（週２回授業）	4															

履修上の注意事項

①グローバルスタディーズ学科生は「英語」および母語以外の言語を選択し、また、グローバル観光学科生は母語以外の言語を選択し、配当年次に従い、４単位を修得してください。ただし、「日本語A～J」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。また、「日本語J」は日本語学科生のみを履修対象者とします。

②１年次生は春学期の所定の期間に履修を希望する言語の申請を行ってください。抽選のうえ、クラス（担当者）を指定します。２年次以降も、学期ごとに異なる言語の履修希望を申請することもできます。ただし、「日本語A～J」については、上記①の学生を対象に、レベルに応じて、１年次春学期に履修するクラス（担当者）を指定しますので、指定された人は必ず履修してください。
なお、グローバルスタディーズ学科の9月入学者は上記春学期を秋学期に置き換えてください。

③「週２回授業」は必ず２回とも履修してください。

④「英語Ⅱ」を履修するには、「英語Ⅰ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤「スペイン語Ⅱ」を履修するには、「スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑥「フランス語Ⅱ」を履修するには、「フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑦「ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑧「ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑨「中国語Ⅱ」を履修するには、「中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑩「イタリア語Ⅱ」を履修するには、「イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑪「ロシア語Ⅱ」を履修するには、「ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑫「コリア語Ⅱ」を履修するには、「コリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑬「日本語G」「日本語H」「日本語J」を除く授業科目はすべて春・秋学期に開講します。

全学共通科目（教養科目）

[外国語学部・国際貢献学部　共通]

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
全学共通科目（教養科目）	ビジネス・キャリア	キャリアベーシック	2			キャリア形成A	2	キャリア形成B	2	コミュニティ通訳特論Ⅰ	2	コミュニティ通訳特論Ⅱ（英語）	2				
				経営学入門	2	経営学応用A	2	経営学応用B	2			コミュニティ通訳特論Ⅱ（スペイン語）	2				
				経済学入門	2	経済学応用	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ（ポルトガル語）	2				
				会計学入門	2	特殊研究B（企業からの寄付講座）	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ（中国語）	2				
				Basic Business Administration	2	Applied Business Administration	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ（ロシア語）	2				
				Basic Economics	2	Applied Economics	2										
	サイエンス・テクノロジー			環境論A	2	環境論B	2										
				メディア論	2	メディアリテラシー論	2										
				情報技術の実践	2	防災の科学	2										
				キャリアのための数学入門	2	数的理解	2										
				データ科学入門	2	データ科学応用	2										
						Environmental Issues	2	Media in Japan	2	Advanced Topics in Emerging Technology	2						
								eSports Fundamentals	2								
	教育	生涯学習概論	2	青少年の行動と心理	2	コミュニケーションの心理	2	臨床心理学	2								
		多文化理解と人権	2	多文化理解と人権	2	コーチングの理論	2	コーチングの実践	2								
		人権と教育	2	人権と教育	2	リーダーシップ概論	2	教育の課題	2								
	政治・平和			国際関係論入門	2	国際関係論応用	2	国際平和協力論	2								
				政治学入門	2	政治学応用	2	国際法	2								
				法学入門	2	言語政策	2	平和・安全保障論	2								
				日本国憲法	2	国際連合論	2										
						模擬国連会議（PBL）	2										
				言語と平和B	2	グローバル化とジェンダー	2										
	京都・日本			多文化間コミュニケーション	2	比較文化論	2	特殊研究C（地域連携研究）	2								
		京都文化論A	2	京都文化論B	2	京都の伝統文化A	2	京都の伝統文化B	2								
		Japanese Geography	2	Japanese History and Culture	2	Current Kyoto and Tradition	2	Destination Kyoto	2								
						Japanese Philosophy	2	Religions in Japan	2								
						Japan Pop Cultures	2	Japan seen through Animations	2								
						もっと京都プロジェクトA	2	もっと京都プロジェクトB	2								
	国際社会	世界の歴史と文化A-1（日本、アジア、アフリカ、オセアニア）	2	世界の歴史と文化A-2（日本、アジア、アフリカ、オセアニア）	2	世界の歴史と文化B-1（ヨーロッパ、南北アメリカ）	2	世界の歴史と文化B-2（ヨーロッパ、南北アメリカ）	2								
				特殊研究A（異文化理解研究）	2	特殊研究D（グローバル研究）	2	世界文化と多様性	2								
						Intercultural Communication in Practice A	2	Intercultural Communication in Practice B	2								

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
全学共通科目（教養科目）	言語	言語の仕組み	2	言語の成り立ち	2			日英対照言語学	2								
				音声学入門	2			日中対照言語学	2								
		日本語学入門A	2	日本語学入門B	2			バイリンガルの言語形成	2								
		日本語教育入門A	2	日本語教育入門B	2	2言語同時学習（ES）A	2	2言語同時学習（ES）B	2								
						2言語同時学習（EF）A	2	2言語同時学習（EF）B	2								
						2言語同時学習（EG）A	2	2言語同時学習（EG）B	2								
						2言語同時学習（EP）A	2	2言語同時学習（EP）B	2								
						2言語同時学習（EC）A	2	2言語同時学習（EC）B	2								
						2言語同時学習（EI）A	2	2言語同時学習（EI）B	2								
						2言語同時学習（ER）A	2	2言語同時学習（ER）B	2								
						アラビア語Ⅰ	2	アラビア語Ⅱ	2								
						インド語Ⅰ	2	インド語Ⅱ	2								
						インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語Ⅱ	2								
						オランダ語Ⅰ	2	オランダ語Ⅱ	2								
						ギリシア語Ⅰ	2	ギリシア語Ⅱ	2								
						スワヒリ語Ⅰ	2	スワヒリ語Ⅱ	2								
						タイ語Ⅰ	2	タイ語Ⅱ	2								
						トルコ語Ⅰ	2	トルコ語Ⅱ	2								
						ベトナム語Ⅰ	2	ベトナム語Ⅱ	2								
						ラテン語Ⅰ	2	ラテン語Ⅱ	2								
						日本語のスキルA	2	日本語のスキルE	2								
						日本語のスキルB	2	日本語のスキルF	2								
						日本語のスキルC	2	日本語のスキルG	2								
						日本語のスキルD	2	日本語のスキルH	2								
	日本語を母語としない学生用					ビジネス日本語A	2	ビジネス日本語B	2								
						日本語能力試験N1対策A	2	日本語能力試験N1対策B	2								
	人文	現代社会の見方	2	現代文化論	2	哲学A	2	哲学B	2								
		地理学入門	2	宗教学入門	2	美学芸術学	2	倫理学	2								
						考古学	2	ミュージアムマネジメント（PBL）	2								
						人類学	2	美術史	2								
	スポーツ	健康科学の実践と理論	2	健康科学の実践と理論	2	テクニカルスポーツA	2	テクニカルスポーツB	2								
						スポーツと国際交流	2	スポーツ政策	2	スポーツとまちづくり（PBL）	2						
						シーズンスポーツ	2	シーズンスポーツ	2								
	共通	科目等履修科目															1〜12
				国内・海外留学認定科目（英米語学科通常コース、スペイン語学科、フランス語学科、ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科、中国語学科、日本語学科、イタリア語学科、ロシア語学科、グローバルスタディーズ学科、グローバル観光学科）													1〜48
												国内・海外留学認定科目（英米語学科ダイヤモンドコース）					1〜48
						編入学時認定科目											1〜28
				短期留学													1〜4
				キャリア形成支援プログラム													1〜4
				E-Learning (Tutorial Studies)													1
						大学コンソーシアム京都科目											1〜12
								教育支援活動									1〜2
														外国語技能検定試験（専攻語以外）	2		
														情報処理検定試験	2		
		世界一周！異文化体験のススメ											2				
		再入学時認定科目															1〜28

履修上の注意事項

①「コミュニティ通訳特論Ⅱ」を履修するには、「コミュニティ通訳特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。また、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（英語）」を履修するには英米語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（スペイン語）」を履修するにはスペイン語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（ポルトガル語）」を履修するにはブラジルポルトガル語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ（中国語）」を履修するには中国語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、それぞれ満たしておく必要があります。「コミュニティ通訳特論Ⅱ（ロシア語）」については、ロシア語学科生は「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得、ロシア語学科以外の学科の学生は「ロシア語能力検定試験　3級」を取得し、ロシア語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を満たしておく必要があります。

②「アラビア語Ⅱ」を履修するには、「アラビア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

③「インド語Ⅱ」を履修するには、「インド語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

④「インドネシア語Ⅱ」を履修するには、「インドネシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑤「オランダ語Ⅱ」を履修するには、「オランダ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑥「ギリシア語Ⅱ」を履修するには、「ギリシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑦「スワヒリ語Ⅱ」を履修するには、「スワヒリ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑧「タイ語Ⅱ」を履修するには、「タイ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑨「トルコ語Ⅱ」を履修するには、「トルコ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑩「ベトナム語Ⅱ」を履修するには、「ベトナム語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑪「ラテン語Ⅱ」を履修するには、「ラテン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑫「ビジネス日本語A」「ビジネス日本語B」「日本語能力試験N1対策A」「日本語能力試験N1対策B」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。

⑬「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料：認定科目)」で修得した単位は、合わせて４単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

⑭「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料：認定科目)」を履修するには、「健康科学の実践と理論」の単位を修得しておく必要があります。

ゼミナール科目

【ゼミナール科目とは】

国際貢献学部では、ディプロマポリシーに掲げる「多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成」という理念のもと、４年間での学修の集大成としてゼミナール科目（必修）を設置しています。

ゼミナール科目では、３年次から2年間、担当教員の指導およびゼミ生同士の共同作業を通じて、自らの関心がある学問分野における専門知識や研究方法等の理解を深め、最終的には自ら設定した研究テーマにもとづく卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を完成させます。具体的には、文献講読や資料の精読、情報収集、調査、分析、フィールドワーク等を行い、研究報告や他のゼミ生との討論を重ねるなど、より質の高い卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を目指します。

したがって、１年次から、いずれどのようなゼミに入り、いかなる研究テーマを設定するかをイメージしつつ、４年間の学びの計画を立てることが重要です。そして、積極的にゼミの活動に参加していく姿勢が強く求められます。

これらのゼミでの活動を通じて、ディプロマポリシーに掲げる①社会科学の素養に基づく、高度な語学力とデジタル技術運用能力、②社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力、③京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力など、社会で活躍するうえで役立つ様々な能力を養い、将来豊かな人生を送るための糧とします。

なお、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は、「〇〇ゼミⅣ」の授業と一体的に評価をします。

【履修するゼミの選考・登録の流れ】

国際貢献学部を卒業するためには、所属学科のゼミナール科目のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修して単位を修得し、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成に必要な研究指導を受け、卒業論文または卒業研究を提出し、合格しなければなりません。

ゼミナール科目は３年次から登録しますが、研究指導に適正な人数を保つために選考を行いますので、以下のとおり手続きを行ってください。

※ゼミナール科目は３年次から配当されているため、選考は２年次秋学期に行います。
選考の対象は、休学・留学中の学生を含むすべての２年次生です。

２年次	９～11月	各ゼミの内容をKyoto Gaidai UNIPAの「ゼミ申請システム」で確認し、所定の期間に志望ゼミを申請してください。志望者が多いゼミについては、志望理由の内容や面談等により選考を行います。 ※ゼミ選考のスケジュール等の詳細については、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
	12～１月	選考結果をKyoto Gaidai UNIPAの「ゼミ申請システム」で発表します。
３年次	４月	発表内容に従いゼミを履修登録してください。

ゼミナール科目履修上の注意

・選考後はゼミの変更はできません。ゼミはⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に履修し、単位を修得してください。Ⅱを履修するにはⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
なお、ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、春学期・秋学期の各学期に開講します。

・所定のゼミ申請を行わずゼミが決まっていない人は、履修登録開始日までに教育支援課へ申し出てください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格】

ゼミⅣを履修している場合は、当該学期の卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格がありますので、所定の期間に提出してください。

＜ 留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）の場合 ＞

ゼミⅣを履修する学期に留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）をする場合においても、留学中に担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出することができます。

なお、ゼミⅣの単位については、担当教員が提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価を「合格」とした場合に限り認定します。

したがって、留学中も必ずゼミ担当者と連絡をとり指導を受けてください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出期間】

3月卒業	12月13日～20日
9月卒業	7月　1日～20日

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。
※提出期限に遅れた場合は受け付けません。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長する場合があります。なお、手続きは追試験に準じます。
（延長が認められた場合の提出期日）

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出方法】

Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、成果物ファイルをアップロードしてください。詳細は、3月卒業予定者へは 11 月に、9月卒業予定者へは 6 月に、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成にあたっての注意事項】

（1）提出期日等を厳守すること
　所定の期日までに所定の提出方法により提出しなければなりません。表紙等の体裁や文字数等は、学生便覧記載の「様式」を参照してください。

（2）提出前にゼミ担当教員の指導を受けること
　卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）のテーマは、担当教員と相談のうえ決定し、変更する場合も事前に相談しなければなりません。また、担当教員の指示にもとづき、研究計画書の提出や中間・完成報告等が必要となります。
　ゼミ担当教員の指導を経ずに提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は評価の対象となりません。また、ゼミの欠席が著しく多い人や担当教員の指導や指示に従わない人が提出した場合も評価の対象とならない可能性があります。
　なお、卒業論文は論文形式をとる成果物、卒業研究は論文形式をとらない成果物ですが、それぞれの様式にしたがって作成してください。

（3）剽窃行為はしないこと
　剽窃（盗用）行為が判明し、教授会において不正行為を行ったと判定した場合、不正行為の内容によっては当該科目（ゼミⅣ）の成績評価を失格とします。そのほか、参考文献の引用方法等については、担当教員の指示にしたがってください。

（4）卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出しても必ず合格とはならないこと
　卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は提出すれば必ず単位を修得できるというわけではありません。合格の水準に達していなければ不合格になります。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準】

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準は以下のとおりとします。

（1）卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価
①卒業論文の評価
論文審査および口述試問により評価します。
②卒業研究の評価
中間報告（発表）、卒業研究および口頭発表により評価します。

（2）評価基準
卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価にあたっては、以下の項目を基準とします。
①テーマの設定および研究方法が先行研究を踏まえている。
②研究資料およびデータが的確に収集・処理されている。
③研究資料およびデータの分析・解釈が的確であり、かつ、表現・表記が論理的に展開し、論旨に明確性と一貫性がある。

グローバルスタディーズ学科

1 卒業論文【様式】

1．本文の使用言語
英語

2．本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。20 枚以上とします。

判の大きさ	A4判
1 枚あたりの文字数等	1枚につき上下左右のマージンは、 3cm を目安にし、Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。

3．ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。
①卒業論文題目
30 ワード以内での作成してください。
②内題・検索用キーワード
内題は 250 ワード以内、キーワードを5つ記載してください。
③論文要旨
担当教員の指示に従ってください。
④目次
担当教員の指示に従ってください。
⑤本文
⑥文献リスト・資料

2 卒業研究【様式】

1．本文の使用言語
英語

2．本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。 5枚以上とします。
また、例外的にリポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1 枚あたりの文字数等	1枚につき上下左右のマージンは、 3cm を目安にし、Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 ＊図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3．ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。
①卒業研究表紙（授業科目名、担当教員名、氏名、学籍番号）
②卒業研究タイトル・概要・キーワード
パソコンを使用し、英語（タイトルは 30 ワード以内、概要は 250 ワード以内、キーワードは5つ）で作成してください。
③本文

グローバル観光学科

1 卒業論文【様式】

1．本文の使用言語
日本語または英語

2．本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。文字数は担当教員の指示にしたがってください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの文字数等	英語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、Times New Romanの12ポイント26行に設定。 日本語では、10.5または11ポイントの文字の大きさで、1枚につき1行40字（アルファベットは半角80字）30行で、横書きに設定。

3．ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。
①卒業論文題目
②内題・検索用キーワード
③論文要旨
パソコンを使用し、日本語（A 4用紙1～2枚・800 ～ 1,200 字）で作成してください。
④目次
⑤本文
⑥文献リスト・資料

2 卒業研究【様式】

1．本文の使用言語
日本語または英語

2．本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。文字数は担当教員の指示にしたがってください。
また、例外的にリポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの文字数等	日本語では、10.5または11ポイントの文字の大きさで、1枚につき1行40字（アルファベットは半角80字）30行で、横書きに設定。 英語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、Times New Romanの12ポイント26行に設定。 ＊図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3．ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。
①卒業研究表紙（授業科目名、担当教員名、氏名、学籍番号）
②卒業研究タイトル・概要・キーワード
パソコンを使用し、日本語（タイトルは40字以内、概要は400字以内、キーワードは5つ）で作成してください。
③本文

全学共通科目（教養科目）のスポーツ

健康科学の実践と理論



スポーツの実践と講義をとおして身体運動能力や協調性を養い、健康の保持・増進に関する諸問題を学ぶことにより、良好な社会生活を営む力を身につけることを目標としています。授業は、実技種目・講義を行い、1 週目の授業は武道体育館アリーナ（第 2 分館）にて授業概要説明を行いますので、写真（3 × 4cm）1 枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。詳しくは、シラバスを参照してください。

① 実技種目	バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、フットサル、ニュースポーツ（9週実施）
② 講　　義	「講義概要説明」・「競技種目の理解」・「障害、外傷」・「スポーツ社会学」・「スポーツ生理学」・「測定と評価」・「まとめ」（5週実施）

※ニュースポーツについて

ペタンク、モルック、ユニホック、グラウンドゴルフ、キンボール、シャフルボード、スカットボール等のルール理解と実践を行います。

・本学が行う定期健康診断は、授業の一環として扱いますので、必ず受診してください。

テクニカルスポーツ



「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、より高いスポーツ技術の習得、戦術の理解、ゲームの運営や分析について学び、試合や大会の企画・運営ができる能力を各学習段階に応じて習得するコースです。1 週目の授業は武道体育館アリーナ（第 2 分館）にて授業概要説明を行いますので、写真（3 × 4cm）1 枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。また、種目の詳細はシラバスで確認してください。

なお、「テクニカルスポーツ A・B」「シーズンスポーツ（有料：認定科目）」で修得した単位は、合わせて 4 単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

※ユニバーサルスポーツについて

ペタンク、モルック、ターゲットバードゴルフ、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、ユニホック、ゴールボール、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボール等のルール理解と実践を行います。

シーズンスポーツ



「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、学外施設を使用した野外活動（集中実技授業）を実施する認定科目です（有料）。

なお、UNIPA の「掲示板」等でオリエンテーションの日時と場所をお知らせしますので、参加希望者は必ず出席してください。

種目名	時期	場所	期間	費用
マリンスポーツ	8月下旬	沖縄県恩納村	4日間	85,800円（予定）　※別途、交通費が必要
スノースポーツ	2月上旬	長野県栂池高原	5日間	57,000円（予定）　※別途、交通費が必要

※シーズンスポーツは単位認定科目です。

※テクニカルスポーツ A（2 単位）およびテクニカルスポーツ B（2 単位）の単位を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定となります。

国際貢献学部の他学科の授業科目の履修

グローバルスタディーズ学科の人はグローバル観光学科の専門科目（展開および選択）を、グローバル観光学科の人はグローバルスタディーズ学科の専門科目（選択）を配当年次に従って履修することができ、修得した単位は自由選択に算入されます。ただし、履修条件が定められている授業科目を履修するには、当該履修条件を満たしておかなければなりません。

また、抽選等で登録者数を制限する場合は、当該授業科目が配当されている学科生を優先します。

なお、外国語学部に配当している授業科目は履修できません。

各種プログラム・制度等



コミュニティ通訳者育成プログラム <英米語学科ダイヤモンドコースを除く学部生対象>

本学では、コミュニティ通訳に関する専門科目（英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語・ロシア語）を設置しており、一定の条件を満たした場合、国際規格『ISO13611：2024 通訳−コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書を卒業時に授与します。

なお、このプログラムに参加する場合は、所定の登録手続きが必要です。

＜ コミュニティ通訳者育成プログラム ＞

〔コミュニティ通訳者とは〕

「コミュニティ通訳者」は、言語の障壁によって医療、教育、社会福祉、行政、司法などの公的サービスにアクセスできない人に対して通訳者として支援します。

国際規格では「コミュニティ利用の目的で、コミュニケーションの場面において異なる言語の話者間で起こる双方向の通訳」と定義され、観光客や被災者への通訳行為も含まれています。

主な活動としては、国内で医療、教育、社会福祉、行政、司法などの公的なサービスを提供する専門家と移民（外国人住民）を対象に、通訳者としてその間に入り、二者間で行われる対話コミュニケーションを互いの言語へ変換します。国際会議などで演説やスピーチを対象言語に変換する会議通訳とは異なります。

〔国際規格『ISO13611：2024 通訳−コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書とは〕

この認証書は世界中のISO加盟国で通用するもので、国際的な人材登録制度を利用する場合はボーダーレスなグローバルコールにも対応できる人材であるとの証明となります。

※本認証は個人が取得する認証です。また、有効期限は 3 年で、継続するには更新審査を必要とします。

登録言語	・日本語-英語 ・日本語-スペイン語 ・日本語-ポルトガル語 ・日本語-中国語 ・日本語-ロシア語
募集定員	入学年度・言語ごとに各25名 ※複数の言語に登録できます。 ※定員を超えた言語については選考（GPA（通算）の高ポイント順）
登録期間	2年次秋学期（3年次編入生は3年次秋学期）の所定の期間に登録してください。 ※登録に関する詳細は、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
登録資格	次の①〜⑤のすべてに該当する者 ①正規の学部2年次生（2年次編入生は2年次生、3年次編入生は3年次生）であること ②本プログラム登録時から認定書授与まで本学の正規生として学部に在学していること ③本プログラムの趣旨を理解し、積極的にプログラム完成を志す意思のあるもの ④誓約書のすべての内容を理解・了承していること ⑤登録言語が以下のレベルに達していること 英　　語：アドバンスト スペイン語：インターミディエイト ポルトガル語：インターミディエイト 中　国　語：インターミディエイト ロ シ ア 語：インターミディエイト ※各言語レベルの履修基準については89ページを確認してください。
登録書類	①登録用紙（本学所定フォーム） ②登録する言語が上記「登録資格」に記載のレベルに達していることを証明する語学検定試験結果のスコア等のコピー ③誓約書（本学所定用紙）
修了要件	次の①〜④のすべてを満たすこと ①「コミュニティ通訳特論Ⅰ（2単位：3年次春学期配当）」および「登録言語のコミュニティ通訳特論Ⅱ（2単位：3年次秋学期配当）」の単位を修得すること ②適正テスト（オンライン・90分）に合格（言語能力合格証：総合評価A（CEFR:B2相当）以上）すること ③本学が認める通訳業務等に伴う証明書を提出すること ④認定書交付申請書のためのオリエンテーションに参加すること
認証書	上記の修了要件を満たした学生を対象に、国際規格『ISO13611：2024通訳−コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書を卒業時に授与します。 ※認証書の取得は在学中に限るため、在学中に認証書を取得できなかった場合、卒業後に取得することはできません。

※プログラムの詳細は、オリエンテーションで説明します。

もっと京都プロジェクト

このプロジェクトは、本学の建学の精神“PAX MUNDI PER LINGUAS”（言語を通して世界の平和を）及び「異なる」を愛せる世界をつくるという理念の下、以下の目的を基軸として実施します。

※プロジェクトの詳細は、4月および10月に実施する説明会でお知らせします。説明会の日時・場所については、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

目的	(1) 京都には日本の様々な伝統文化や芸術が数多く存在している。それらの座学を通しての知識だけではなく、「もっと京都プロジェクト」では、実際にそれらが行われている場所に出向き、体験をすることで、日本人学生は自文化への理解を深め、また、外国人留学生は異文化としての日本文化への理解を深める。 (2)「もっと京都プロジェクト」では、単なる体験だけで終わるのではなく、各自が学修している言語運用能力や経済学・経営学等の社会科学の知見を活用しつつ、様々なメディア（ウェブサイト、YouTube、SNS等）を通して発信することで、日本文化や京都文化に関する世界各国の人々の理解の促進に実践的に貢献する。
内容	(1) 京都の様々な伝統文化や芸術に関わるフィールドに出向き、実際に体験し、事業者や職人の方に、適切に取材や調査を行う能力を身につける。 (2) フィールドでの取材や調査の成果を様々なメディアを用いて発信する能力を身につける。
実施時期	春学期および秋学期
対象者	参加申込時からプロジェクト終了まで、正規生として本学の学部に在学している2～4年次生 ※単位認定の関係上、卒業を予定している学期での参加は認めません。 ※選考を行います。
単位認定	所定の課程を修了した学生を対象に、全学共通科目（教養科目）「もっと京都プロジェクトA・B（2年次配当 / 各2単位）」として単位を認定し、卒業要件に算入します。

Community Engagement

＜国際貢献学部生対象＞

Community Engagement は、国内・海外の地域社会（コミュニティ）との関わりの中から課題を発見して解決を試みる活動です。

まずは自分で問題を発見し、テーマを決めて調査・研究するための「活動計画書」を作成します。活動は計画書に基づき、所属学科の教員の指導のもと主体的に行います。事前事後学習も含めた活動を完遂することで、専門科目（選択）「Community Engagement」として単位を申請することができます。

対　象	国際貢献学部の２～４年次生 ※卒業を予定している学期での単位認定は行いません。	
開始から単位認定までの流れ	①事前学習 / 活動計画書作成（所属学科） ②活動計画届提出（国際部） ③活動 ④事後学習 / 報告会等（所属学科） ⑤単位認定申請書提出（国際部） ⑥単位認定［専門科目（選択）Community Engagement ４単位］	
単位の認定	本人の申請に基づき、学習・活動時間に応じて、専門科目（選択）「Community Engagement」として４単位を上限に単位認定します。活動時間は任意としますが、事前事後学習も含めて４単位相当以上の活動時間を完遂する必要があります。 ※ Community Engagement 活動を留学中（派遣留学・認定留学・国内交換留学、短期留学、海外研修）に行った場合、各留学の単位認定の上限に含めず、別に単位認定を行います。 ※本学および本学以外の教育施設等で行われる授業科目やその他単位認定を伴うプログラムに組み込まれた活動は Community Engagement 活動時間に含めることはできません。 ※休学期間中の活動については、単位の認定を受けることができません。	
単位認定の申請	提出書類	単位認定申請書
	提出時期	各学期１回（6 月頃、12 月頃） ※提出時期の詳細は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。 ※事後学習 / 報告会等まで全ての活動を完遂してから直近の提出時期に提出してください。
	提出場所	国際部

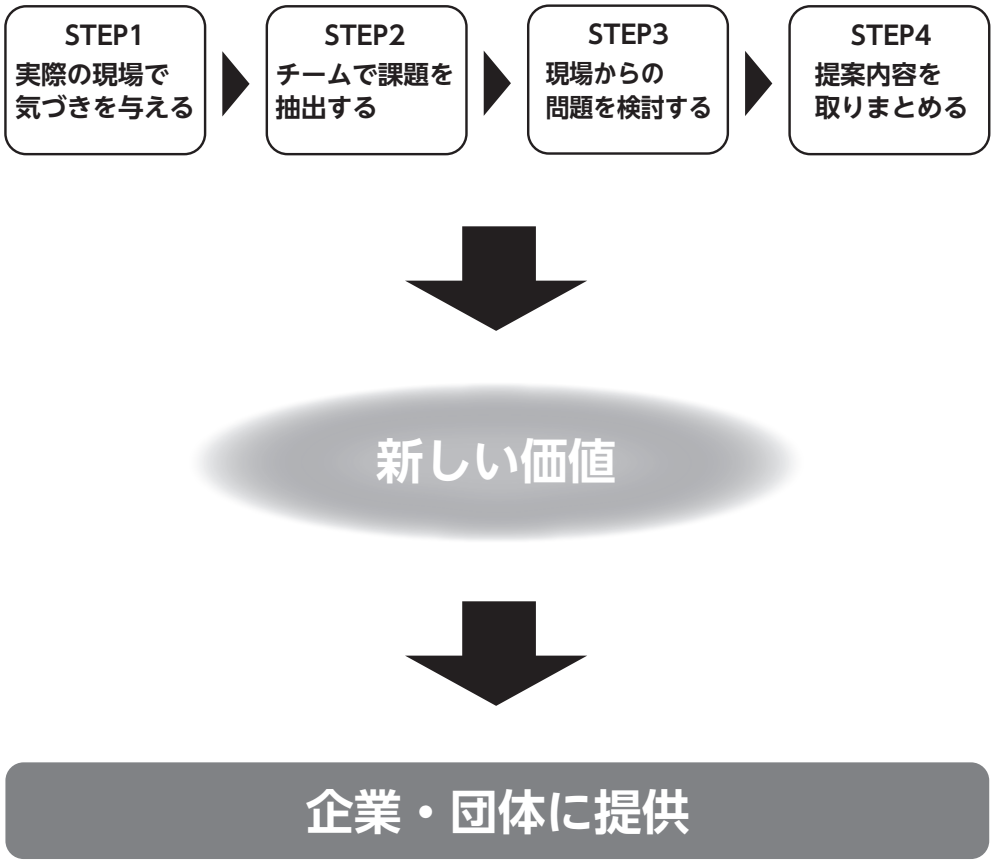
＜ CEについて ＞

＜ 申請に関する詳細 ＞
所定様式ダウンロードなど

PBL科目

PBL（Project-Based Learning）とは、「実社会の課題」を生きた教材として取り入れ、課題解決に取り組む学びのスタイルです。本学の PBL では、企業や団体等から与えられた課題に対し、学生各自が主体的に解決方法を考えることで、マーケティング力やプレゼンテーション力などを培います。授業は、グループワークを中心に進め、自己をアピールする力とともに協調性も養成し、将来社会で必要とされる多様な能力を身につけることができます。また、国際社会で活躍できるグローバル人材を育成するため、留学生と協働する体験型の科目を開講しているのも本学の特徴の一つです。本学で開講する PBL は科目名称の後に（PBL）を付記しています。

課題解決型学習プロセス



国内交換留学

＜英米語学科ダイヤモンドコースを除く学部生対象＞

国内交換留学とは、本学と国内交換留学協定を締結している神田外語大学と長崎外国語大学へ学内選考のうえ、学生を春学期から 1 学期間または 2 学期間派遣する制度です。

出願資格等の選考試験についての詳細は、本学ホームページで確認してください。

なお、留学先大学で修得した単位は、1 学期間の場合 26 単位、2 学期間の場合 48 単位を上限として本学の科目区分に準じて認定します。

単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46 ページ）を参照してください。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、以下のとおり所属している学部学科の正規課程以外の授業科目を履修できる制度です。

科目等履修生制度で修得した単位は、本人の申請に基づき以下のとおり認定します。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(46 ページ) を参照してください。

なお、出願の時期や履修可能な授業科目等の詳細は、学期初めに行うオリエンテーションや、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」等で説明します。

内　容		単位認定	選考料	登録料	履修料
①	京都外国語短期大学の授業科目が履修できる制度	全学共通科目（教養科目）「科目等履修科目」として 12 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入（ただし、グローバルスタディーズ学科は、全学共通科目（教養科目）の卒業要件単位（8 単位）を超えて修得した単位数を自由選択に算入）	—	1,000 円	週 1 回授業 1科目 2,000 円 週 2 回授業 1科目 4,000 円
②	本学の大学院への進学希望者 4 年次生を対象に、大学院の授業科目が履修できる制度	博士前期課程進学後に、10 単位を上限に入学前の既修得単位として認定	10,000 円	10,000 円	1単位 16,500 円

大学コンソーシアム京都の単位互換制度

「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度とは、加盟している約 45 の大学・短期大学が単位互換協定を締結し、相互に授業を履修できる制度です。ただし、本学の学生が**この制度を利用して、本学が提供する授業科目を履修することはできません。**

この制度で修得した単位は、本人の申請に基づき、全学共通科目 (教養科目)「大学コンソーシアム京都科目」として 12 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します (ただし、グローバルスタディーズ学科は、全学共通科目 (教養科目) の卒業要件単位 (8 単位) を超えて修得した単位数を自由選択に算入)。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(46 ページ) を参照してください。

また、**当該学期に卒業を予定している 4 年次生はこの単位互換制度により修得した単位の認定が卒業判定に間に合わない可能性があるため、卒業要件単位に含めないように履修登録を行ってください。**

出願資格	出願時から履修許可を受けた科目の開講学期まで、学部 2 ～ 4 年次として在学する正規生
出願方法	大学コンソーシアム京都のホームページ（https://www.consortium.or.jp/）から各自で出願してください。 **【出願にあたっての注意事項】** 1．開講科目には開講期間が前期・春学期、後期・秋学期、通年、集中等の科目がありますが、所定の期間内（年 1 回）に出願してください。 2．当該大学の開講期間や通学時間などを考慮して出願してください。 3．科目によっては書類選考により希望する科目を履修できない場合があります。また、原則として履修許可後の辞退は認めません。履修許可を受けた科目に一度も出席しない等の行為は、授業を開講する大学に迷惑がかかりますので、十分に履修計画を立てて出願してください。 4．出願は自己責任で行ってください。
開講科目	大学コンソーシアム京都のホームページを確認してください。
出願期間	所定の期間（Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせ）に大学コンソーシアム京都のホームページから出願してください。
履修の可否等の連絡	4 月中旬以降に科目を開講する大学より履修の可否について、出願時に登録したメールアドレス宛に連絡があります。連絡があるまでは「仮受講」として出願した科目を受講してください。
履修科目の単位認定	合格した科目については、所定の手続きを経て、学期毎に単位認定を行います。 なお、単位認定の申請手続きについては、履修の可否決定後、履修許可者のみに Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

教育支援活動

この制度は「自己の資質向上」を図ることを目的とし、本学が指定している教育支援活動（ボランティア）に登録し依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ出向き活動を行うものです。

※オリエンテーションの日程は、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

1．学校教育支援活動　対象年次：2～4年次生

神戸市教育委員会が行っている「学生スクールサポーター制度」、京都市教育委員会が行っている「学生ボランティア」学校サポート事業や、京都府教育委員会が行っている「大学生教育ボランティア」で募集や依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ放課後に出向き、一人ひとりの子どもに対して教科や部活動の指導補助等きめ細かな支援を行うものです。
「学生ボランティア」学校サポート事業や「大学生教育ボランティア」の内容等については各教育委員会のホームページを参照してください。特に教職課程を登録している学生は積極的に参加してください。

登録資格	2～4年次生	
派遣から単位認定までの流れ	希望者はホームページで該当する活動に申し込む→教育支援課で登録・教育支援活動日誌を受け取る→活動開始→提出時期に書類を提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	本人の申請に基づき、日本語教育支援活動で修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「教育支援活動」として 2 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。 単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出する際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46 ページ）を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌、報告書
	提出時期	Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	提出場所	教育支援課

2．日本語教育支援活動　対象年次：2～4年次生

日本語能力が不十分な外国人児童・生徒等に対し日本語能力向上のサポートを行います。原則として児童・生徒が属する学校へ放課後に出向き支援を行います。

登録資格	日本語学科 2～4年次生	
派遣から単位認定までの流れ	日本語学科から活動の依頼を受ける、または、ホームページ等で該当する活動を自分で探す→日本語学科で派遣学生と派遣先などを認定→事前打ち合わせ→教育支援課に学校名と活動時期を登録→指導開始→指導終了→教育支援活動日誌等提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	本人の申請に基づき、学校教育支援活動で修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「教育支援活動」として 2 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。 単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出した際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46 ページ）を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌
	提出時期	Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	提出場所	教育支援課

資格検定試験の単位認定

在籍中に資格検定試験等を受験し、本学の定める基準に達した場合は、本学において修得した単位として認定します。

単位認定	４年次の７月に本人申請に基づき、それぞれの科目区分の中で認定し、卒業要件に算入する単位数は、各２単位を上限とします。
申請書類	**証明書（スコアレポート・合格証書等）のコピー**を提出してください。 単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46 ページ）を参照してください。
申請期間	**本学が指定する期間（７月）** **Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。**

1 外国語技能検定試験の単位認定

専攻語の場合（外国語学部）

言　語	専門科目（選択）（英米語学科は専門科目（選択）＜キャリア＞）「外国語技能検定試験（専攻語）」（２単位）	
英　語	TOEIC L&R（IP を除く）	850 点以上
	TOEFL iBT	83 点以上 ※ 2026 年 1 月 20 日以前実施分 4 以上 ※ 2026 年 1 月 21 日以降実施分
	IELTS（アカデミック・モジュール）	6.0 以上
	実用英語技能検定（S-CBT を含む）	1 級
スペイン語	スペイン語技能検定	3 級以上
	DELE	B1 以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	2 級以上
	DELF・DALF	B1 以上
	TCF	300 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	2 級以上
	Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験)	B1 以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	HSK	5 級到達（合計 180 点以上） 6 級到達（合計 180 点以上） 7 級到達（合計 315 ～ 349 点） 8 級到達（合計 350 ～ 389 点） 9 級到達（合計 390 点以上） ※ 7・8・9 級は共通問題
	中国語検定試験	2 級以上
	実用中国語技能検定試験	2 級以上
日本語	日本漢字能力検定試験	準 1 級以上
イタリア語	実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT	3 級以上
	CILS	UNO-B1 以上
	CELI	2 以上
ロシア語	TORFL 検定試験	第 1 レベル以上
	ロシア語能力検定試験	2 級以上

専攻語以外の場合（外国語学部、国際貢献学部）

言　語	全学共通科目（教養科目） 「外国語技能検定試験（専攻語以外）」（2単位）	
英　語	TOEIC L&R（IP を除く）	670 点以上
	TOEFL iBT	57 点以上 ※ 2026 年 1 月 20 日以前実施分 3.5 以上 ※ 2026 年 1 月 21 日以降実施分
	IELTS（アカデミック・モジュール）	4.5 以上
	実用英語技能検定（S-CBT を含む）	準 1 級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	4 級以上
	DELE	A2 以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	準 2 級以上
	DELF・DALF	A2 以上
	TCF	200 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	3 級以上
	Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験)	A2 以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	準初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	HSK	4 級合格 5 級到達（合計 180 点以上） 6 級到達（合計 180 点以上） 7 級到達（合計 315 ～ 349 点） 8 級到達（合計 350 ～ 389 点） 9 級到達（合計 390 点以上） ※ 7・8・9 級は共通問題
	中国語検定試験	3 級以上
	実用中国語技能検定試験	3 級以上
日本語	—	—
イタリア語	実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT	4 級以上
	CILS	A2 以上
	CELI	1 以上
ロシア語	TORFL 検定試験	基礎レベル以上
	ロシア語能力検定試験	3 級以上
コリア語	韓国語能力試験	3 級以上
	ハングル能力試験	3 級以上

2 情報処理検定試験の単位認定

種類	全学共通科目（教養科目） 「情報処理検定試験」（2 単位）
・IT パスポート試験 ・基本情報技術者試験	合格

語学検定試験受験料の助成（後援会）申請方法

❶ 申請が可能な対象者

本学の学部に在学する正規生で、後援会費を納入している人

❷ 対象となる検定試験の種類

英　語	●TOEIC Listening & Reading Test　●TOEFL iBT ●IELTS　●実用英語技能検定 ●観光英語検定試験
スペイン語	●スペイン語技能検定 ●DELE
フランス語	●実用フランス語技能検定試験　●TCF ●TEF　●DELF・DALF
ドイツ語	●ドイツ語技能検定試験　●Test DaF ●Goethe-Zertifikat（ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験）
ポルトガル語	●外国語としてのポルトガル語検定試験（CAPLE） ●外国人のためのポルトガル語検定試験（Celpe-Bras）
中国語	●HSK　●実用中国語技能検定試験　●中国語検定試験
日本語	●日本語教育能力検定試験　●日本漢字能力検定　●日本語能力試験（JLPT）
イタリア語	●実用イタリア語検定試験　●CILS　●CELI
ロシア語	●ロシア語検定試験（ТРКИ-テ・エル・カ・イ、TORFL）　●ロシア語能力検定試験
コリア語（韓国語）	●韓国語能力試験（TOPIK）　●ハングル能力検定試験

※語学検定試験受験料助成（アセスメント）とは異なります。外国語学部生（英米語学科・日本語学科を除く）を対象とした語学検定試験受験料助成（アセスメント）に関する不明な点は、教育支援課（1 号館 1 階）に問い合わせてください。

❸ 申請方法

申請期間内に Kyoto Gaidai UNIPA の「語学検定試験受験料助成金申請システム」から必要な情報を入力し、以下の内容を確認できる書類の画像をアップロードしてください。

【申請に必要な画像】

1. 氏名、受験日などが記載されている合格証・結果通知書スコア
2. 支払った金額が分かる領収書（クレジットカードの明細可）
3. 振込先が確認できる通帳・口座詳細のオンラインページ など

詳細はこちら

❹ 申請期間

申請期間は、ランゲージセンターの語学検定試験受験料助成 Web ページを確認してください。

❺ 申請受付担当部署

ランゲージセンター（4 号館 3 階）

e-mail : i-lang@kufs.ac.jp

GTEC Academic（4技能）およびTOEIC L&R（IP）の団体受験

現在、日本で実施されている英語力を判定する検定試験は、英検（実用英語技能検定）をはじめとして、その種類は35 種以上になります。本学では、実用的な英語コミュニケーション能力を測定するGTEC Academic（4 技能）を実施しており、学部生は入学時および入学後の毎年度 12 月～ 1 月に全員が受験しなければなりません。また、英米語学科の1～4年次生全員は 7 月および 1 月に実施するTOEIC L&R（IP）を必ず受験しなければなりません。英米語学科以外の学生は、1 月に実施するTOEIC L&R（IP）を受験することができます（希望者のみ）。試験結果は、客観的な数値として授業内容の検討や演習科目のクラス分け、専門科目（選択）の履修基準（英語）に活用しますが、自らの英語の運用能力を把握することで明確な努力目標を設定して授業や将来の進路に取り組んでください。

なお、受験日時・方法等についてはKyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

外国語学部

GTECまたはTOEIC L&R（IP）のスコアにより履修者を決定する授業科目	
英米語学科	「英語圏研究の基礎」を除くすべての専門科目（必修）

国際貢献学部

GTECまたはTOEIC L&R（IP）のスコアにより履修者を決定する授業科目	
グローバルスタディーズ学科	Introductory Seminar A・B
	Academic Writing Ⅰ・Ⅱ
	Global Communication A・B
	Writing for Research
グローバル観光学科	Community Engagement Workshop A・B
	Basic English for Tourism
	Reading for Tourism
	Business Writing for Tourism
	Communication Skills for Tourism

本学大学院への進学

本学大学院への進学は、以下を参照してください。

＜本学大学院への進学＞

本学の大学院には、外国語学研究科異言語・文化専攻に、標準修業年限２年の博士前期課程（修士）、標準修業年限３年の博士後期課程（博士）が設置されています。

専門分野の研究能力を身につけ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献することができる人材を育成します。

異言語・文化専攻　博士前期課程

言語研究領域、文学・芸術研究領域、歴史・文化・社会研究領域、国際関係領域、観光学領域、実践英語教育領域、実践日本語教育領域

異言語・文化専攻　博士後期課程

言語文化領域

言語教育領域

入学試験

博士前期課程の入学試験は「学内推薦（9 月）」、「一般Ⅰ期（9 月）」、「一般Ⅱ期（2 月）」があります。
出願時に関する入試制度の詳細は、大学院ホームページで確認してください。

一般Ⅱ期の入学試験については、３年次終了時に卒業要件単位数 93 単位以上を修得し、特に成績優秀であるとして学科長から推薦を得た学生は飛び級として出願することができます。

本学学生対象の進学説明会は 5 月中旬および 10 月上旬に行います。（日時・場所は後日 Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。）

大学院科目の科目等履修

本学の大学院進学を前提に、成績優秀な４年次生は科目等履修生制度により博士前期課程の授業科目を履修することができます。修得した単位は、本学の大学院に進学した場合、入学前の既修得単位として 10 単位を上限に認定します。

【本学大学院に関する問い合わせ先】

大学院事務室（5 号館 1 階）
TEL：075-322-6603
e-mail：daigakuin@kufs.ac.jp

資格課程



本学が開設する資格課程

本学が開設している資格課程は、教職課程、図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程、博物館学芸員課程、日本語教員養成課程です。

また、中学校または高等学校教諭一種免許状取得のために修得した単位を利用し、佛教大学の科目等履修生（別途費用が必要）として小学校教諭免許状を取得することができます。

■ 資格課程一覧

免許状・資格 ＼ 学科	教職課程									学校図書館司書教諭課程	図書館司書課程	博物館学芸員課程	小学校教諭免許状取得支援プログラム	日本語教員養成課程
	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状											
	外国語		外国語											
	英語	国語	スペイン語	フランス語	ドイツ語	ポルトガル語	中国語	イタリア語	ロシア語					
英米語学科	●	△								注1	注2	注2	注3	注4
日本語学科	△	●												
スペイン語学科	△	△	●											
フランス語学科	△	△		●										
ドイツ語学科	△	△			●									
ブラジルポルトガル語学科	△	△				●								
中国語学科	△	△					●							
イタリア語学科	△	△						●						
ロシア語学科	△	△							●					
グローバルスタディーズ学科														
グローバル観光学科														

資格課程についての注意事項

●	英語と国語の教科については中学校教諭一種免許状（以下、「中一種」という。）と高等学校教諭一種免許状（以下、「高一種」という。）を同時に取得しますが、それ以外の教科については、高一種のみ取得が可能です。
△	**専攻語以外の免許状の取得** 専攻語以外の免許教科（英語または国語）の免許状を取得することができます。
注1	教職課程を登録していることが履修条件です。
注2	課程で定められた科目を履修し、必要な単位を修得すれば修了証書を交付します。
注3	小学校の免許状のみを取得することはできません。必ず本学で中一種または高一種の免許状を取得する必要があります。なお、プログラムの詳細についてはオリエンテーションで説明します。
注4	日本語学科生（編入学生を除く）のみの登録となります。
注5	英米語学科ダイヤモンドコースの学生は、資格課程（教職・学校図書館司書教諭・図書館司書・博物館学芸員）を登録することはできません。

資格課程を登録している人で、派遣留学・認定留学・休学をする場合、および課程の履修を辞退する場合は、必ず事前に教育支援課へ届け出てください。

教職課程

<外国語学部生対象>

教師を目指す皆さんへ

「教育職員免許状」を取得するためには、皆さんが所属している学科の授業だけではなく、多くの教職科目を履修しなければなりません。皆さんの中には「必ず教員になるぞ」という人もいれば、「在学中に免許状が取れるのであれば取っておこう」という人もいるでしょう。どのような動機であれ、「教育職員免許状」を取得しようと決めた以上は、しっかりとした目標を持ち、真剣に履修してください。

1 教職課程の登録

(1) 課程登録

教職課程は、2 年次春学期（休学・留学中の学生を含む）のみの登録となります。3 年次・4 年次から登録することはできません。希望者は教職課程オリエンテーションに必ず参加してください。

課程を登録するにあたっては、登録履修費として 10,000 円 (予定) を納入する必要があります。

なお、課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

また、登録履修費のほか、介護等体験（対象者のみ）や教育実習において費用（実習費）が発生する場合があります。金額や納入時期は、体験受入先や実習校によって異なります。

※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) 1 年次からの履修

在学中に派遣・認定留学等を検討している人を対象に、1 年次の秋学期（在学 2 学期目）に「教育の基礎的理解に関する科目」の一部を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1 年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加してください。

1 年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は以下の 4 科目です。ただし、1 年次の春学期（在学 1 学期目）終了時点で GPA が 2.0 未満の場合は科目を登録することはできません。

教育の基礎的理解に関する科目：「教師論」「教育原理」「学校教育心理学」「特別な教育的ニーズの理解と支援」(132 ページ参照)

登録できる科目は、1 年次に履修登録できる単位数の上限（年間 48 単位）を超えて登録することができます。(単位数の上限については 133 ページ参照)

(3) オリエンテーションへの参加

免許状取得に必要な単位、注意事項等を、「教職課程オリエンテーション（新規登録者対象）」で説明しますので、必ず参加してください。

なお、教職課程に関する各オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録および継続を認めないことがありますので、十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課まで申し出てください。

免許状取得にかかわる介護等体験および教育実習等のスケジュールについて、個別に説明します。

(5) 教職課程の辞退

進路変更などにより途中で課程を辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。一度、課程を辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

よくある質問

Q 留学と教職課程は両立できますか。

A 留学と教職課程の両立はできますが、留学の方法や時期により、4 年間の在学期間で免許状を取得できない場合もありますので、必ず事前に教育支援課で相談してください。特に派遣留学の場合は、学内の選考試験を受ける前に相談してください。

2 教育職員免許状取得に必要な科目・単位数

教育職員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位のほかに、以下の授業科目を履修し、単位を修得する必要があります。

免許状取得に必要な科目		本学で修得が必要な単位数		本学における授業科目	備　考
		中一種	高一種		
教科及び教科の指導法に関する科目（134ページ）		28単位	24単位		注1
教育の基礎的理解に関する科目（132ページ）		11単位	11単位		注2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（132ページ）		11単位	9単位		
教育実践に関する科目（132ページ）		7単位	5単位		
大学が独自に設定する科目（139ページ）		4単位	12単位		注3
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法に関する科目	2単位	2単位	教養科目「日本国憲法」	
	体育に関する科目	2単位	2単位	教養科目「健康科学の実践と理論」	
	外国語コミュニケーションに関する科目	4単位	4単位	外国語科目	注4
	情報機器の操作に関する科目	2単位	2単位	教養科目「情報技術の実践」	

免許状取得に必要な科目の単位修得上の注意事項

本学で修得が必要な単位数と免許法で修得が必要な単位数は異なります。中一種と高一種の免許状を同時に取得する場合（英語・国語に限る）は、上表の最低修得単位数の内、多い方の単位数を充足する必要があります。

注1	教科に関する科目は（教科の指導法に関する科目を除く）、卒業要件の単位に含みます。教育職員免許状取得のための教科に関する科目として必修となっているため、卒業までに必ず単位を修得してください。
注2	卒業要件単位には含みませんが、本学で定めた教育職員免許状取得のための必修科目となっています。 また、本学における教育実習参加資格の要件でもあります。
注3	卒業要件の単位に含む科目と含まない科目があります。
注4	全学共通科目（外国語科目）の履修上の注意事項も確認してください（80 ページ）。

2-1 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目		本学における授業科目	配当年次	本学で修得が必要な単位数		備考
				中一種	高一種	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	1〜3	2	2	★
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教師論	1〜3	2	2	★
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学校教育心理学	1〜3	2	2	★
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別な教育的ニーズの理解と支援（集中講義）	1〜3	1	1	★
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政学	2・3	2	2	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2・3	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳の理論と指導	2・3	2	—	注1
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2・3	2	2	
	・特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術	教育の方法及び技術	2・3	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育とICT活用（集中講義）	2・3	1	1	
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	2・3	2	2	
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2・3	2	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習 1	4	2	—	注2
		教育実習 2	4	2	2	
		教育実習指導	4	1	1	注3
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	4	2	2	注4

※「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」は、教育実習参加資格科目です。（141 ページ参照）

履修上の注意事項

【教育の基礎的理解に関する科目等の履修登録】
教育の基礎的理解に関する科目等は、履修登録できる単位数の上限（年間48単位）を超えて登録することができます。また、履修登録できる単位数の上限はありませんが、配当年次に従って履修計画をしっかりと立て、負担のないように履修してください。

【教育実習参加資格】
教育の基礎的理解に関する科目等および、各教科の指導法に関する科目は、教育実習参加資格の要件の一つです。
3年次春学期（在学5学期目）もしくは秋学期（在学6学期目）から1年間の派遣・認定留学する人で、教育実習参加資格の授業科目をすべて履修登録できない場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

【修得単位】

★	★印の科目を 1 年次生が履修する場合は、秋学期に登録してください。（1 年次 4 月の履修登録時には登録できません。）
注1	中一種免許状を取得する場合は、必ず履修する必要があります。
注2	履修登録は必要ありません。教育実習終了後、合格となった場合に本学で単位を認定します。
注3	教育実習を行う年度に「教育実習指導」の履修登録を行います。教育実習の期間により、履修登録する学期が異なりますので、以下の期間を参考に履修登録してください。 教育実習期間 ／ 履修登録する学期 4月1日～8月31日の期間に教育実習が完了する場合 ／ 春学期 9月1日以降に教育実習を行う場合 ／ 秋学期 ※【秋学期の「教育実習指導」授業について】 14回の授業を春・秋学期に分けて行います。秋実習の学生は春学期に「教育実習指導聴講願」を提出する必要があります。
注4	教職課程としての総まとめの授業科目として位置づけているため、**4年次の秋学期（在学8学期目）**に履修します。したがって、4年次の秋学期に留学（派遣・認定）する場合は、4年間の在学期間で免許状を取得することができませんので、注意してください。また、「教職実践演習（中・高）」の履修には、『教職履修カルテ』の作成および提出を義務付けています。授業開始までに準備が整わない場合は、授業を履修することができませんので、注意してください。 ※「教職実践演習（中・高）」の履修登録 クラスを指定します。結果はKyoto Gaidai UNIPAの「学生時間割表」でお知らせしますので、各自確認してください。

2-2 教科及び教科の指導法に関する科目

履修上の注意事項	
①	教科に関する科目は、教育実習参加資格ではありませんので、卒業までに単位を修得してください。
②	「各教科の指導法」は**教育実習参加資格科目**です。（141 ページ参照）

免許教科　外国語（英語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	英語学	英語学・英語教育入門	2	1	専門科目・選択必修（地域研究／言語習得領域）
		英語音声学・音韻論	2	2	専門科目・選択（地域研究／言語習得領域）
		英語意味論・語用論	2	2	
	英語文学	英語圏文学と芸術Ａ	2	2	専門科目・選択（地域研究／比較文化領域）
		英語圏文学と芸術Ｂ	2	2	
	英語コミュニケーション	オーラル・コミュニケーションⅢ	2	2	専門科目・必修（言語）
		オーラル・コミュニケーションⅣ	2	2	
	異文化理解	英語圏比較文化入門	2	1	専門科目・選択必修（地域研究／比較文化領域）
		英語圏地域概説Ａ	2	2	専門科目・選択（地域研究／比較文化領域）
		英語圏地域概説Ｂ	2	2	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		英語教育法Ａ	2	2	
		英語教育法Ｂ	2	2	
		英語教育法Ｃ	2	3	
		英語教育法Ｄ	2	3	
必要単位数			28		

※中一種・高一種免許状を同時に取得します。どちらか一方のみの取得はできません。

免許教科　国語

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語学および文章表現に関するものを含む）	日本語学の基礎知識A	2	1	専門科目・必修
		日本語学の基礎知識B	2	1	
		日本語音声学概論	2	1	専門科目・選択（日本語教育領域）
		日本語表記法	2	2	
	国文学（国文学史を含む）	日本近代文学A	2	2	専門科目・必修
		日本近代文学B	2	2	
		日本文学史A	2	2	専門科目・選択（日本文化領域）
		日本文学史B	2	2	
	漢文学	漢文学A	2	1	専門科目・選択（日本文化領域）
		漢文学B	2	1	
	書道（書写を中心とする）	書道A	2	1	専門科目・選択（日本文化領域）（中一種のみ）
		書道B	2	2	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		国語教育法A	2	2	
		国語教育法B	2	2	
		国語教育法C	2	3	
		国語教育法D	2	3	
必要単位数			32		

※中一種・高一種免許状を同時に取得します。どちらか一方のみの取得はできません。

◎免許教科（国語）で教育実習を行う場合

・教科に関する科目の一般的包括的科目（必修科目）を 3 年次（在学 6 学期目）終了までにすべて履修済みであること。

免許教科　外国語（スペイン語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	スペイン語学	スペイン語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修（言語）
		スペイン語学入門	2	2	専門科目・選択（言語）
	スペイン語文学	スペイン語圏文学入門	2	2	専門科目・選択（地域研究）
	スペイン語コミュニケーション	コミュニケーション・スペイン語A	4	3	専門科目・必修（言語）
		コミュニケーション・スペイン語B	4	3	
	異文化理解	スペイン語圏の基礎知識A	2	1	専門科目・必修（地域研究）
		スペイン語圏の基礎知識B	2	1	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		スペイン語教育法A	2	3	
		スペイン語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法 A・B は必ず単位を修得してください。英語教育法 C・D は可能な限り単位を修得してください。

免許教科　外国語（フランス語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	フランス語学	フランス語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修（言語）
		フランス語学の基礎知識	2	2	専門科目・必修（地域研究）
	フランス語文学	フランス文学の基礎知識	2	2	専門科目・必修（地域研究）
	フランス語コミュニケーション	フランス語スピーキング・ライティングA	4	3	専門科目・必修（言語）
		フランス語スピーキング・ライティングB	4	3	
	異文化理解	フランスの基礎知識A	2	1	専門科目・必修（地域研究）
		フランスの基礎知識B	2	1	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		フランス語教育法A	2	3	
		フランス語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法Ａ・Ｂは必ず単位を修得してください。英語教育法Ｃ・Ｄは可能な限り単位を修得してください。

免許教科　外国語（ドイツ語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	ドイツ語学	ドイツ語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修（言語）
		ドイツ語学概論	2	2	専門科目・選択（地域研究）
	ドイツ語文学	ドイツ語圏の文学	2	1	専門科目・選択（地域研究）
	ドイツ語コミュニケーション	ドイツ語コミュニケーションA	2	3	専門科目・必修（言語）
		ドイツ語コミュニケーションB	2	3	
		ドイツ語ライティングA	2	3	
		ドイツ語ライティングB	2	3	
	異文化理解	世界の中の日本とドイツ語圏	2	1	専門科目・必修（地域研究）
		ドイツ語圏の基礎知識	2	1	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		ドイツ語教育法A	2	3	
		ドイツ語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法Ａ・Ｂは必ず単位を修得してください。英語教育法Ｃ・Ｄは可能な限り単位を修得してください。

免許教科　外国語（ポルトガル語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	ポルトガル語学	ポルトガル語圏語学の基礎	2	1	専門科目･必修（地域研究）
		ポルトガル語圏語学入門A	2	2	専門科目･選択（地域研究）
		ポルトガル語圏語学入門B	2	2	
	ポルトガル語文学	ポルトガル語圏文学の基礎	2	1	専門科目･必修（地域研究）
		ポルトガル語圏文学入門A	2	2	専門科目･選択（地域研究）
		ポルトガル語圏文学入門B	2	2	
	ポルトガル語コミュニケーション	上級ポルトガル語コミュニケーションA	2	3	専門科目･必修（言語）
		上級ポルトガル語コミュニケーションB	2	3	
	異文化理解	ポルトガル語圏文化の基礎	2	1	専門科目･必修（地域研究）
		ポルトガル語圏社会の基礎	2	1	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		ポルトガル語教育法A	2	3	
		ポルトガル語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法 A・B は必ず単位を修得してください。英語教育法 C・D は可能な限り単位を修得してください。

免許教科　外国語（中国語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	中国語学	中国語学概論A	2	2	専門科目･選択（地域研究）
		中国語学概論B	2	2	
	中国語文学	中国文学への招待	2	2	専門科目･選択（地域研究）
	中国語コミュニケーション	中国語リサーチプレゼンA	2	3	専門科目･必修（言語）
		中国語リサーチプレゼンB	2	3	
		中国語リサーチプレゼンC	2	3	
		中国語リサーチプレゼンD	2	3	
	異文化理解	世界の中の日本と中国A	2	1	専門科目･必修（地域研究）
		世界の中の日本と中国B	2	1	
		中国の伝統と歴史	2	2	専門科目･選択（地域研究）
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		中国語教育法A	2	3	
		中国語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法 A・B は必ず単位を修得してください。英語教育法 C・D は可能な限り単位を修得してください。

免許教科　外国語（イタリア語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	イタリア語学	イタリア語中級文法	4	2	専門科目・必修（言語）
	イタリア語文学	イタリア文学概論	2	3	専門科目・選択（地域研究）
	イタリア語コミュニケーション	イタリア語コミュニケーションA	4	3	専門科目・必修（言語）
		イタリア語コミュニケーションB	4	3	
	異文化理解	イタリア語圏の基礎知識	2	1	専門科目・必修（地域研究）
		日伊比較文化	2	1	
		イタリア地域比較概論	2	2	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		イタリア語教育法A	2	3	
		イタリア語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法 A・B は必ず単位を修得してください。英語教育法 C・D は可能な限り単位を修得してください。

免許教科　外国語（ロシア語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当年次	備考
教科に関する専門的事項	ロシア語学	ロシア語学概論A	2	2	専門科目・選択（言語）
		ロシア語学概論B	2	2	
	ロシア語文学	ロシア語圏の文学と芸術A	2	2	専門科目・選択（地域研究）
		ロシア語圏の文学と芸術B	2	3	
	ロシア語コミュニケーション	ロシア語コミュニケーションA	4	3	専門科目・必修（言語）
		ロシア語コミュニケーションB	4	3	
	異文化理解	ロシア語圏の基礎知識A	2	1	専門科目・必修（地域研究）
		ロシア語圏の基礎知識B	2	1	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		ロシア語教育法A	2	3	
		ロシア語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法 A・B は必ず単位を修得してください。英語教育法 C・D は可能な限り単位を修得してください。

2-3 大学が独自に設定する科目 (131ページ参照)

教職課程

本学における授業科目	単位	配当年次	備　考
道徳の理論と指導 ※1	2	2･3	卒業要件に含まない 教職課程科目
人権と教育 ※2	2	1	
多文化理解と人権 ※2	2	1	
教育の課題	2	2	
コミュニケーションの心理	2	2	卒業要件科目
臨床心理学	2	2	全学共通科目 (教養科目)
青少年の行動と心理	2	1	
グローバル化とジェンダー	2	2	
コーチングの理論	2	2	
学校経営と学校図書館	2	3	
学校図書館メディアの構成	2	2	
学習指導と学校図書館	2	3	卒業要件に含まない 学校図書館司書教諭課程科目 ※3
読書と豊かな人間性	2	3	
情報メディアの活用	2	2	
必要単位数　「中一種」：4 単位、「高一種」：12 単位			

	履修上の注意事項
注 1	※ 1 の「道徳の理論と指導」は、「中一種」免許状を取得する場合、必ず履修しなければなりません。
注 2	※ 2 の「人権と教育」「多文化理解と人権」は、履修することが望ましい授業科目です。いずれも教養科目の授業科目で、卒業要件の単位に含めることができます。
注 3	※ 3 の科目は、学校図書館司書教諭の専門科目でもあります。卒業要件の単位には含みません。(145 ページ参照)

よくある質問

Q 免許状を取得する場合、1 年次生から履修すべき科目はありますか。

A 大学が独自に設定する科目の中で、1 年次生が履修できる「人権と教育」「多文化理解と人権」は、履修することが望ましい科目です。また、「健康科学の実践と理論」「日本国憲法」「情報技術の実践」は、免許状を取得するために必要な科目です。

3 介護等体験

※中一種免（英語・国語）の取得を希望する人は、「介護等体験」が義務づけられています。

介護等体験は、教育職員を志す人が、障害者や高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験を通じて「個人の尊厳と社会連帯の理念」を深めることを目指すとともに、教育を担う人に求められる幅広い社会観・人生観がもてるよう、人間的に成長できるきっかけを得るために行うものです。

介護等体験は、以下の実習要領に基づいて行います。

介護等体験実習要領	
①	本学における授業科目「特別な教育的ニーズの理解と支援」（132 ページ参照）の単位を修得後に体験を行います。
②	原則として、３年次（在学５学期目）に行います。 教職課程を辞退した場合でも、それまでに介護等体験の申込みをした人は体験を辞退できませんので、十分注意してください。
③	体験期間は７日間（特別支援学校２日間、社会福祉施設等５日間）とします。 体験先や時期は、都道府県により希望できる場合とできない場合があります。申込み後は、決定通知で体験日時を確認し、スケジュール管理には十分注意してください。 なお、体験を行うにあたり、体験費用の納入が必要となります。金額や納入時期は受入先の学校や施設によって異なります。
④	体験は本学より一括して、各都道府県教育委員会（特別支援学校）および各都道府県社会福祉協議会（社会福祉施設）に受け入れを依頼します。 ＜体験までの流れ＞ 1. 春学期または秋学期に、「特別な教育的ニーズの理解と支援」を履修し、単位を修得する。 2. 春学期または秋学期に開催する「介護等体験に関するオリエンテーション」に参加する。 3. ６月または 10 月中旬から開催する都道府県別の「介護等体験申込みオリエンテーション」に参加する。 ※ 2 および 3 は同時に実施する場合があります。また、対象者には Gmail で連絡します。 4. ３年次（在学５学期目）の５月下旬から特別支援学校および社会福祉施設等の計 2 カ所で体験を行う。
⑤	体験後、体験校・施設において**「介護等の体験に関する証明書」**が発行されますので、卒業年次の免許状申請時まで大切に保管してください。紛失した場合、再発行されませんので、注意してください。

介護等体験先の連絡について

Gmailで連絡します。

体験場所・体験日・体験先への持ち物など重要なお知らせは、個別に Gmail で連絡しますので、転送設定をするなどして、必ずメールをチェックしてください。

介護等体験と留学について

留学（派遣・認定・休学）を検討している人は、体験先・体験時期の変更が可能です。準備の段階から教育支援課へ相談してください。

4 教育実習

教育実習は、教育職員を志す人が、学校教育の現場をあらかじめ体験および研究する唯一の機会といえます。大学で学んだ知識や理論を生かして、教師という職務の重大さ、社会における使命感を十分に自覚して実習に臨んでください。

教育実習は以下の要領に基づいて行います。また、本学では、実習に参加するためには、3年次の秋学期（在学6学期目）終了までに教育実習参加資格を満たす必要があります。

①	原則として、**4年次（在学7学期または8学期目）**に実習を行います。
②	教科は日本語学科が「国語」、それ以外の学科は原則として「英語」で実習を行います。※英語または国語以外の言語（専攻語）で実習を予定している学生は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。
③	実習期間は原則3週間以上とします。「高一種」のみの場合は2週間以上とします。
④	実習校については、原則として自己開拓による母校実習としています。実習を行う前年度に、出身中学校または出身高等学校に交渉して各自で実習の内諾を得てください。手続きについては、3年次（在学5学期目）の4月下旬に開催する「教育実習内諾オリエンテーション」で説明します。 ただし、一部の地域では教育委員会が実習校を配当校制により決定しますので、学生が実習の内諾を得ることはできません。 配当校制度の詳細は、教育支援課で確認してください。

教育実習参加資格

教育実習を行うためには、以下のⒶ、Ⓑ両方の条件を満たすことが必要です。

Ⓐ教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）（132ページ参照）

以下の授業科目の単位を3年次の秋学期（在学6学期目）終了時までに修得してください。

1.「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」
2. 免許教科（英語）の人は「英語教育法A～D」
   免許教科（国語）の人は「国語教育法A～D」
   免許教科（英語・国語）以外の人は、専攻語の「○○語教育法A・B」
   ただし、免許教科（英語・国語）以外の人が、英語で教育実習を行う場合は、専攻語の○○語教育法の他、英語教育法の単位を修得してください。

注：派遣・認定留学等にともない教育実習を行う前年度末（3月31日）までに、教育実習参加資格の単位が修得できない場合は、事前に教育支援課へ申し出てください。

Ⓑ教育実習を行う場合の語学力の基準

教育実習を行う場合の語学力の基準を3年次（在学6学期目）終了時（3月31日）までに取得してください。語学力の基準は、専門科目（選択）のアドバンストの履修基準と同じです。(89ページ参照)
なお、UNIPA　に表示している以外のスコアを取得している場合は、3年次終了までに取得したスコアの証明書を教育支援課に提出してください。

取得する免許教科で教育実習を行う場合

免許教科のアドバンストの履修基準を3年次（在学6学期目）終了時までに取得してください。
なお、**免許教科が国語の人**は、教科に関する専門的事項の授業科目（必修）の単位（135ページ参照）を3年次終了時までに修得してください。

専攻語で教育実習を行わない場合（英語で教育実習を行う場合）

スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語・ロシア語学科の人が英語で教育実習を行う場合は、所属する学科が指定する専門科目（選択）のアドバンストの履修基準、および英語の専門科目（選択）のアドバンストの履修基準の両方を取得してください（89ページ参照）。

※教育実習参加資格を満たせなかった場合

参加資格を満たせなかった場合は、実習校に対して教育実習辞退の手続きが必要です。教育実習辞退と同時に教職課程辞退の手続きを行いますので、必ず教育支援課へ連絡してください。

5 専攻語以外の免許状取得

専攻語以外の免許教科（英語または国語）の免許状を取得することができます。

英米語学科以外の人が英語の免許状を、日本語学科以外の人が国語の免許状を取得するためには、下表の条件を満たす必要があります。

申請および詳細の説明は、「専攻語以外の教員免許状取得オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で行いますので必ず参加してください。

なお、時間割、履修登録、留学等の状況により、免許状が取得できない場合があります。

※教職課程の登録は、2年次春学期のみです（130ページ参照）。

対象：英米語学科以外の人

外国語（英語）の免許状を取得する場合	
2年次から履修する場合	1年次（在学2学期目）終了までに以下の基準を満たすことが必要です。
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験予定の人。
②	・1年次配当の専門科目（必修）の単位をすべて修得済みであること。 ・1年次配当の全学共通科目（外国語科目）の単位をすべて修得済みであること。 （1年次配当の全学共通科目（外国語科目）は、英語の単位を修得することが望ましい。） ・専門科目（選択）4単位以上を修得済みであること。 ※ブラジルポルトガル語学科生を除く
③	3年次（在学6学期目）終了までに141ページ記載の免許教科（英語）の教育実習参加資格を満たすこと。

対象：日本語学科以外の人

国語の免許状を取得する場合	
2年次から履修する場合	1年次（在学2学期目）終了までに以下の基準を満たすことが必要です。
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験する予定の人。
②	・1年次配当の専門科目（必修）の単位をすべて修得済みであること。 ・1年次配当の全学共通科目（外国語科目）の単位をすべて修得済みであること。 ・専門科目（選択）4単位以上を修得済みであること。 ※ブラジルポルトガル語学科生を除く
③	3年次（在学6学期目）終了までに141ページ記載の免許教科（国語）の教育実習参加資格を満たすこと。

6 教育職員免許状申請の手続き

免許状は、都道府県の教育委員会が授与します。授与された免許状は、すべての都道府県において効力を有します。

(1) 卒業時に免許状の取得を希望する場合

4年次（在学 8 学期目）の課程履修者は「本籍地確認及び介護等体験証明書提出オリエンテーション」と「教育職員免許状申請オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加し、必要な書類を提出してください。申請にあたり、授与手数料の納付が必要となります。

本学が一括して京都府教育委員会に免許状の申請を行い、学位記授与式当日に免許状を授与します。

なお、所定期間に書類を提出できない場合は、その旨を教育支援課へ連絡してください。

(2) 個人申請

「教育職員免許状申請オリエンテーション」を無断で欠席した場合や書類の提出を怠った場合は、卒業後に個人で申請することになります。申請手続きについては、各都道府県で申請様式が異なり、かつ申請から交付まで相当の日数（最長数ヵ月）がかかります。詳しくは、申請する教育委員会へ直接問い合わせてください。

7 教職課程履修についての注意事項

教職課程を履修するうえで重要なのは、4 年間の履修計画です。

1 年次の秋学期から教職課程の一部の科目を履修することができますが、2 年次・3 年次と複数年計画で実習参加資格の科目を履修するようにしてください。卒業要件の単位も充足させながら、教職課程の履修を進めてください。

また、教育職員を目指すうえで必要な教育支援活動（教育現場でのボランティア活動）などの時間も必要となってきますので、時間を調整して活動してください。

小学校教諭免許状取得支援プログラム <外国語学部生対象>

このプログラムの目的は、キャリア支援の一環として、在学中に小学校教諭免許の取得に必要な科目の単位修得を支援することにあります。

このプログラムは、佛教大学通信教育課程が提供する小学校教諭免許状（一種または二種）の取得に必要な科目を科目等履修生として履修することで、本学卒業後に小学校教諭免許状（一種または二種）を取得することができます。ただし、本学の教職課程で中学校または高等学校教諭一種免許状を取得し、小学校教諭免許状取得に必要な単位を修得する必要があります。

1 出願資格

募集人員は20名　面接および GPA 評価により選考します。

出願時に次の 1 ～ 4 のすべてに該当する1年次生

1	教職課程を登録している人または、登録予定の人
2	通算の GPA が、2.0 以上の人
3	教職に就くことを強く希望し、教員採用試験の受験を誓約できる人
4	在学中は、1 年以上の留学 (派遣・認定) をしないことに同意できる人

このプログラムに参加する人は、年度ごとに教育支援課による履修指導を受ける必要があります。
※各自の履修状況によっては卒業時に免許状を取得できない場合もあります。

2 受講料等

	佛教大学	
取得できる免許状	**一種免許状**	**二種免許状**
修得単位数	47 単位	29 単位
履修費（予定）（スクーリング参加のための交通費・宿泊費は除く）	約 500,000 円（※）（別途テキスト代約 40,000 円）	約 350,000 円（※）（別途テキスト代約 22,000 円）
スクーリング科目	4 科目	3 科目
スクーリング会場	佛教大学	
修了試験会場	佛教大学　その他全国で開催	
所在地	〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96	

（※）一旦納入した受講料などは返金できませんので、注意してください。

3 オリエンテーションの開催

小学校教諭免許状取得プログラムオリエンテーション（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で、プログラムの内容および出願方法について詳しく説明します。

※介護等体験の申込手続きは本学で行います。

4 教員免許状の申請

小学校教諭免許状については、本学卒業後、出身の都道府県教育委員会へ個人申請することにより免許状が授与されます。なお、申請方法については、4 年次秋学期（在学 8 学期目）に行う「小学校教諭免許状申請オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で説明します。

学校図書館司書教諭課程

<外国語学部生対象>

小学校・中学校・高等学校の図書館で専門的職務を行うのが「学校図書館司書教諭」です。司書教諭は、教諭をもって充て、さらに司書教諭の講習を修了した人でなければなりません。本学で、司書教諭の資格を取得するために開設しているのが、学校図書館司書教諭課程です。

※学校図書館司書教諭課程の科目の単位を修得するだけでは、学校図書館司書教諭課程に必要な資格条件を満たしたことにはなりません。必ず教育職員免許状も同時に取得する必要があります（130 ページ参照）。

1 学校図書館司書教諭課程の登録

（1）課程登録

学校図書館司書教諭課程は、2 ～ 4 年次春学期（休学・留学中の学生を含む）のみの登録となります。

※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

（2）オリエンテーションへの参加

「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション（新規登録者対象）」に必ず参加してください。

オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録を認めないことがありますので、十分注意してください。

（3）留学・休学をする場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

（4）学校図書館司書教諭課程の辞退

学校図書館司書教諭課程を進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 学校図書館司書教諭課程の科目

下表の**本学における授業科目を全て履修し、10 単位**を修得してください。

	学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次
必修科目	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	3
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	3
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2
	合　計	10	合　計	10	

登録上の注意事項

学校図書館司書教諭課程の必修科目は、2 ～ 4 年次に登録できる単位数の上限（年間 48 単位）を超えて履修登録することができます。

3 修了証書の交付

教育職員免許状を授与された学生が、「学校図書館司書教諭課程」で定められた科目の単位を修得し、4年次（在学 7・8 学期目）に学校図書館司書教諭講習修了証申請オリエンテーションで所定の申請手続を行った場合、学校図書館法に基づき文部科学省から卒業の約1年後に学校図書館司書教諭講習修了証書が交付されます。

図書館司書課程

＜学部生対象＞

公立または私立図書館で職員として専門業務を行うためには、図書館法で定める「司書」の資格が必要です。本学で司書の資格を取得するために開講しているのが、図書館司書課程です。

1 図書館司書課程の登録

(1) 課程登録

司書課程は、2 年次春学期または 3 年次春学期（休学・留学中の学生を含む）の登録となります。

※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) 1年次からの履修

1年次の秋学期（在学 2 学期目）に一部の図書館司書課程の科目を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1 年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加してください。

1 年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる授業科目は「図書館情報技術論」の 1 科目ですが、1 年次の春学期（在学 1 学期目）終了時点で通算の GPA が 2.0 未満の場合は、図書館司書課程の必修科目「図書館情報技術論」を、登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの参加

「図書館司書課程オリエンテーション（新規登録者対象）」に必ず参加してください。

図書館司書課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学する場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

(5) 図書館司書課程の辞退

図書館司書課程を登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 図書館司書課程の科目

下表の本学における授業科目から**必修科目を 22 単位、選択科目から2科目以上を選択して4単位以上、あわせて 26 単位以上**を修得してください。

外国語学部・国際貢献学部共通

	図書館法施行規則に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次	備考
甲群（必修科目）	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	全学共通科目（教養科目）
	図書館概論	2	図書館概論	2	2	
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	2	
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	1	
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	2	
	情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
	児童サービス論	2	児童サービス論	2	3	
	情報サービス演習	2	情報サービス演習	2	2	※ 1
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	2	
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	3	
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	2	3	※ 2
乙群（選択科目）	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	2	2	
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論	2	3	
	図書館施設論	1	図書館施設論	2	2	
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	2	3	
	合計	24	必要単位数	26		

⚠ 履修上の注意事項	
注 1	図書館司書課程の必修科目の「生涯学習概論」以外は、1 年間に登録できる単位数の上限 48 単位を超えて履修登録することができます。
注 2	2・3 年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。
注 3	※ 1 の科目を履修するには、「情報サービス論」を履修していること。 ※ 2 の科目を履修するには、「情報資源組織論」を履修していること。

3 図書館司書課程修了証書の交付

図書館司書課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「図書館司書課程修了証書」を交付します。

博物館学芸員課程

＜学部生対象＞

公立または私立の博物館に専門的職員として従事するためには、博物館法により「学芸員」の資格を取得しなければなりません。本学で学芸員の資格を取得するために開講しているのが、博物館学芸員課程です。

1 博物館学芸員課程の登録

(1) 課程登録

博物館学芸員課程は、2 年次春学期または 3 年次春学期（休学・留学中の学生を含む）の登録となります。

博物館学芸員課程を登録するにあたって、課程登録を行った年次に登録履修費として 10,000 円（予定）を納入する必要がありますが、登録履修費は課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

登録履修費のほか、博物館実習（館園実習）において、実習館によっては費用（実習費）が発生する場合があります。

※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) 1年次からの履修

1年次の秋学期（在学 2 学期目）に一部の博物館学芸員課程科目を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1 年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加してください。

1 年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は「博物館概論」の 1 科目ですが、1 年次の春学期（在学 1 学期目）終了時点で、GPA が 2.0 未満の場合は、博物館学芸員課程の必修科目「博物館概論」を、登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの参加

「博物館学芸員課程オリエンテーション（新規登録者対象）」に必ず参加してください。

博物館学芸員課程に関する各オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録および継続を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

(5) 博物館学芸員課程の辞退

博物館学芸員課程を進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 博物館学芸員課程の科目

下表の本学における授業科目から**必修科目20単位、選択科目8単位**を修得してください。

外国語学部・国際貢献学部共通

	博物館法施行規則に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次	備考
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	全学共通科目(教養科目)
	博物館概論	2	博物館概論	2	1	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	3	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3	
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	2	
			博物館実習Ⅱ	1	3	
			博物館実習Ⅲ	1	3	注3
	合計	19	必要単位数(必修科目)	20		
選択科目			京都文化論A	2	1	全学共通科目(教養科目)
			京都文化論B	2	1	
			京都の伝統文化A	2	2	
			京都の伝統文化B	2	2	
			考古学	2	2	
			人類学	2	2	
			ミュージアムマネジメント(PBL)	2	2	
			美術史	2	2	
			必要単位数(選択科目)	8		
			必要単位数合計	28		

	履修上の注意事項
注1	博物館学芸員課程の必修科目の「生涯学習概論」以外は、1年間に登録できる単位数の上限48単位を超えて履修登録することができます。
注2	2・3年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。
注3	「博物館実習Ⅰ」「博物館実習Ⅱ」を履修していること。

3 博物館実習

博物館実習は、受入れ側の博物館等と本学との綿密な計画のもとに実施しますので、所定の手続きや指導事項および書類の提出期限を厳守してください。また、本学では実習に参加するために、実習時期に応じて実習参加資格を満たす必要があります。

詳細は「博物館実習内諾オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で説明します。

博物館実習参加資格

実習期間	参加資格を満たす時期	参加資格
春学期（4月1日～8月31日）	前年度終了時まで	「博物館概論」「博物館資料論」「博物館教育論」「博物館展示論」「博物館実習Ⅰ」の単位を修得済みで、選択科目の4科目8単位以上を修得済みであること。
秋学期（9月1日～翌年3月31日）	当該年度の春学期終了時まで	

4 実習館の選択

実習館は下表の「A本学指定の実習館」「B出身地等に所在する博物館等（個人交渉）」のいずれかを選択しなければなりません。

なお、「A本学指定の実習館」では、受入れ人数に制限がありますので、実習を希望する人が多い場合は、選考を行うことがあります。

また、本学指定の実習館であっても、年度によっては受入れがない場合があります。

【注】A・Bいずれの場合も内諾を得た後に、博物館実習を辞退することはできません。

A 本学指定の実習館

都道府県	実習館	住所	
京都府	京都府立山城郷土資料館	〒619-0204	相楽郡山城町上狛千両岩
	霊山歴史館	〒605-0861	京都市東山区清閑寺霊山町1
	京都市考古資料館	〒602-8435	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
	京都清宗根付館	〒604-8811	京都市中京区壬生賀陽御所町46-1
滋賀県	滋賀県立陶芸の森陶芸館	〒529-1804	甲賀市信楽町勅旨2188-7
兵庫県	神戸市立博物館〔神戸市出身の学生に限る〕	〒650-0034	神戸市中央区京町24
	芦屋市立美術博物館	〒659-0052	芦屋市伊勢町12-25
大阪府	堺市博物館〔堺市在住の学生に限る〕	〒590-0802	堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁目
静岡県	伊豆シャボテン動物公園	〒413-0231	伊東市富戸1317-13
長野県	小さな絵本美術館	〒394-0081	岡谷市長地権現4-6-13

B 出身地等に所在する博物館等

学生が出身地等に所在する博物館等で実習することができますが、その場合は、本人がホームページ等で申請期間等を確認のうえで、内諾交渉を行う必要があります。ただし、内諾交渉や実習のために定期試験を欠席した場合は、追試験を認めませんので、十分注意してください。

5 博物館実習の評価

博物館実習の評価は、実習館から報告される「博物館実習成績報告票」の評価と「博物館実習Ⅲ」の成績に基づき総合的に評価します。実習を行う年度に留学する場合は、事前に教育支援課で相談のうえ、履修登録してください。

春学期（4月 10 日から7月 31 日）に実習を行った場合は、「博物館実習Ⅱ」の成績も評価の対象となります。

6 国際文化資料館の利用

国際文化資料館（10 号館４F）は、通常の博物館業務とともに博物館学芸員課程における生きた実習の場として日常的に活用してください。

7 博物館学芸員課程修了証書の交付

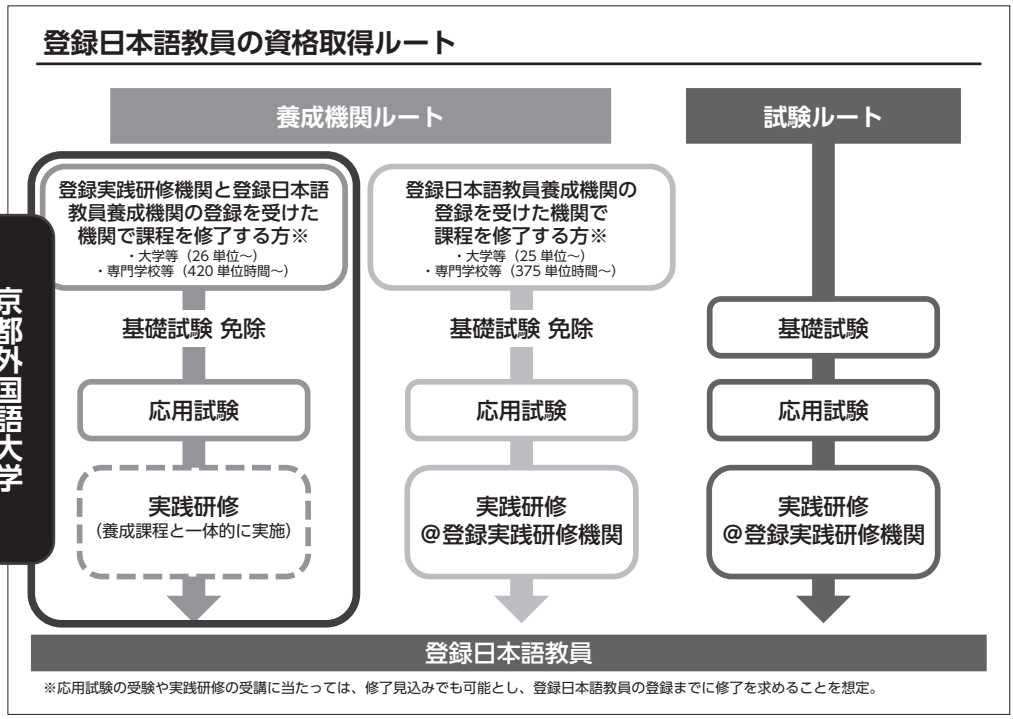
博物館学芸員課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「博物館学芸員課程修了証書」を交付します。

日本語教員養成課程

<日本語学科生対象（編入学生を除く）>

「登録日本語教員」として登録を受けるためには、「日本語教員試験」（国家試験）に合格するとともに登録実践研修機関で実践研修を修了する必要があります。本学の日本語教員養成課程を修了した人は、文部科学省への申請により日本語教員試験の基礎試験が免除されます。この申請により日本語教員試験の基礎試験を免除されたうえで応用試験を受験し合格した人は、試験出願時に登録されたマイページ内から合格証書のダウンロードが可能です。登録日本語教員の登録申請については、文部科学省ホームページより「登録日本語教員の登録申請の手引き」を確認してください。

＜文部科学省　登録日本語教員の登録等に関すること＞
https://www.mext.go.jp/a_menu/nihongo_kyoiku/mext_02668.html



引用：文化庁 登録日本語教員の資格取得ルート

1 日本語教員養成課程の登録

(1) 課程登録

日本語教員養成課程は、 2年次春学期のみの登録（休学・留学中の学生を含む）となります。登録希望者は「日本語教員養成課程オリエンテーション」に必ず参加し、所定の手続きを行ってください。

課程を登録するにあたっては、登録履修費として 10,000 円を納入する必要があります。

なお、課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

また、時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) オリエンテーションへの参加

登録日本語教員の制度概要、課程を修了するために必要な単位などの注意事項を「日本語教員養成課程オリエンテーション」で説明しますので、必ず参加してください。

(3) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学を希望している場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。課程の履修計画（教壇実習を含む）について、個別に説明します。

なお、課程登録者が派遣留学・認定留学に伴い、単位の認定を希望する場合は、「派遣留学・認定留学に伴う単位認定」の 188 ページに記載の内容を必ず事前に確認してください。

(4) 日本語教員養成課程の辞退

進路変更などにより途中で課程を辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。一度、登録を辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 日本語教員養成課程に関する科目・単位数

課程を修了するためには、以下の授業科目（計 36 単位）をすべて修得する必要があります。

	授業科目名	単位数	配当年次	備考
養成課程	日本語教育の基礎知識Ａ	2	1	専門科目・必修
	日本語教育の基礎知識Ｂ	2	1	専門科目・必修
	日本語学の基礎知識Ａ	2	1	専門科目・必修
	日本語学の基礎知識Ｂ	2	1	専門科目・必修
	日本語音声表現法	2	1	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育実習入門Ⅰ	2	1	専門科目・選択（日本語教育領域）
	言語学概論Ａ	2	2	専門科目・必修
	言語学概論Ｂ	2	2	専門科目・必修
	日本語教育文法Ａ	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	社会言語学	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教授法	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	第二言語習得論	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育と異文化理解Ａ	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育と異文化理解Ｂ	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語学特論Ｂ	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育の心理学	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育と ICT	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
実践研修	日本語教育実習（教壇実習を含む）	2	4	専門科目・選択（日本語教育領域）
	合　計	36		

	単位修得上の注意事項
注 1	原則として、実践研修科目「日本語教育実習」を履修するには、３年次秋学期（在学６学期）終了までに、すべての養成課程科目（17 科目 34 単位）を修得しておく必要があります。
注 2	実践研修科目「日本語教育実習」は、春・秋学期に開講しますが、履修はいずれかの学期に限ります。従って、４年次春学期（在学７学期目）の「日本語教育実習」が不合格になった場合は、４年次秋学期（在学８学期目）の「日本語教育実習」を再履修することはできません。

3 教壇実習（実践研修科目「日本語教育実習」内で実施）

① 実習参加資格

実習に参加するためには、3年次秋学期（在学6学期）終了までに、本学が指定する養成課程科目17科目34単位をすべて修得しておく必要があります。上記の資格を満たせない場合は、実践研修科目「日本語教育実習」を履修することができないため、在学時には実習を行うことができなくなります。

② 実習は4年次の春学期（在学7学期目）または秋学期（在学8学期目）に行います。

③ 実習は45分×2回とします。

④ 実習先は、以下のとおりです。

⑤ 登録履修費（10,000円）とは別に、教壇実習費を納入する必要があります。

実習機関名	教壇実習費
京都民際日本語学校（本学提携機関）	70,000円

※実習参加資格を満たせなかった場合

原則として日本語教員養成課程の辞退手続きを行いますので、必ず教育支援課へ連絡してください。

なお、特別な理由（留学等）があり、日本語学科が課程継続の意欲があると判断した場合は、継続の措置をとることがあります。

ただし、在学中に「日本語教育実習（4年次春・秋学期配当）を履修できない場合があります

4 修了証の発行（養成課程・実践研修）

日本語教員養成課程の修了者を対象に「養成課程修了証書」および「実践研修修了証書」を学位記授与式当日に交付します。

なお、日本語教員養成課程を修了見込みであり、本学を卒業見込みの状況で日本語教員試験を受験し合格した場合は、試験が実施された翌年の4月までに養成課程修了証書（写）を文部科学省へ提出する必要があります。期限までに当該証書を提出しなければ合格は取り消されますので、注意してください。

5 日本語教員養成推進

日本語教員養成推進室（6号館1階）には、日本語教員養成課程を履修する人のために、アドバイザーを配置し、書籍や教材・素材などを用意しています。主に、次のような学生への支援・アドバイスを行います。

・日本語教育全般に関するアドバイス
・日本語教育関連の授業活動支援（模擬授業準備・教材作成など）
・学内外での日本語教育ボランティア活動支援
・国内外の日本語教育実習プログラムへの支援
・各種行事の開催（学習会、日本文化紹介のための研修会など）
・グループ学習・活動のための環境提供（日本語教育関連図書、PC、プリンターなど設置）

日本語教員養成推進室は同志の集いの場であり、相互に学び合う場でもあります。日本語教育分野専門科目での学びと共に、多文化共生時代に対応できる日本語教員を目指すみなさんを支援します。